

官報

號外

昭和二年三月十一日 金曜日

内閣印刷局

○第五十二回衆議院議事速記録第二十三號

昭和二年三月十日(木曜日)午後一時二十分開議

議事日程 第二十二號

昭和二年三月十日
午後一時開議

- 第一 勞働組合法案(政府提出) 第一讀會
- 第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第三 大正十四年法律第五十一號中改正法律案(關東州ノ生産品輸入稅免除ノ件)(政府提出) 第一讀會
- 第四 關稅定率法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第五 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第六 鑛業法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第八 土地收用法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會
- 第九 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第十 王公族ヨリ内地ノ家ニ入リタル者及内地ノ家ヲ去リ王公家ニ入リタル者ノ戶籍等ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會
- 第十一 不動産登記法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第十二 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

- | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|---------------------|-----------------|----------------------|---------------------|-------------------------------|------------------|--|-----------------|---------------------|------------------|----------------------|-------------------|----------------------|---------------|-------------------|------|
| 大正十三年度第一豫備金支出ノ件 | 大正十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件 | 大正十四年度第二豫備金支出ノ件 | 大正十四年度豫備金外ニ於テ豫算外支出ノ件 | 大正十四年度特別會計第二豫備金支出ノ件 | 大正十四年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件 | 臨時軍事費特別會計豫備金支出ノ件 | 自大正六年二月二十六日至大正九年六月二十五日臨時軍事費特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過支出ノ件 | 大正十四年度第一豫備金支出ノ件 | 大正十四年度特別會計第一豫備金支出ノ件 | 大正十五年年度第二豫備金支出ノ件 | 大正十五年年度特別會計第二豫備金支出ノ件 | 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 | 家畜傳染病豫防法中改正法律案(政府提出) | 第一讀會ノ續(委員長報告) | 商法中改正法律案(三浦數平君提出) | 第一讀會 |
|-----------------|---------------------|-----------------|----------------------|---------------------|-------------------------------|------------------|--|-----------------|---------------------|------------------|----------------------|-------------------|----------------------|---------------|-------------------|------|

- 第十八 恩給法中改正法律案(長峰與一君外三名提出) 第一讀會
- 第十九 恩給法中改正法律案(松賀喜代太君外三名提出) 第一讀會
- 第二十 恩給法中改正法律案(一柳仲次郎君外六名提出) 第一讀會
- 第二十一 恩給法中改正法律案(山根儀重君外八名提出) 第一讀會
- 第二十二 治安警察法中改正法律案(山根儀重君外四名提出) 第一讀會
- 第二十三 大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法中改正法律案(坂東幸太郎君外三名提出) 第一讀會
- 第二十四 架空索道ノ抵當ニ關スル法律案(清瀬一郎君提出) 第一讀會
- 第二十五 被害水田改良事業助成法案(星廉平君外一名提出) 第一讀會
- 第二十六 金鷄勳章年金ニ關スル法律案(古川清君外二名提出) 第一讀會
- 第二十七 北海道御料拂下地免租年期ニ關スル法律案(東武君外三名提出) 第一讀會
- 第二十八 著作權法中改正法律案(內ヶ崎作三郎君外六名提出) 第一讀會
- 第二十九 借地法中改正法律案(作間耕逸君外二名提出) 第一讀會
- 第三十 大正十二年法律第五十二號中改正法律案(司法官試補及辯護士ノ資格ニ關スル件)(橫山勝太郎君外八名提出) 第一讀會
- 第三十一 大正十五年法律第七十四號中改正法律案(市制中改正ノ件)(坂東幸太郎君外五名提出) 第一讀會
- 第三十二 大正十五年法律第七十五號中改正法律案(町村制中改正ノ件)(坂東幸太郎君外五名提出) 第一讀會

- 第三十三 大正十五年法律第七十六號中改正法律案(北海道會法中改正ノ件)(坂東幸太郎君外五名提出)
 - 第三十四 家祿賞典祿給與未濟ニ關スル法律案(福田五郎君外八名提出) 第一讀會
 - 第三十五 出版權法案(山口恒太郎君外九名提出) 第一讀會
 - 第三十六 信託業法中改正法律案(牧野良三君外二名提出) 第一讀會
 - 第三十七 民法施行法中改正法律案(大石大君提出)
 - 第三十八 地租條例中改正法律案(大石大君提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
 - 第三十九 商法中改正法律案(土屋清三郎君提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
 - 第四十 未成年者飲酒禁止法中改正法律案(竹原樸一君外十六名提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
 - 第四十一 牧野法案(八田宗吉君提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
 - 第四十二 造林助成法案(川崎安之助君外十一名提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 議長(粕谷義三君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス
〔書記官朗讀〕
一昨九日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ議案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ
不良住宅地區改良法案(政府提出)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
森林火災保險ニ關スル建議案

提出者

川崎安之助君 土井 權大君

田中 隆三君 東 武君

松浦五兵衛君 谷口源十郎君

若宮 貞夫君 東郷 實君

中野猪之助君 吉松 忠敬君

村山喜一郎君

林業金融ニ關スル建議案

提出者

川崎安之助君 土井 權大君

田中 隆三君 東 武君

松浦五兵衛君 谷口源十郎君

若宮 貞夫君 東郷 實君

中野猪之助君 吉松 忠敬君

村山喜一郎君

朝鮮ニ於ケル砂防事業促進ニ關スル建議案

提出者

川崎安之助君 土井 權大君

田中 隆三君 東 武君

松浦五兵衛君 谷口源十郎君

若宮 貞夫君 東郷 實君

中野猪之助君 吉松 忠敬君

村山喜一郎君

太陽觀測所設立ニ關スル建議案

提出者

宮崎縣ニ國立種禽場設置ニ關スル建議案

提出者

長峰 與一君 陣 軍吉君

佐藤 重遠君 吉松 忠敬君

永井 作次君

北海道追直漁港修築ニ關スル建議案

提出者

栗林 五朗君 奥野小四郎君

本多貞次郎君 原 夫次郎君

丸山 浪彌君

森林道路法制定ニ關スル建議案

提出者 永田善三郎君

書道振興獎勵ニ關スル建議案

提出者

東 武君 熊谷 直太君

秋田 清君

米澤日中間鐵道速成ニ關スル建議案

提出者

齋藤 金吾君 宮島幹之助君

郡市町村農會技術員費國庫補助増額ニ關スル建議案

提出者

加藤政之助君 荒川 五郎君

川崎安之助君 谷口宇右衛門君

村山喜一郎君 東 武君

長田 桃藏君 高山 長幸君

八田 宗吉君 山内 範造君

土井 權大君 松浦五兵衛君

三輪市太郎君 植場 平君

池田 龜治君 東郷 實君

山口 左一君 松山兼三郎君

岡田 溫君 西村丹治郎君

自作農維持創設資金制度確立ニ關スル建議案

提出者

加藤政之助君 荒川 五郎君

川崎安之助君 谷口宇右衛門君

村山喜一郎君 東 武君

長田 桃藏君 高山 長幸君

八田 宗吉君 山内 範造君

土井 權大君 松浦五兵衛君

三輪市太郎君 植場 平君

池田 龜治君 東郷 實君

山口 左一君 松山兼三郎君

岡田 溫君 西村丹治郎君

鯖大鐵道建設速成ニ關スル建議案

提出者 猪野毛利榮君

越美線速成ニ關スル建議案

提出者

猪野毛利榮君

（以上三月十日提出）

（左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ参照ノ爲

茲ニ掲載ス）

一昨八日辭任シタル常任委員左ノ如シ

第一部豫算委員 板野 友造君

第一部決算委員 關 俊吉君

第九部決算委員 木暮武太夫君

第八部決算委員 山田 助作君

一昨八日理事補選結果左ノ如シ

出版物法案（政府提出）委員

理事 加藤 知正君（理事今里準太郎

君昨七日辭任ニ付其ノ補闕）

九州製鋼株式會社ノ工場等ノ買收代金ニ

關スル法律案（政府提出）委員

理事 加藤十四郎君（理事大里廣次郎

君今八日辭任ニ付其ノ補闕）

未成年者飲酒禁止法中改正法律案（竹原

撲一君外十六名提出）委員

理事 原 惣兵衛君（理事石井三郎君

今八日辭任ニ付其ノ補闕）

一昨八日出版物法案委員土生彰君辭任ニ付

其ノ補闕トシテ内ヶ崎作三郎君ヲ九州製

鋼株式會社ノ工場等ノ買收代金ニ關スル

法律案委員中村清造君大里廣次郎君辭任

ニ付其ノ補闕トシテ堀切善兵衛君加藤十

四郎君ヲ未成年者飲酒禁止法中改正法律

案委員石井三郎君辭任ニ付其ノ補闕トシ

テ原惣兵衛君ヲ牧野法案委員高橋熊次郎

君藤川清助君辭任ニ付其ノ補闕トシテ川

口義久君志賀和多利君ヲ不良住宅地區改

良法案委員高橋元四郎君辭任ニ付其ノ補

闕トシテ作間耕逸君ヲ水戸鐵道株式會社、

越後鐵道株式會社、陸奥鐵道株式會社、苦

ル法律案外一件委員浦野謙朗君辭任ニ付

其ノ補闕トシテ丸山浪彌君ヲ執レモ議長

ニ於テ選定セリ

一昨九日辭任シタル常任委員左ノ如シ

第七部決算委員 今里準太郎君

一昨九日常任委員補選結果左ノ如シ

第一部選出 大田信治郎君（關俊吉君

補闕）

第八部選出 齋藤大兵衛君（山田助作

君補闕）

第九部選出 神崎 勳君（板野友造

君補闕）

第九部選出 二木 洵君（木暮武太

夫君補闕）

一昨九日理事補選結果左ノ如シ

造林助成法案（川崎安之助君外十一名提

出）委員

理事 中村四郎兵衛君（理事宮崎友太

郎君本月七日辭任ニ付其ノ補

闕）

一昨九日國有財産整理資金特別會計法ノ特

例ニ關スル法律案外一件委員青山憲三君

前田房之助君原田藤次郎君辭任ニ付其ノ

補闕トシテ森島昶君星廉平君池田龜治君

ヲ造林助成法案委員平山爲之助君辭任ニ

付其ノ補闕トシテ工藤十三雄君ヲ九州製

鋼株式會社ノ工場等ノ買收代金ニ關スル法

律案委員服部英明君辭任ニ付其ノ補闕ト

シテ福田五郎君ヲ銀行法案外四件委員前

田房之助君辭任ニ付其ノ補闕トシテ高島

順作君ヲ出版物法案委員上原好雄君辭任

ニ付其ノ補闕トシテ原夫次郎君ヲ京都市

ニ關スル法律案外四件委員中馬與九君辭

任ニ付其ノ補闕トシテ作間耕逸君ヲ執レモ議長ニ於テ選定セリ

○議長(粕谷義三君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、御諮議致スコトガアリマス、竹原機一君病氣ニ付、三月十日ヨリ三月十九日マデ、三好榮次郎君三月十日ヨリ三月十九日マデ、右兩君ヨリ請暇ノ申出ガアリマシタ、許可スルニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス

○井本常作君 緊急質問延期ノ動議ヲ提出致シマス、即チ本日會議ノ劈頭ニ於テ、松本君平君提出、支那動亂ニ關スル緊急質問ヲ爲ス善デアリマシタガ、議事ノ都合ニ依リ、本日ハ之ヲ延期セラレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、安達内務大臣臨時代理ヨリ發言ヲ求メラレテ居リマス

〔國務大臣安達謙藏君登壇〕

○國務大臣(安達謙藏君) 先日ノ本議場ニ於キマシテ、震災ノ狀況ノ大要ヲ御話致シテ置キマシタガ、其後段々各方面カラノ情報ニ接シマシテ、其狀況ヲ詳ニスルコトヲ得マシタカラ、被害並ニ救護ノ概況ニ付キマシテ、茲ニ御報告ヲ申上ゲテ置キマス、然ルニ今回ノ震災被害ニ對シマシテ、昨九日 天皇 皇后兩陛下ヨリ御救恤金トシテ京都府ニ金五萬圓、大阪府ニ金一萬圓、御下賜ノ御沙汰ヲ拜シマシタ、更ニ土屋侍從ヲ災害地ニ御差遣相成リマシタノデアリマス、聖恩優渥ニ恐懼感激ニ堪ヘザル所デゴザイマス、震災被害ノ其後判明セル所ハ、京都府ノ與謝、中、竹野、熊野、四郡地方ニ於キマシテ死者ガ二千四百五十九名、傷

者ガ四千四百七名、全潰ノ家屋ガ三千百十九戸、半潰ノ家屋ガ千六百八十六戸、火災ノ爲ニ全焼致シマシタ所ガ二千八百十五戸、半焼ガ百五十八戸、大阪府下ニ於キマシテ死者ガ二十一、傷者ガ百二十七、全潰セル家屋ガ百一十一戸、半潰セル家屋ガ百十三戸デアリマス、兵庫縣ニ於キマシテハ、死者四、傷者五十六、全潰ノ家屋五十六戸、半潰ノ家屋ガ百六十九戸ニナツテ居リマス、鐵道ノ被害ハ、山陰本線ノ三箇所ノ不通ハ、九日ノ午後ニハ全通致シマシテ、唯、宮津線ノ丹後、山田、網野間ガ、是ガ今月ノ二十五日頃マデニ開通スル見込デアリマス、ソレカラ通信機關ノ方ニ於キマシテ、郵便局ノ局舎ガ全焼又ハ倒壊シタ所ガ五箇所アリマス、其從業員ガ家族ヲ合セマシテ、死傷者ガ十名出テ居リマス、峰山局ノ郵便局ガ全焼致シマシタ、其他四辻局ハ全焼ハ免レマシタガ、詳細ノ事情ハマダ判明致シテ居リマセヌ、郵便ノ線路ダケハ全部開通致シマシタガ、電信電話ハ今猶ホ開通セザル所ガゴザイマスガ、九日ノ午後六時マデニ宮津方面カラ特使ヲ以テ連絡シツ、アル處ガ、峰山、木津、網野、中濱、間人、或ハ加悦、口大野、石川方面デゴザイマス、内務當局ニ於キマシテハ、震災地方ノ事態ニ鑑ミマシテ、直ニ關係各局カラ官吏ヲ派遣致シマシテ、地方官ヲ督勵シ、罹災民ノ應急救護ニ努メツ、アルノデアリマス、更ニ昨九日ニ内務次官ヲ彼地ニ出張セシメマシテ、サウシテ臨機應急ノ處置ヲ講ジ、救護上ニ遺憾ナキヲ期セントシツ、アルノデアリマス、而シテ罹災民ノ救護ニ關シマシテハ、廣ク全國ノ有志ニ懇ヘマシテ、義捐ノ金品ヲ集メマスルノ必要アリト認メマシテ、地方官ニ通牒ヲ發シマシテ其處置ヲ講ゼシメ、東京ニ於キマシテモ、昨九日ノ夜内務大臣官邸ニ於キマシテ、私主催ノ下ニ義捐金募集ノ發起人タル所ノ東京

府知事、東京市長、商業會議所會頭、及各新聞社代表者ノ會合ヲ爲シマシテ、此會合ニ於テソレノ義捐金ノ募集ヲ協定致シマシテ、各新聞社ニモ依頼致シマシテ、ソレカラ大阪、兵庫、其他ノ地方ニ於キマシテモ、既ニ之ヲ始メテ居ル模様デゴザイマス、尙ホ鐵道省ニ於キマシテ、震災地方ニ對スル救恤用寄贈品ノ無貨輸送ヲ開始致シマシテ、又逋信省ニ於キマシテハ、郵便貯金ノ非常拂戻、及簡易生命保險局ニ於キマシテハ局待拂ヲ開始致シマシテ、罹災民ノ便宜ヲ圖リツ、アリマス、罹災ノ應急救護ニ關シマシテハ、現ニ京都府ニ罹災救助基金約百圓ヲ持テ居リマスルカラ、取敢ヘズ宮津町ニ震災救護出張所ヲ置キマシテ、罹災地方ニ最モ必要ナル白米五百石、「パン」三萬斤、「バラック」建築材料千五百戸分ヲ送りマシタ外ニ、尙ホ亞鉛板、白米、梅干、罐詰等ノ食料品、各種ノ日用品、及天幕、提灯、食器類等ヲ購入致シマシテ、自動車、貨物自動車等ヲ以テ配給シテ居リマス、尙ホ「バラック」材料千五百戸分ハ手配中ニ屬シテ居リマス、震災地方ハマダ積雪ガ尙ホ深クアルバカリデハゴザリマセズ、到ル所ニ通路ノ龜裂ガアリマシテ、車馬ノ交通不能ノ箇所澤山アルノデアリマス、ソレデ救護上甚シク困難ヲ感ジテ居リマスルカラ、京都府ニ於キマシテハ人夫ヲ集メマシテ、修理除雪ニ努メマスルト同時ニ、第十六師團ニ依頼致シマシテ、工兵ノ派遣ヲ求メサシテ、尙ホ各地青年團員、其他ノ有志者ヲ使用致シマシテ、極力輸送方法ノ改善ニ努メテ居リマス、家屋ノ倒壊、焼失等ノ際ニ死亡セル者ノ屍體發掘及其處置ニ付キマシテハ、消防組員、青年團員等ヲシテ之ニ當ラシメ居リマスルモ、昨日ハ豪雨ノ爲ニ作業ニ甚シキ困難ヲ感ジマシテ、未

ダ完了スルニ至ラズテ居リマセヌ、陸軍ニ於キマシテハ、京都、福知山、桃山、舞鶴、姫路等ノ各軍隊ヨリ相當ノ兵員、衛生隊等ヲ急行セシメマシテ、傷病者ノ醫療、道路ノ復舊、「バラック」ノ建造、防寒具、食糧品、堅「パン」約二萬六千人分等ノ配給、一般ノ警戒、通信連絡等ノ任ニ當ラシメテ居リマス、且ツ毛布八千枚、天幕七百張等ヲ罹災地ニ送付シテ居リマス、海軍ハ幸ニシテ舞鶴要港部ガ近クニ在リマスルカラシテ、同所ヨリ驅逐艦五隻ヲ被害地沿岸ニ派遣往復セシメマシテ、罹災民ノ救護、物資ノ配給並ニ救護材料、食料品、警察官ノ海上輸送等ニ努カシテ居リマス、是迄海軍ノ方デノ救護材料トシテ送ラレマシタノハ、毛布ガ二千二百枚、堅「パン」ガ千五百貫、罐詰類ガ千三百貫、其他治療藥品、材料等多數デアリマス、又古鐵板一千枚ヲ鐵道ニ依ツテ輸送シテ居ルト云フコトデアリマス、警視廳、神奈川縣及濟生會ニ於キマシテハ、大震災ノ際寄贈アリマシタ所ノ天幕、衣類等ノ物品ガアリマシタカラ、直ニ之ヲ送付致シマシテ、尙ホ大阪、奈良、富山、宮崎、石川、鳥取ノ各府縣等カラモ既ニ救護材料、食料品、日用品等ヲ急送シテ居リマス、警察ニ關シマシテハ、特に必要ヲ感ズルコトガ痛切デアリマスルカラ、軍隊及各府縣市赤十字社其他ノ團體ニシテ、救護班ヲ災害地ニ派遣致シマシテ、傷病者ノ救護ニ當リ居リマスルモノガ既ニ四十餘班ニ達シテ居リマス、災害地ノ警備ニ任ゼシメマス爲ニ、警視以下約五百名ノ警察官ヲ災害地ニ急派シマシテ、兼テ救護事業ニ當ラシメ居リマスガ、警戒上ニ於キマシテハ目下懸念スベキ事ハゴザイマセヌ、今回ノ震災ハ明治維新以來ニ於キマシテ、大正十二年ノ關東大震災、明治二十九年三陸ノ大海嘯、及明治二十四

年ノ濃美震災ニ亞グ災害デゴザイマシテ、被害地域ハ比較的ニ狹クアリマスケレドモ、被害ハ極メテ深刻ニゴザイマシテ、數町村ハ家屋殆ド全滅シテ居リマス爲メ、救護ニ困難ヲ感ズルコトガ少カラスノデアリマス、加フルニ同地方ハ積雪尙ホ三尺ニ達シ居ルヤウナ狀態デアリマスカラ、八日以後九日ニ互リマシテ、殊ニ風雨強ク、罹災民ノ狀況誠ニ同情ニ堪ヘザルモノガアリマス、一方積雪降雨等ノ爲メ救護作業ニモ甚シク困難ヲ感ジ、意ノ如クナラザルモノガアリマスカラ

〔少シモ分ラヌ〕何ガ分ラヌノダト
呼ヒ其他發言者多シ

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス

○國務大臣(安達謙藏君)(續) 政府ハ各方面ノ力ヲ協セマシテ、極力善後ノ處置ヲ講ズル所ガアルノデアリマス、此段御報告致シテ置キマス

○議長(粕谷義三君) 只今ノ報告ニ對シテ質疑ノ通告ガアリマス、森田茂君

〔森田茂君登壇〕

○森田茂君 關西ノ震災地並ニ京都府ノ奥丹後ニ於キマス震災ニ付キマシテ、去八日ノ本會議ニ於キマシテ内務大臣ノ演說、又昨九日特別市制ノ委員會ニ於キマシテ政府委員ノ答辯、又本日ノ本會議ニ於キマシテ内務大臣ノ御演說ニ依リマシテ、被害ノ區域及程度等ニ付キマシテハ、大體其詳カナル事ヲ知ルコトヲ得タノデアリマス、又私ノ茲ニ質問セント考ヘテ居リマスコトハ、是等ノ被害及其區域ノ問題デナクシテ、救護ト云フコトニ關シテ、政府當局ガドレマデノ御注意、サウシテドレマデノ方法ヲ盡サレタカト云フコトヲ、モウ少シ詳しく承リタイト思ウテ居ルノデアリマス、被害地ヨリノ報道、又新聞ノ記事等ニ依テ承知致ス所ニ依リマスレバ、此震災地ハ

去八日ノ夜來非常ナル暴風雨ニ襲ハレ、又續イテ出水ト云フ慘狀ヲ呈シマシテ、是等罹災民ハ飢餓ト恐怖トニ非常ニ悩マサレツツアルト云フコトヲ、頻々トシテ聞クノデアリマス、尙ホ是等ノ報道ニ依リマスレバ暴風雨ノ爲メ、或ハ出水等ノ爲ニ、折角參テ居リマス救護班モ、殆ド其施スベキ術ニ苦ミ、而シテ生存者モ亦凍死セントスルガ如キ狀態ニ在ルト云フコトヲ聞クノデアリマス、勿論是等ノ慘狀ニ付キマシテハ、官憲ニ於キマシテ、或ハ種々ノ機關ニ依リマシテ、是ガ救護サレツ、アルト云フコトハ、私共疑ハヌノデアリマスケレドモ、果シテ此寒氣、暴風雨等ニ對シマシテ、罹災民ガドウ云フ狀態ニ現在アルカト云フコトニ付キマシテハ、寒心セザルヲ得ヌ次第アルノデアリマス、此救護ト云フコトニ關シマスレバ、交通及通信ノ復舊ト云フコトモ其一ツニナラウト考ヘルノデアリマス、或ハ又米穀ノ供給、其他「バラック」等ノ建設ト云フヤウナコトモ、救護ノ一タル事ヲ失ハヌコトモ申上ゲルマデモナイノデアリマス、只今内務大臣ノ御演說ニ依リマシテ、凡ソ是等ノ事モ承知致シタノデアリマスケレドモ、私ハ此際尙ホ官憲ガ非常ナル活動ヲ以テ、是等ノ點ニ關シマシテ、萬遺憾ナキヲ望マザルヲ得ヌノデアリマスガ、此米ノ供給或ハ「バラック」ノ建設ト云フヤウナコトニ付キマシテ、内務大臣以外ノ農林省ニ於キマシテモ、相當ナル御考ガアラウト私ハ信ジマスルガ、此方面ノ御意見モ承テ見タイト思フノデアリマス、殊ニ罹災地ナルモノハ御承知ノ如ク、是ハ單純ナ農村デアリマセズ、機業地デアリマスガ故ニ、普通ノ農村ヲ救濟スルガ如キ方法ヲ以テマシテハ、此間或ハ遺憾ナキコトヲ保ズト云フ感ジモ私ハアルノデアリマス、是等ノ點ニ付キマシテハ、内務當局ニ於キマシテモ此

土地柄ト致シマシテ、普通ノ農村以上ノ注意ヲ拂ハナケレバナライ、機業地デアルト云フコトモ十分考慮ノ中ニ加ヘテ戴キタイト思フノデアリマス、内務省ニ於キマシテ或ハ次官ガ出張致シ、又社會局ヨリ相當ナル人ガ出張セラル、ト云フコトハ當然デアリマスガ、私ハ此際政府ニ望ミマスコトハ、斯ノ如キ機業地デアリマスガ故ニ、商工省ヨリモ相當ナル吏員ヲ派遣セラレマシテ、單ニ救護ノ上ニ於テ差當タ衣食住ニ迷惑ノナイヤウニ圖ルト云フコト以上ニ於テ、直ニ罹災民ニ對シマシテ將來ノ機業或ハ農業ノ復舊等ニ付キマシテモ、相當ナル安定ヲ與ヘルヤウニ取計ヒヲシテ戴キタイト思フノデアリマス、是等ノ點ニ對シマスル政府ノ御考、就中農林省ガ只今申シマシタ米ノ供給、或ハ「バラック」ノ建設等ニ付キマシテ、其材料等ニ付テ相當ナル御考ヲ持タレテ居ルヤ否ヤ、是等ノ點ヲ承テ見タイト思フノデアリマス、尙ホ救護ノ方法等ニ關シマシテ、内務大臣或ハ政府委員ヨリ承ルコトガ出來マスナラバ、洵ニ仕合セデアリマス、是ダケヲ私ノ質問ト致シマス(拍手)

〔國務大臣安達謙藏君登壇〕

○國務大臣(安達謙藏君) 只今森田君ノ御尋デゴザイマスルガ、此救護ノコトニ付テハ頗ル困難ヲ感ジテ居リマス、併ナガラ出來得ルダケノ力ヲ以テ最善ノ事ヲ努メサセツ、アルノデアリマスガ、何ト申シマシテモ、交通不便ナ所ニ突發致シテ、而シテ鐵道其他通信機關ナドモ一部缺ケテ居リマスル爲ニ、非常ニ困難ヲ感ジテ居リマス、此處ニ最近參リマシタ報告ニ依ルト、「バラック」三千ダケハ急造シテ、ソレカラ燒殘タ家屋內ニハ傷病者ヲ收容シツ、アル、醫療

材料トカ、藥品トカ云フモノハ十分デアルト云フ報告デアリマス、ソレカラ米ハ五百石以上既ニ輸送シテ居ル、峰山町ノ如キハ悉ク倒レマシテ、不完全ナガラ家屋ノアルノハ二十戸ヲ殘スバカリデアリマス、ソレ故ニ非常ニ危險デゴザイマスカラ、停車場ニ救護所ヲ置キマシテ、サウシテ其處デ諸般ノ事ヲ取扱テ居ルガ、御話ノ通り昨日ハ風雨デアリシ、防集等ニ付テ困難ヲシテ居ルコトハ確ニ事實デアリマス、就キマシテ出來得ルダケノ事ヲ致シマシテ、防集具其他各方面ニ輸送スルコトヲ努メテ居ルノデアリマスカラ、不十分ナガラ今日ニナリマスルト、大體ニ於テ其救護ノ材料ハ行渡ッテ居ルダラウト想像致シテ居ル次第デアリマス、又其他ノ事ハ農林大臣等カラ御答スル筈デアリマス

〔國務大臣町田忠治君登壇〕

○國務大臣(町田忠治君) 只今森田君ノ御尋及御尋サル、御趣意ニ對シマシテハ、徹頭徹尾御同感デアリマス、政府ノ各方面ニ於キマシテ、應急ノ方法並ニ復舊ニ對スル善後ノ處置、兩方面カラ考究致シテ居リマスルコトハ勿論デアリマスガ、差當リ應急ノ處置ト致シマシテ、農林省ガ既ニ執リマシタ事、並ニ今後執リマスルコトニ付テ一言申シマスルト、此震災ノ報ニ接シマシタ翌朝、即チ一昨午前ニ於テ直ニ農林省所管ノ大阪ニ於キマス米穀事務所ニ訓電ヲ出シマシテ「豫テ米穀委員會ノ御協議ヲ得テ居リマスル内地米十七万石ヲ、整理ノ爲ニ買換ヲスル米ガアルノデアリマス、買ヒマス方ハ致シテアルガ、整理賣却ノ方ハ未ダ全部致シテ居リマセヌ、其内地米十七万石及外國米ノ整理スベキモノ數万石アリマスガ故ニ、京都府知事其他此震災ニ關係アル地方官憲ト評議シテ、從來ノ法規ガ許

シ、慣例ノ認メテ居ル方法ニ依ッテ、出來ルダケ罹災民ニ米ノ供給ヲスルヤウニト、調電ヲ一昨日既ニ出シテアリマス、又「パツク」小屋掛等ニ付テモ、罹災民ノ事情ハ困難デアラウト信ジマシタガ故ニ、矢張一昨日ノ朝大阪營林局ニ調電ヲ出シマシテ、斯様ノ用材及薪炭材ノ供給ニ對シテ、京都府知事ト協議ヲシテ出來ルダケ便宜ヲ圖ルガ宜シト云フ命令ヲ、一昨日既ニ下シテアルノデアリマス、又森林、及御承知ノ此度ノ震災地ハ、多ク海岸ニ沿ウデアリマシテ、アム方面ノ漁村ニ對スル共同施設等モアリマスガ故ニ、一昨日中ニ山林局ヨリ技師一名、技手一名、水產局カラ技師二名ヲ派遣シテ、目下調査中デアリマス、耕地ノ壊滅等ノコトモ憂慮致シテ居リマスガ、從來ノ例ニ依リマスルト、斯様ナ雨節ノ氣候ニ調査致シテモ、十分出來ヌサウデアリマス、立毛若クハ收穫前ノ場合ト違ヒマシテ、今日ハ主トシテ善後ノ復舊ノ方ニ關係ヲ致シテ居リマスルガ故ニ、是ハ適當ノ時機ニ於テ、人ヲ派遣スルコトニナッテ居リマスルガ、森田君ノ御質問ノ食糧及木材ニ對シテハ、一昨日既ニ前申スヤウナ手段ヲ執ッテ居リマスルカラ、左様御諒承ヲ願ヒマス

○議長(粕谷義三君) 尙ホ質疑ノ通告ガアリマス、順次之ヲ許シマス、田崎信藏君

(田崎信藏君登壇)

○田崎信藏君 只今内務大臣、農林大臣ヨリ詳細ナル御説明ヲ承ツタノデアリマスルカラ、本員ハ今回ノ京都府下ニ於ケル震災ノ救護善後策ニ付テノ質疑ハ無イ筈デアリマスルガ、顧ミマスレバ大正十二年ノ關東ノ大震災ニ於キマシテ、横濱東京ノ市民ニ對シテ、全國ヨリ非常ナ同情ヲ以テ食糧品並ニ衣服其他ノ救護ニ關スル種々ナル寄

贈ヲ受ケタノデアリマス、而シテ其救護品ニ對シテ、關東ノ震災ノ當時ハ、官公吏ガ罹災民ヨリ先ニ給與ヲ受ケタト云フ謗ヲ受ケタノデアリマス、罹災民ガ寒サニ飢エテ居ルノニ、官公吏ガ數枚ノ毛布ヲ用ヒテ居タト云フヤウナ事實ハ澤山アルノデアリマス、全國ノ同情ヲ集メタ食糧品ガ、殆ドトハ申シマセヌガ、多額ニ腐敗セシメルマデ棄テ置イタト云フ事實モアルノデアリマス、且ツ其寄贈品ヲ、官公吏ノ者ガ結託致シマシテ、之ヲ他ニ販賣致シタト云フヤウナ犯罪行為ガアッタコトヲ洵ニ遺憾トスル者デアリマス、又政府ガ見ル所ガアッテ、復興ノ材料ノ如キ物モ態海外マデ注文ヲ發シマシテ、其木材ガ大正十二年ノ震災ノ時ニ、九月一日ノ出來事ニ對シテ、時ノ内閣ハ責任支出マデ致シマシテ、サウシテ亞米利加ガ出來ルダケノ力ヲ盡シテ、我國ニ復興材料ノ木材ガ、數百萬ノ價格ノ物ガ、其當時ノ十二月ニ達シナイ内ニ到者シタノデアリマス、然ルニ其木材ハ一本ノ木材モ十二年、十三年度ニハ東京市民、横濱市民ニ與ヘラレズシテ、御用商人ニ委託販賣シタト云フ、苦キ吾々ハ遺憾ナル事實ヲ知ッテ居ルノデアリマス、斯様ナ事實ガアリマスルガ故ニ、マサカ現政府ハ此苦キ經驗ヲ持タルガ爲ニ、再び斯様ナ事ハ萬アルマイト固ク信ズル者デアリマスルケレドモ、動トモ致シマスレバ、非常ナ場合ニ於テ此同情スベキ罹災民ニ對シテ、救護ヲ名ニ致シテ不正ヲ敢テ致ス者ハ往々アルノデアリマスル、古キ歴史カラ申シマスレバ、火災ノ時ニ一概ニ數百萬圓ノ富ヲ持タ昔ノ紀文大盡ヨリ、今日三井、三菱、鈴木商會ノ如キモ、委託販賣ノ木材ヲドウ致シマシタカ、私ハ不敏ニ致シテ存ジマセヌガ、政府ハ此場合ニ於テ非常ナ同情スベキ罹災民ニ對シ

テ給與スル所ノ木材、或ハ食糧品ニ付テ、萬遺憾ナキヤウニ處置ヲ執ラレンコトヲ望ムノデアリマスルガ、私ノ一ツ伺フテ置キタイノハ、ソレ等ノ方法ニ付テ具體的ニ御監督下サル御考ガアルノデアルカ、地方長官ニノミ委託シ、中央カラ行カレル方ハ唯、視察ノミデ、其具體的ノ御成案ガナケレバ、前轍ヲ踏ムヤウナコトニナリハ致サヌカト云フコトヲ私ハ杞憂ヲ致ス者デアリマス、過去ノ大震災ニ於テ木材ヲ數百萬本モ國家ガ損失ヲ致シテ、其木材ノ處分モ不完全デアッタト云フコトハ、掩フベカラザル事實デアリマス、本員ハ今日モ決算委員會ニ於キマシテ、十二年ノ大震災ノ時ニ東京市ヘ當然與ヘナケレバナラヌ所ノ木材ガ、一本モ與ヘラレズシテ、總テ御用商人ノ手ニ委託サレテ、十二年ノ震災ニ對シテ十四年ニ處分致シタト云フヤウナ事實ガアルノデアリマス、此意味ニ於テ現政府ハ勿論萬遺憾ナキヲ期セラレルト、信ジマスガ、監督ノ方法ハ如何ナル方法ヲ以テ、又全國カラ同情ヲ集メラレタ配給品ニ付テノ分配ハ、最も公平ニ最も迅速ニヤッテ戴ク所ノ具體案ガアレバ伺フテ置キタイト存ジテ、茲ニ質疑ヲ致ス次第デアリマス

○秋田寅之介君 決算委員會ノ第一分科會ヲ是カラ開キマス、委員諸君ハ第四委員會ニ御參集ヲ願ヒマス

(國務大臣安達謙藏君登壇)

○國務大臣(安達謙藏君) 只今田崎君ノ御意見ニ付キマシテハ十分注意ヲ致シマシテ、御懸念ニナルヤウナコトハ此度ノ事ニ付キマシテ起ラナイヤウニ、出來ルダケノ注意ヲ致スト云フコトヲ簡單ニ申上ゲテ置キマス

○議長(粕谷義三君) 田淵豐吉君

(田淵豐吉君登壇)

○田淵豐吉君 今回ノ山陰地方ノ震災ニ付キマシテハ、實ニ悲慘ヲ極メテ、寔ニ吾々モ東京ニ安閑トシテ居ルコトヲ恥ルヤウナ次第デアリマス、故ニ關東震災ニ當リマシテモ、大阪其他關西カラモ非常ナ寄附モアリ、國庫ノ支辨モ致シタノデゴザイマスカラ、別ニ日本國民デゴザイマスカラ、ドウト云フコトハアリマスマイケレドモ、特ニ矢張關西ニ向ッテモ、大ナル努力ヲ犧牲ヲ拂フ必要ガアルト思フノデゴザイマス、私ハ議會ガ已ニ終ラント致シテ居ルヤウナ、此機會ニ當リマシテ、今ハキリシテ置カヌト云フト、今ノ罹災民ヲ十分救護スルト云フト、或ハ町村ヤ地方ヲ直ス所ノ補助ヲシテ上ゲルト云フコトハ、議會ノ期限ガ無クナリマスカラ、機會ガ去リマスカラ、餘程シカリ政府ヲ監督致シテ置ク必要ガアルノデゴザイマス、後ニ苦情ノ無イヤウニ、ハッキリシテ置ク必要ガアリマス、關東ニ於テモ關西ニ於テモ、日本帝國デアル以上ハ、或ハ帝國臣民デアル以上ハ、國帑ヲ費シテモ此被害ヲ防止シテ、日本ヲ幸福ニスル大ナル責任ヲ持ッテ居ルト、特ニ私ハ信ズルノデアリマス、此點ハ萬遺憾ナキヲ期セラレタイト思フノデアリマス、サウシテ私ハ實ハ若槻サンニ御目ニ懸ッテ、是ハ私ノ總力思付デゴザイマスケレドモ、一昨日考ヘタ事ニ付テ、御目ニ懸リタイト思ウタノデアリマス、是ハ機會ヲ外レテ居ルカモ知レマセヌケレドモ、震災ノ非常ナ關係ヲ持ッテ居リマスカラ、此機會ヲ利用シテ伺フテ、アト六七七年、或ハ十年モ此問題ニ付テ奮闘致シタイト思ヒマス、其問題ハ何デアルカト云ヘバ、若槻サンモ十分ニ考慮シテ在ラレハ、一ツ答辯ヲシテ貰ヒタイ、ソレハ何カト云フト、私ノ考ハ粗ボイ、子供ラシイデゴザイマスケレドモ、私ハ日本ノ最

モ「ウイケス、ポイント」——諸外國ニ較ベテ最も劣テ居ル點ハ何デアルカト云フト、地震ヨリ外ハナイト思フ、日本ノ國家及國土、産業、國民ヲ保護スル上ニ於テ最も弱點ハ、此地震ニアルト思フ、然ルニ何等此地震ニ對スル大ナル設備ガ無イノデアリマス、吾々モサウデゴザイマス、弱點モゴザイマスケレドモ斯ウ云フ場合ニ著目シテ、後一年カ五年經テ直グ忘レテ何等計畫シナイデ、唯、地震ノ橫暴ヲ自然ノ現象トシテ見テ居ル、科學的基礎ノ上ニ立テ計畫シナケレバナラヌノニ、其計畫ガナイカラデハナカラウカ、吾々最も深く痛嘆シテ居ル所デアリマス、是ガ最も日本人ノ良イ所デアツテ、又弱點デハナカラウカ、故ニ今議會ガ終ラントスル時ニ當テ、吾々ハ大ニ奮闘スル考デアリマス、諸君ノ大ナル考ト、内閣諸公ノ此點ニ對スル御考ヲ聞イテ置キタイノデゴザイマス、關東ノ震災モ——實ニ東京及日本國、世界ノ人間ハ莫迦デアリマス、一時間前マデ知ラナイト云フ有様デアリマス、我ガ國家ヲ護ル爲ニ、人間ト人間ノ争ノ爲ニ四億、五億ノ金ヲ使テ居ル、サウシテ一年ニ一遍戦フスル爲ニ必要デアルト云フコトヲ山梨大將ガ先年委員會デ陸軍大臣トシテ言ハレテ居ル、然ルニ五十年カ百年ニハ必ズ地震ガ來、十年三十年ニハ必ズ相當ナ地震ガ來ル日本ニ於テ、地震ヲ豫知シ、防止スル爲ニ多少ノ設備ヲヤツテ居ルカト云フト、殆ド知ラナイト云フ有様デアル、如何ニモ人間ガ莫迦デアルト私ハ思フ、然ルニ地震ヲ防止スルコトハドウカト云ヘバ、地震ハ地球ノ病氣デア、一種ノ生理作用デアルト思フ、故ニ地震ガ搖タ方ガ地球ノ爲ニ宜イト思フ、ソレガナイトチャント旨ク行カヌカラ地震ガ起ルト思フ、人間ニ惡イ點ガアルカラ神様

ガ罰ヲ與ヘルトカ、工業ガ興テ火ガ起ルトカ、電氣ガ起ルトカ云フコトガアルカモ如レナイケレドモ、先ヅ大體地球ノ一ツノ病氣ガ搖テ行ク生理的現象デアルト思フ、故ニサウ云フ點ハ自然ト神——即チ兩極端ノ中ニ住ンデ居ル人間ガ如何トモスベカラズト今日思ウテ居ルラシイ、私共サウ思フ、併ナガラ是ダケハ戯ケノ話ノ様デハアルガ、富士山ヲ割イテ、其處カラ地熱ヲ出シテヤルトカ、色ミナ事ヲシテヤツテ防グル時代ガ來ルカモ知レナイガ、是ハ今日ノ科學デハ不可能ト思フ、然ラバ地震ヲ豫知スル結果、其處ニ地震地帶ヲ置イテ、一週間前カラ集合スルトカ、三日前トカ或ハ數時間前カラヤルト云フヤウニ、相當防備ヲスレバ、人間ノ不安ト産業ノ覆ヘルト云フコトガナクナル、外國ト戦争スル場合デモ、其處ニ地震ガ起テ、港ガ壞レタリ人間ヤ軍艦ガ潰レタリスルヤウナ慘狀ニ遭ウカラ仕方ガナイ、他國ニ其國ガ降服シナケレバナラヌ狀態ガ起ラヌトモ限ラヌ、又日本人ガ貯蓄心ガナイトカ何ト云フ、大ナル精神上ノ現象ハ其所カラ來テ居ルノデハナイカ、地震、雷、火事、親爺ト云テ人間ヲ恐レテ居ル、併シ火災モ怖イ、併シ地震モ怖イカラ、サウ云フ一ツニ算ヘテ居ルト云フ、狀態デアリマス、國防費ニ四億モ五億モ使ウテ、サウシテ軍人ガ二三十万人居ルカラ、十億圓位ノ金ヲ國防費ニ使テ居ル、然ルニ地震ニハ東京大學内ナドデモ十萬圓シカ使ハナイ、是モ星島君トカ中原君トカ其他ノ多クノ人ガ震災ノ當時非常ニ努力シタ結果ト言テ居ル、故ニ政府ニ問ヒタイノハ一體地震ヲ豫知其他ノ方法ニ、何萬圓ノ金ヲ觀測所又ハ研究ノ爲ニ使テ居ルカト云フコトヲ聞キタイ、又日本ノ最も弱イ所デアル地震ヲ自覺シテ居ルカ否カト云フコトヲ聞

キタイ、太平洋沿岸及其地方、並ニ地中海沿岸地方ハ地震ノ爲ニ非常ニ惡イ影響ヲ受ケテ居リマス、私ハ明治四十二年ニ外國ニ旅行致シマシタ時、伊太利ノ島デ塔ガ覆レテ居タ、日本カラ寄附ラ上ダタト云テ船ニ乗テ居タ私ノ友人ガ非常ニ自慢ガタ、私モ「エンサイクロピディア」ヲ讀ミマシタガ大森博士ガ地震學ノオノソリヲシテ特筆大書シテ載テ居ル、日本人ガ地震ヲ研究シナケレバ、世界各國ニハ研究スル者ガナイト云フ現狀デアリマス、世界ニ於テ、南歐、墨西哥、或ハ祕露ニ於テ、或ハ日本帝國ニ於テ地震學ヲ研究シ、地震ノ觀測所ヲ置イテ、サウシテ地震ヲ研究シ豫知シ又ハ慘害ヲ防止スルト云フ、是程國家ノ重大ナル點ハナカラウト私ハ固ク信ズル一人デアリマス、故二十年、二十年、三十年、五十年ノ間ニ此地震ヲ豫知スル方法及觀測所ヲ日本帝國ニ於テ建ツナケレバイカヌト云フ堅キ決心ヲ持テ居ル、今日斯ウ云フ思附デ云フノハ、唯、一端ノ點デアアルデアリマス、故ニ政府ハドウ云フ御考ヲ持テ居ルカ、昨日モ一寸大學ヘ電話ヲ掛ケテ聞イテ見マシタ、サウスルト人ノ養成モアルカラ金ダケデハイカヌト言ウテ居ル、私モサウ思フノデス、去年デアリマシタカ、一昨年デアリマシタカ、圖書館ニ地震ノ學者ガ來テ言ツタ、天文學ハ「ハレー」彗星ガ七十五年後ニ廻テ來ルト豫言シタ處ガ一分一秒モ間違ハズニ其ノ星ガアラワレタ天文學デハ百年ノ向フヲ知ツテ居ル、氣象學デハ二三日前ノ先キノ天氣ハ、ハッキリ分リニクイ而シテ地震學ニ於テハ一分一秒ノ先モ分ラヌ、地ノ下ノ事ハ何モ知ラヌト云フ人間ノ愚劣心、如何ニ人間ガ研究心ガ足ラヌカト云フコトヲ證據立ルコトガ出來ルト思フ、私ハ神ニ對スル叛逆者デハナイ、吾々ハ神ニ對スル一ツノ現レヲ持テ

居ル、故ニ此方ヲ以テ因果關係ヲ持テ居ル、自然法ニ向テ吾々ハ之ヲ解剖シテ、ソレヲ避ケルト云フコトハ決シテ惡イ事デハナイ、善イ事デアルト、固ク信ズルノデアリマス、諸君、天文學、氣象學、地質學、地震學ト云フヤウナ色ニ關係ガアリマセウ、或ハ地力關係モアリマセウ、電氣ノ關係モアリマセウ、地球ノ中ニ災スルヤウナ條項モアリマセウ、色ミナ學問ヲヤツテ地震學ト云フモノガチャント構成ザレルベキモノデハナイカ、サウシテ地震ノ觀測所ヲ何十箇所造リ、ドウ云フ機械ヲ備附ケルト云フコトハ、科學ノ大ナル發明ニ待タナケレバナラヌ、世間ノ人ハ地震ガ起レバ耳ヲ傾ケルケレドモ、自己主義デアツテ、世界人道ノ上ニ立テ、大ナル地震ヲ豫知スルト云フ知識ガ無イ、確信ガ無イ、軍備ニハ四億五億ノ金ヲ使フケレドモ、地震ニハ百萬圓モ使ハナイト云フ現在ノ狀態デアル、ソレデ慘害ガ起レバ十億モ二十億モコロ——失テ、所謂産業上、國家社會上人體人心ノ上ニ大ナル影響ヲ及ボシテ居ルニモ拘ラズ、ソレニ付テ何等適切ナル計畫ヲシナイト云フコト程、左様ニ日本國民ハ野蠻人デハナイ、少クとも地震ヲ豫知シテ之ニ對スル方法ヲ講ジナカッタラバ、茲ニ吾々國民ハ野蠻人デアルト云フ譏ヲ免レルコトハ出來ナイト思フ、故ニ政府ハ極力日本ニ取テ最も弱イ所ノ此地震ノ爲ニ受ケル所ノ災害カラ、日本國民ヲ安全ニ導ク上ニ、大ナル二億トカ、三億トカ云フ金ヲ十年ノ中ニ掛ケテモ宜イト思フ、唯、十萬圓、五十萬圓、三萬圓ノ金デハ何モ出來ヌ、又地震ノ學者ニ對シテ、一時ハ尊敬スルケレドモ、後ハ少シモ見ナイト云フ狀態デゴザイマスカラ、少シモ彼等ガ大ナル奮發ヲスルコトガ少數ノ人以外ニハ出來ヌト思フ、故ニ私ハ或ハ

天文學、或ハ氣象學或ハ地質學、地震學、其他色ミナ「サイエンス」ノ學問ノ綜合力ニ依リテ、サウシテ此地震ノ如何ナル爲ニ起リ、如何ニシテ之ヲ豫知シ、防止スルコトガ出來ルカト云フコトガ、國家以上ノ日本ハ大問題デアアル、日本國土ノ大問題デアアル、如何ナル人類ガ我が日本ニ住ンデモ、必ズ災害ヲ受クベキ性質ノモノデアアル、此地震ニ對スル問題ハ人道以上ノ大問題デアアル、國家以上ノ大ナル問題デアアルト私ハ固ク信ジテ疑ハヌデアリマス、此問題ニ對シテ吾

吾ガ唯、小サイ所ノ十萬圓ヤ百萬圓ノ金デ足レリトスルノハ、自ラ己ヲ知ラザルニモ程ガアルト、私自身モ言ヒタイノデアリマス、此問題ニ付テ私ハ若槻總理大臣ニ御目ニ懸ツテ、篤ト意見ヲ申述ベタイト思ヒシダガ、今日御出席ニナツテ居リマスカラ、此公開ノ席上ニ於テ、特ニ私ハ申上デタヤウナ次第デアリマス、尙ホ詳クハ私ハ色ミナ學者ヲ訪問シ、世界ノ學說ヲ參照シテ、サウシテ聽キ得タコトヲ、若槻サンニ述ベタイト云フ次第デアリマスガ、私ハ此震災ノ現在ノ時代ニ當テソレハ拾イ置テ——此重大問題ヲ解決セヨト云フノデアアリマセヌ、最モ急要ナル設備ハ必要デアリマス、議會後ニ於テ政府ハ吾々ハ監督スル大ナル責任ヲ持テ居リマス、大ニ吾々ハ今回ノ憐ムベキ狀態ニ同情シテ、非常ナル所ノ努力ヲシナケレバナラヌト云フコトハ、吾々ハ諸君ニ劣ル者デハナイ、併ナガラ是ト同時ニ、我が日本帝國ノ千年万年ノ後來ノ歴史ヲ考ヘテ見ル時ニハ、此日本ノ最モ薄弱ナル點ニ付テ、十分一層ノ大ナル奮發ト自覺トヲ諸君ニ促シ、ソレト共ニ之ヲ内閣諸公、及國民諸君ニ告グントスル次第デゴザイマス、今幸ニ總理大臣ガ見エテ居リマス、總理大臣ガ地震ヲ如何ニ見テ居ルカト云フコ

トニ付テ御答辯下サレバ、非常ニ私ハ結構ナル次第ト存ズルノデゴザイマス

〔國務大臣若槻禮次郎君登壇〕

○國務大臣(若槻禮次郎君) 此度京都府下ニ起リマシタ大被害ハ、御互ニ洵ニ被害民ニ對シマシテ、同情ニ堪ヘナイ次第デアリマス、之ニ付テハ内務大臣ヨリ狀況モ御報告申上デ、又政府トシテ應急ノ救助ニ盡シツ、アリマス所モ、諸君ノ前ニ内務大臣ヨリ報告致サレマシタ、其後追々到達致シマス報告ニ依リマス、地方長官ハ固ヨリ、陸海軍トモ力ヲ合セテ、應急ノ救助ニ努メテ萬遺憾ナキコトヲ期シテ居ル次第デアリマス、此際只今田淵君ハ地震ノ災害ノ恐ルベキコトヲ述ベラレテ、若シ之ヲ豫知スル方法ガ立ツナラバ、ドレダケ吾々ニ安心ヲ與ヘ、又人命、財産ノ損害ヲ免ル、コトガ出來ルカト云フコトヲ述ベテ、ドウカ地震ヲ豫知スル方法ニ付テ、政府ハ十分研究シテ實ヒタイト云フ御意見ヲ御述ニナリマシタ、是ハ私全然御同感デアリマシテ、若シ地震ヲ豫知スル方法ガ分リマシタナラバ、是位人類ニ取テ結構ナル事ハナイノデアリマス、是ガ爲ニ努ムベキコトハ當然デアリマス、目下文部省所管ニ於テ之ニ付テ研究シテ居リマスコトガ、田淵君ハ甚ダ少イヤウニ感ジテ居ラレルノデアリマス、出來ルナラバ研究ヲ一歩進メテ、只今申サレバヤウナ地震豫知ノ方法ヲ發見スルコトニ努ムルコトハ、是ハ無論ノ話デアリマシテ、サウアリタイノデアリマス、只今茲デ金額ヲ擧ゲ、若クハ方法ヲ擧ゲテ御答スルコトハ出來マセヌ、何トナレバ私自身ニハ其方ノ知識ハ殆ド無イノデアリマス故ニ、此處デ申上デルコトハ出來マセヌガ、田淵君ノ述ベラレタ御意見其モノニハ私ハ全然御同感デアリマス、故ニ政府ニ於テモ十分其

研究ニ努ムルヤウニ致シタイノデアリマス

○議長(粕谷義三君) 議事進行ニ關シテ發言ヲ求メラレテ居リマス、三土忠造君

〔三土忠造君登壇〕

○三土忠造君 只今本院ニ於キマシテ委員付託ト相成テ居リマス出版物法案ニ付キマシテ、全國各地ニ於ケル新聞經營者、通信經營者ヲ始メト致シマシテ、極メテ熱心ナル反對ガアルヤウデアリマス、私共モ議案其モノヲ相當ニ調査致シテ見マシタガ、當業者ノ反對セラル、ノモ、無理カラザル點モ多クアルヤウデアリマス、政府與黨ノ諸君ハ政府案デアリマスガ故ニ、何トカシテ此案ヲ通過セシメタイト御考ニナリマシテ、先日來頗ル御熱心ニ努力サレテ居タヤウデアリマスルガ、餘リ當業者諸君ノ反對ノ猛烈ナル爲ニ、多少躊躇サレテ居ルヤウニ見エルノデアリマス、私ハ此問題ニ付キマシテ、色ミ考ヘテ見マシタガ、政府ガ此法案ノ提案ヲサレマシタニ付キマシテ、手續ヲ誤テ居ラレハセヌカト思フノデアリマス、ト申シマスノハ、最近數年間ノ事例ヲ見マス、相當大問題ト見ラレルコトニ付キマシテハ、之ヲ立法致シマス前ニ、多クノ學者、實際家等ヲ集メマシテ、議會ヲ組織シテ能ク民間ノ意見ヲ徵シテ、議案熟シタモノヲ始メテ議會ニ提案サレルナリ、或ハ勅令トシテ發布サレルナリ、斯様ナ順序ヲ執ツテ居ルヤウデアリマス、例ヘバ小作法ノ制定ノ如キ、小作調停法ノ制定ノ如キ、又現ニ貴族院ニ提案ニナツテ居ル宗教法案ノ如キ、種々様々ナ重要ナル法律案ニ付キマシテハ、政府ハ廣ク民間ノ意見ヲ徵セラレタノデアリマスガ、單リ此出版物法案ニ付キマシテハ、其手續ヲ執ラレナカッタノデアリマス、然ルニ此出版物法ノ關係スル所ハ頗ル重大ナモノデアリマシテ、言

論ノ自由ハ勿論、或ハ人權擁護、或ハ思想ノ自由、頗ル廣イ關係ヲ持テ居ルノデアリマシテ、是ガ制定ノ如何ト云フコトハ、單リ當業者ノ利害ノミナラズ、國家社會ノ全般ニ互ニ頗ル重大ナモノト吾々考ヘルノデアリマス、故ニ私ハ茲ニ政府ニ向テ、何ト申シマスカ、御忠告ト申シマセウカ、斯様ナ問題ハ政黨派ノ問題デハナク、又政府ノ面目ノ問題デモアリマセズ、半年一年モ爭フ程ノ問題デモアリマセヌカラ、寧口餘リ無理ヲシナイヤウニシテ、此際出版物法案ヲ御撤回ニナツテ、改メテ廣ク民間ノ識者並ニ利害關係者中ノ主ナル人々ヲ集メテ、調査會ヲ組織シテ、此調査會ニ諮問サレテ、能ク事情ヲ疏通シテ實際ニ適スルヤウニシテ、改メテ御提案ニナツタラ如何デアラウカト思フノデアリマス(拍手)公平ニ考ヘマシテ、現在御提案ニナツテ居ル法律案ハ私共カラ見マスレバ、監督者ノ眼カラ見タル立法デハナイカト思ヒマス、即チ主トシテ内務省、司法省等ノ出版物ノ監督ヲスル方ノ立場カラ、立案サレタヤウニ思フノデアリマス、隨テ此監督ヲ受ケル人ミカラ見レバ、隨分遺憾ナ點モアルヤウデアリマスガ故ニ、私ハ斯様ナ問題デ、餘リ廉立テ爭フコトヲ止メマシテ、政府ハ一應御撤回ニナツテ、右様ノ手續ヲ御執リニナツタ方ガ宜カラウト思ヒマスガ、故ニ、茲ニ御忠告ヲ申上デルノデアリマス、併ナガラ政府トシテ、只今私ガ突如トシテ斯様ナ事ヲ申シ、直ニドウスルト云フ御答辯ヲ望ムコトハ難カラウト思ヒマスガ故ニ、能ク政府ニ於キマシテ議ヲ遂ゲラレマシテ、サウシテ私共ノ希望スル所ヲ御容レニナランコトヲ、茲ニ請求致シテ置キマス

○國務大臣(安達謙藏君) 只今三土君ハ特別委員會ニ付セラレテ居リマス出版法ニ付

テ、種々御意見ヲ述ベラレ、且ツ此場合ニ撤回シテハドウカト云フ御注意デゴザイマシタ、元來此出版法ヲ提出スルニ付キマシテ、三土君ノ御話ノ通り、特ニ民間ノ人ト調査會デモ造テ、協議シタコトハゴザイマセヌガ、昨年モ議會ニ上程セラレテ居リマスシ、此案ヲ政府ガ拵ヘルニ付キマシテハ、十分各方面ノ意思ヲ問ヒマシテ、サウシテ其諒解ヲ求メタ上ニ起案ヲシタノデアリマシテ、此提案ノ頃ノ星島君ノ御質問ノ最初ノ御言葉ガ、私ハ極ク眞相ヲ穿テ居リハセヌカト思ヒマス、自分モ此案ヲ拵ヘタコトガアル、ソレニ出版法、新聞紙法ヲ併セテ茲ニ出版物法ヲ拵ヘルコトハ、其勞ヲ多シテ居ルト云フ御言葉ガアリマシタガ、私ハ是ガ眞相デハナイカト思ヒテ居リマス、大分此事ニ付テ政府當局者ハ骨ヲ折リマシテ、サウシテ民間ノ大體ノ諒解モ得テ拵ヘタ案デアリマス、尤モ唯、監督スルト云フ方面カラバカリ考ヘテ居ルト云フ御話デアリマシタガ、成程此出版法ハ取締法ノ考デアリマスカラ、著作權ニ關スルヤウナコトノ、此文運ノ發達助長ヲ圖ル方面ノ事トハ意味ガ違ヒマシテ、確ニ監督取締ノ方カラ考ヘタ法律デアリマス、唯、其中ニ付テ非常ニ今迄ノ新聞紙法、出版法ニ較ベルト、時代ガ變テ居テ物價モ騰貴シテ居ル、ソレデアルカラ、罰金ヲ増スト云フコトモ免レナイ事デハナイカト考ヘマス、又是迄抽象的ニ取締テ居タノヲ、今度ハ事實ヲ列舉シテ、サウシテ指示シテ取締スル、是ハ却テ新聞社ノ方ニモ、出版業者ノ方ニモ便利ニナリハシナイカト考ヘテ居リマス、又偶々委員會ニ於ケル所ノ模様ニ依リマシテ、委員多數ノ御希望ノ中ニハ、私直接ニハ缺席ガ多クシテ聴キマセナカッタガ、委員諸君ノ御意見ノ中ニモ諒トスル

ヤウナ所モアリマス、正談文ニ關スルコト其他ニ於キマシテ——ソレデ今日ニ當リマシテ、直ニ私ハ之ヲ撤回スルトカドウスルトカ云フ考ハ持ナマセヌ、ドウゾ議員諸君ニ於キマシテ、虛心坦懷——只今三土君ガ言ハレタ通り、政黨政派ニモ關係アリマセヌ、政府ハ現在ノ現行法ニ於キマシテサウ不便ヲ感ジテ居リマセヌノデアリマス、是ハ民間ニ何トカスル方ガ宜シイト云フ希望ガアリマシテ出シタノデアリマス、ソレデ虛心坦懷此法案ノ特別委員會ニ於テ取扱ハレマシタナラバ、是ハ巧ク圓滿ニ纏マルコトガ出来サウナモノト斯ウ考ヘテ居リマスカラ、此際ニ撤回スルヤウナ考ハ持テ居ラヌト云フコトヲ申上ゲテ置キマス

○議長(粕谷義三君) 是ヨリ日程ニ入リマス、日程第一、勞働組合法案ノ第一讀會ヲ開キマス、安達内務大臣臨時代理

第一 勞働組合法案(政府提出) 第一讀會

勞働組合法案 第一讀會

第一條 同一又ハ類似ノ職業又ハ産業ノ勞働者ハ本法ニ依リ勞働組合ヲ設立スルコトヲ得

第二條 勞働組合ハ勞働條件ノ維持又ハ改善ヲ以テ目的トス

勞働組合ハ前項ノ外組合員ノ共濟、修養其ノ他共同利益ノ保護増進ヲ目的ト爲スコトヲ得

第三條 勞働組合ハ法人トス

第四條 勞働組合ヲ設立セントスル者ハ組合規約、理事ノ氏名及住所並ニ主タル事務所所在ノ場所ヲ具シ之ヲ行政官廳ニ届出ヅベシ

勞働組合ハ前項ノ届出アリタル時ニ設立セラレタルモノトス

第五條 組合規約ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 名稱

二 目的

三 主タル事務所ノ所在地

四 組合員ノ資格ニ關スル規定

五 會議ニ關スル規定

六 理事其ノ他ノ役員ニ關スル規定

七 組合費其ノ他會計ニ關スル規定

第六條 組合規約、理事ノ氏名若ハ住所又ハ主タル事務所所在ノ場所ニ變更ヲ生ジタルトキハ三週間内ニ之ヲ行政官廳ニ届出ヅベシ

第七條 第四條ノ届出アリタルトキハ行政官廳ハ直ニ左ノ事項ノ登記ヲ登記所ニ囑託スベシ登記事項ノ變更ノ届出アリタルトキ其ノ事項ニ付亦同ジ

一 名稱

二 目的

三 主タル事務所所在ノ場所

四 組合設立ノ年月日

五 理事ノ氏名及住所

第八條 本法ニ依リ登記スベキ事項ハ其ノ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ズ

本法ニ依ル登記ニハ登録稅ヲ課セズ

本法ニ規定スルモノノ外登記ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 民法第五十條、第五十二條乃至第五十五條及第五十七條乃至第六十一條ノ規定ハ勞働組合ニ之ヲ準用ス

第十條 左ニ掲グル事項ハ總會ノ決議ヲ經ベシ

一 基金ノ設置、管理及處分ニ關スルコト

二 組合規約ヲ變更スルコト

三 組合聯合會ヲ設立シ又ハ之ニ加入シ若ハ之ヨリ脫退スルコト

四 組合ヲ解散、合併又ハ分割スルコト

第十一條 勞働組合ハ組合規約ヲ以テ總

會ニ代ルベキ總代會ヲ設クルコトヲ得總會ニ關スル規定ハ總代會ニ之ヲ準用ス

第十二條 同一又ハ類似ノ職業又ハ産業ノ勞働者ニ非ザル者ト雖モ左ニ掲グル者ハ勞働組合ノ組合員ト爲ルコトヲ得但シ雇傭者又ハ其ノ利益ヲ代表スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

一 組合ノ役員ニ選任セラレタル者

二 同一又ハ類似ノ職業又ハ産業ノ勞働者タリシ者

三 總會ノ決議ニ依リ加入ヲ許サレタル者

第十三條 勞働組合ハ組合員ノ脫退ニ關シ不當ナル條件ヲ定ムルコトヲ得ズ

第十四條 雇傭者ガ勞働者ニ對シ勞働組合ノ組合員タルノ故ヲ以テ爲シタル解雇ノ意思表示ハ之ヲ無効トス

勞働組合ニ加入セザルコト又ハ組合ヨリ脫退スルコトヲ定メタル雇傭契約ノ約款亦前項ニ同ジ

第十五條 勞働組合ハ理事其他ノ代理人ガ其ノ職務ヲ行フニ付他人ニ生ゼシメタル損害ヲ賠償スル責任ニ任ズ但シ勞働條件ニ關シ組合員ヲシテ協同ノ行爲ヲ爲サシメ又ハ組合員ノ行爲ニ制限ヲ加ヘタルニ因リ雇傭者ニ生ゼシメタル雇傭關係上ノ損害ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 行政官廳ハ勞働組合ニ對シ其ノ業務若ハ財産ノ狀況又ハ組合員ノ員數ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第十七條 勞働組合ノ會議ノ決議法令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルトキハ行政官廳ハ之ヲ取消スコトヲ得

第十八條 組合規約法令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルトキハ行政官廳ハ其ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十九條 勞働組合ノ行爲安寧秩序ヲ紊

リ又ハ公益ヲ害スルトキハ主務大臣ハ
勞働組合ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

第二十條 前三條ノ處分ニ對シ不服アル
者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セ
ラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起
スルコトヲ得

第二十一條 勞働組合ハ左ノ事由ニ因リ
テ解散ス

- 一 組合規約ニ定メタル事由ノ發生
- 二 總會ノ決議
- 三 組合ノ合併又ハ分割
- 四 組合員ノ欠亡
- 五 組合ノ破産
- 六 組合解散ノ命令

第二十二條 勞働組合合併又ハ分割ヲ爲
ス場合ニ於テハ其ノ債權者ニ對シ異議
アラバ二月ヲ下ラザル一定ノ期間内ニ
之ヲ述ベキ旨ヲ公告シ且知レタル債
權者ニハ各別ニ之ヲ催告スベシ

債權者前項ノ期間内ニ異議ヲ述ベタル
トキハ組合ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當
ノ擔保ヲ供スルニ非ザレバ合併又ハ分
割ヲ爲スコトヲ得ズ

前二項ノ規定ニ違反シテ合併又ハ分割
ヲ爲シタル場合ニハ其ノ合併又ハ分割
ハ之ヲ以テ當該債權者ニ對抗スルコト
ヲ得ズ

第二十三條 勞働組合ノ合併又ハ分割ハ
行政官廳ニ之ヲ届出ヅルニ因リテ其ノ
效力ヲ生ズルモノトス

前項ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ合併又
ハ分割ニ因リテ成立スル勞働組合ニ付
其ノ組合規約、理事ノ氏名及住所並ニ
主たる事務所所在ノ場所ヲ併セテ届出
ヅベシ

第二十四條 前條ノ規定ニ依ル届出アリ
タルトキハ行政官廳ハ直ニ合併又ハ分
割ニ因リテ消滅シタル組合ニ付テハ解
散ノ登記ヲ、合併又ハ分割ニ因リテ成

立シタル組合ニ付テハ設立ノ登記ヲ登
記所ニ囑託スベシ

第二十五條 勞働組合合併シタルトキハ
合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ
成立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シ
タル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

勞働組合分割シタルトキハ其ノ定ムル
所ニ從ヒ分割ニ因リテ成立シタル組合
其ノ權利義務ヲ承繼ス

第二十六條 勞働組合解散シタルトキハ
合併、分割又ハ破産ノ場合ヲ除クノ外
清算ヲ爲スベシ

第二十七條 清算人タル者ナキトキ又ハ
清算人ノ缺ケタル爲損害ヲ生ズル虞
アルトキハ行政官廳ハ清算人ヲ選任スル
コトヲ得

第二十八條 重要ナル事由アルトキハ行
政官廳ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第二十九條 清算人ハ解散後二週間内ニ
其ノ氏名及住所並ニ解散ノ原因及年月
日ヲ行政官廳ニ届出ヅベシ

清算中ニ就職シタル清算人ハ就職後一
週間内ニ其ノ氏名及住所ヲ行政官廳ニ
届出ヅベシ

前二項ノ届出アリタルトキハ行政官廳
ハ直ニ其ノ登記ヲ登記所ニ囑託スベシ

第三十條 清算終了シタルトキハ清算人
ハ運帶ナク之ヲ行政官廳ニ届出ヅベシ

ト爲ルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコト
ヲ得

第三十四條 勞働組合ノ理事ハ左ノ場合
ニ於テハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

一 第六條ノ届出若ハ第十六條ノ報告
ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ届出若ハ報告ヲ
爲シタルトキ

二 第十八條ノ命令ニ違反シタルトキ

三 第二十二條第一項又ハ第二項ノ規
定ニ違反シテ合併又ハ分割ヲ爲シタ
ルトキ

第三十五條 勞働組合ノ清算人ハ左ノ場
合ニ於テハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

一 第二十九條第一項若ハ第二項又ハ
第三十條ノ届出ヲ怠リタルトキ

二 民法第八十一條ノ規定ニ違反シ破
産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタル
トキ

三 民法第七十九條又ハ第八十一條ニ
定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ
不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

第三十六條 非訟事件手續法第二百六條
乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料
ニ之ヲ準用ス

ニ非ザル勞働者ヲ以テ勞働組合ノ組合員
ト爲スコトヲ妨グズ

〔國務大臣安達謙藏君登壇〕

○國務大臣(安達謙藏君) 勞働組合法案提
出ノ理由ヲ簡單ニ説明致シマス、勞働問題
解決ノ爲ニハ、一面ニハ工場法、健康保險
法ノ如キ勞働者保護ノ立法ヲ爲シマスルト
共ニ、一面ニハ勞働者ガ自助ノ手段ニ依リ
マシテ、其經濟的地位ノ向上ヲ圖リマスル
コトヲ認メネバナリマセヌ、而シテ勞働組
合ハ勞働者ガ其生産の方面ニ於ケル地位ヲ
改善スル目的ヲ以テマシテ組織スルモノデ
アリマス、從來我國ニ於キマシテハ、勞働
組合ノ組織ニ關シマシテ、何等特殊ノ法制
ヲ設クルコトガゴザイマセヌノデシタ、而
シテ之ヲ自然ノ發達ニ放任シテアリマ
ス、然ルニ近時ノ組合ノ發達ハ著シクアリ
マシテ、昨年ノ六月ノ末ニ於キマシテ組合
ノ數ガ約五百アリマス、其組合ノ員數ガ二
十七萬餘ニ上リマシテ居リマス、而シテ産
業のニモ社會的のニモ、組合ノ地位ハ頗ル重
要トナテ參リマシタ、此狀勢ニ照シマシ
テ、今日勞働組合ニ關スル法律ヲ制定致シ
マシテ、法律上勞働者ノ團結ヲ公認致シマ
スルト共ニ、勞働組合運動ニ依ルベキ基準
ヲ與ヘマシテ、其運動ヲシテ努メテ秩序的
ナラシムルコトヲ最も緊要ナリト認メマ
ス、是ガ本案ヲ提出シタ所以デアリマス、
然ルニ本法案ヲ再ビ茲ニ提出スルニ付キマ
シテハ、種々ノ調査研究ヲ重ネマシタ爲ニ、
豫期以上ニ提案ガ遅レマシタノデアリマ
ス、又提案後ハ多數ノ豫算ニ關係アル重要
法案ノ爲ニ延期又延期トナリマシテ、今日
ニ至リマシタノハ、洵ニ遺憾ノ次第デアリ
マス、就キマシテハ何卒速ニ御協賛アラン
コトヲ望ミマス

○議長(粕谷義三君) 本案ニ對シテハ多數

ノ質疑ノ通告アリマス、順次之ヲ許シマス、山口義一君

〔山口義一君登壇〕

○山口義一君 私ハ只今議題トナッテ居リマスル勞働組合法案ニ付キマシテ、安達内務大臣代理ニ質問ヲ致シタイト思フノデアリマス、私共ハ相當ナル勞働組合法ヲ一日モ早ク作ッテ、勞働者ノ利益ヲ圖リ、其幸福ヲ増進シタイト考ヘテ居ルノデゴザイマスルガ、今日此處ニ出サレタヤウナスノ如キ骨抜キノ法律案ヲ、而モ今頃ニナッテカラスウ云フ法律案ヲ御出シニナッテ居ルガ、勞働條件ノ維持改善ニナル、サウ云フヤウナ話ハ少シモ現レテ居ラスノデ、保護ニナルドコロデハナクシテ、却テ壓迫ニナルト云フヤウナ結果ニ陥ッテ居ルノデゴザイマシテ、私ハ敢テ此根本精神ニ付キマシテ、二ツノ點ニ付テ御伺ヲ致シタイノデアリマス、先ヅ第一ハ此勞働組合ト云フモノハ、勞働組合法ガ出來テ、其爲ニ茲ニ初メテ勞働組合ト云フモノガ發生スルト云フノデナイ、勞働組合ト云フモノハ組合法ガ無クテモ現ニ澤山存在致シテ居リマスシ、又將來モ續々ト發生シテ來ルノデアアル、ケレドモ事實上唯存在スルト云フダケデハ種々ナル不利益ガアル、種々ナル不便ガアル、ソコデ法律ニ依ッテ之ヲ確認致シマシテ、其利益ヲ圖リ、其幸福ヲ増進シヤウト云フ所ニ、此勞働組合法ノ根本精神ガアラウト思フノデアアル、サウ致シマスルカラシテ、此勞働組合法ト云フモノハ發生ノ爲ノ法律ニアラズシテ、組合確認ノ爲ノ法律ナンデアル、デアラカラシテ現在存スル所ノ勞働組合其モノヲ有ノ儘ニ認メテ行ク、又將來發生スル所ノ、續々ト出テ來ル所ノ勞働組合其儘、有ノ儘ニ認メテ行クト云フ所ニ此勞働組合法ノ根本精神ガナケレバナラヌト思フノデ

アル、勞働組合法ノ根本精神ガ其所ニ在ルト致シマスレバ、此法案ハ此根本精神ニ於テ大ナル缺點ヲ持ッテ居ル、先ヅ第一條ニ「同一又ハ類似ノ職業又ハ産業ノ勞働者ハ本法ニ依リ勞働組合ヲ設立スルコトヲ得」斯ウ云フコトニナッテ居ル、即チ同一又ハ類似ノ職業又ハ産業ノ者デナケレバ、勞働組合ヲ組織スルコトガ出來ナイケレドモ、實際ノ場合ヲ考ヘマスト云フト、同じ職業ノ者ガ集ッテ一ツノ組合ヲ造ルト云フコトガ便利デアアル場合モアレバ、又違タ職業ノ種々雜多ナル職業ノ者デアルケレドモ、同じ地方ニ居ルカラシテ、一ツノ組合ヲ造ルト云フコトガ便利デアアルコトモアル、其便利デアアルカ不便デアアルカト云フコトハ、是ハ勞働者自身ガ認メテ、サウシテ之ヲ造ルト云フコトニシタラ宜シイノデアリマスガ、此勞働組合法ニ依ルト云フトサウ云フ風ニナッテ居ナイデ、同一又ハ類似ノ職業ト云フ所ニ局限シテ其鑄型ニ符ッテ來ナイト云フト、勞働組合法デハ勞働組合ト云フコトニ認メナイト云フコトニナリマスルト、勞働組合運動ヲ保護スルトカ、或ハ之ヲ助成スルト云フコトニナラズシテ、却テ健全ナル勞働組合運動ノ壓迫ト云フコトニナリ、制限ト云フコトノ結果ニ陥ルノデアリマスカラシテ、簡單デ宜シイカラ此點ニ付テ、ハッキリト内務大臣ノ御答辯ヲ伺ヒタイノデアリマス、ソレカラ第二ハ此法律ニ依ルト云フト、聯合體ト云フコトヲ認メテ居ナイ、所ガ實際ノ場合ヲ考ヘルト云フト、日本ノ此現狀ヲ見マスルト、實際ニ活動ヲ致シテ居リマスル所ノ勞働組合ト云フモノハ、例ヘバ日本勞働總同盟ニ致シマシテモ、又日本勞働組合評議會、或ハ官業勞働總同盟ト云フヤウナモノハ、皆是ハ聯合體ニナッテ居ル、單一組合ト云フノ

ハ其聯合體ノ一部分ニ過ギナイ、聯合體ノ其細胞ニ過ギナイノデアアル、所ガ此法律ニ依ルト云フト、細胞ハ認メテ居ルケレドモ、此全體ノ聯合體ト云フモノハ認メナイ、斯ウ云フ事ニナッテ居ル、是亦勞働組合法ヲ設ケタ所ノ根本ノ趣旨ニ反スルト云フコトニナル〔拍手〕何故カト云フト、元來勞働組合ヲ認メルト云フノハ、勞働者ト云フモノハ一人々々デハ力ガ乏シイ、資本家ノ持ッテ居ル所ノ資本ト云フ武器ニ對抗スルコトガ出來ナイ、ソコデ勞働者ノ武器ト云フモノハ何デアアルカト云フト、唯、團結ノ力ヨリ外ニナイ、ソコデ團結シテ資本家ニ對抗セシムル所ニ勞働組合ノ本旨精神ト云フモノガアル、サウスルト此團結ノ力ガ段々大キクナッテ、三十人ヨリモ五十人、五十人ヨリモ百人、百人ヨリモ千人ト團結ノ力ガ大キクナレバ、多々益、辦ズルコトニナッテ、此組合ノ精神團結力ノ威力ヲ發揮スルコトニナルノデゴザイマスカラシテ、組合ノ小サナヨリモ大キイ方ガ却テ喜バナケレバナラヌノデアアルガ、此法律ニ依ルト云フト、小サイ間ハ認メテ居ルケレドモ、即チ芽生ヘノ間ハ認メテ居ルケレドモ、ソレガ段々大キクナッテ、威力ヲ發揮スルト云フヤウニナッタナラバ、コイツヲ認メナイト云フコトニナリマスルト、是亦勞働組合法ノ精神ガ没却サレテ居ルト云フコトニナルノデアアル〔拍手〕此法律ハ私ガ先程申シタル第一點カラ申シテモ、第二點カラ申上ゲマシテモ、此組合法ハ——此勞働組合法ハソレ自體ニ於テ大變ナル矛盾ニ陥ッテ居ル、何ガ故ニ斯ナ矛盾ニ陥ッテ居ルカト申シマスルト、是ハ憲政會ガ在野當時ニ於テ、勞働組合法ヲ作ル々々ト云ッテ、勞働者ヲ釣ッテ來バシテ來タ、ソレデ以テ勞働者ヲ釣ッテ來タ、サウシテ愈、内閣ヲ造ッテ責任ノ地位

ニ立ッテ、サウシテ諸テ勞働組合法ヲ作ルト云フ段取りニナルト云フト、資本家ノ方カラ壓迫ガ來タ、ソコデ其資本家ノ壓迫ガ怖クナッタカラシテ、此勞働組合法ノ一番大事ナ精神ヲ採取ッテシマッテ、茲ニ骨抜ノ案トシテ斯ウ云フ風ニ現レテ來タ、勞働組合法ヲ作ッテサウシテ勞働者ヲ保護スルコトガ國家産業ノ上カラ云フト、ヤラナケレバナラヌコトデアアル、共存共榮ノ道理ノ上カラ云ッテヤラナクチャナラヌト考ヘルナラバ、何ガ故ニ其所信ニ向ッテ邁進ヲシナイノデアアルカ、一方ニ於テハ勞働者ヲ保護スルト云フヤウニ見セ掛ケテ、其實ハ却テ資本家ノ走狗トナルガ如キハ、陰險極マル態度デアルト謂ハナケレバナラヌ〔拍手〕斯ナ事ハ吾々トモモ解釋ガ出來ナイ、闇黒ヲ好ム所ノ惡辣ナ政治家ナラ斯ナ法律ハ解釋出來ルカ知ラヌケレドモ、吾々ハ到底斯ウ云フ法律ノ精神ヲ解釋スルコトガ出來ナイ、理解スルコトガ出來ナイカラシテ、此二點ニ付テ簡單ニ御答辯ヲ願ヒタイ、即チ第一ハドウ云フ譯デ斯ウ云フ風ナ鑄型ヲ設ケテ、此鑄型ニ符ッテ來ナケレバ即チ勞働組合ト認メナイトスルノデアアルカ、第二ハ聯合體ト云フモノヲ何ガ故ニ認メナイノデアアルカト云フ點ニ付テ、簡單デ宜シウゴザイマスカラシテ明瞭ナル御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス〔拍手〕

○議長〔粕谷義三君〕 安達内務大臣

〔國務大臣安達謙藏君登壇〕

○國務大臣〔安達謙藏君〕 山口君ノ御問ニ對シテ御答致シマスガ、山口君ハ大體ニ於キマシテ、今度ノ勞働組合法案ハ、勞働者ヲ壓迫スル爲ニ出來テ居ルト云フ御言葉デアリマスガ、是ハ少シク極端ナル御言葉デハナカラウカト考ヘマス、私ハ我國ニ一ツノ思想ノ大體ヨリ流レガアル、非常ニ急進

シタ方ノ思想ト、ソレカラ保守、守舊ト申シマセウカ、保守的ノ考トガアル、ソレデ何時モ此労働問題ガ現レマスト異論ガ極端ト極端ニ分レテ居ル、山口君ハ此法律案ヲ以テ直ニ労働者ヲ壓迫スル、決シテ其地位ノ改善向上デハナイト云フヤウナ御話ニナルケレドモ、他ノ方面カラ此労働組合法案ガ行ハレタナラバ、是デハ非常ニ資本家ヲ壓迫スル、斯ウ云フ意見ガ確ニアル、ソレデ此十二條トカ、例外法規ヲ認メテ居リマス十二條トカ、或ハ十四條、ア、云フ所ハ削除シテ實ヒタイト云フヤウナ希望モ確ニアル、ソレデ此山口君ノ御話ノヤウナ思想ト、ソレカラ只今申シタヤウナ思想ト、

スルニ、昨年ノ議會カラ本會議及委員會ニ於テ、此問題ニ付テハ大分質問應答ガ行ハレテ居ルノデス、モウ始メ質問應答ガ盡サレテアリマスルガ、是ヨリ以上ハ唯、相互ノ意見ノ相違ニナルノデ、政府ハ此程度ニ於テ今日法律ヲ作ルガ宜シイト云フノニ、モシ組合ノ聯合マデモ認ムルマデ進メヤウト云フ意見ニ過ギナイノデアリマスルガ、私ハ現在ノ我國ノ状態デハ、此法律案ノ程度ニ作ルコトガ、最も各方面ニ適合スル所ノ立法デアルト云フコトヲ、御答シテ置キマス(拍手)

(山口義一君登壇)

二大潮流ガ我國ノ國民ノ間ニアル、是ハ私ハ公平ナルコト、思フ、ソレデ此法案ヲ作リマスニ付テ、此極端ト極端トノ二ツノ潮流ノ思想ヲドウシテ調和スルカ、問題デアル、ソレデ山口君ニ言ハセマス非常ナ不徹底デアル、一方カラ云フト是ハ餘リ進ミ過ギテ居ル、即チ其所ニ私ハ雙方カラ不平不滿ノ聲ヲ聞ク、其中間ニ私ハ我國ノ現在ニ處スル所ノ眞理ガアリハシナイカト云フ、斯ウ云フ考ヲ持テ居リマス(拍手)苟モ法ヲ作ル以上ハ、現代ニ處シマシテハ現代ノ世相ニ適合スルヤウナ法律ヲ作ラナケレバナラヌ(拍手)唯、單純ニ理想ニバカリ馳セテモイケマセヌ、ソレデカラ我國ノ今日ノ状態デハ、同一又ハ類似ノ職業等ニ依テ、労働組合ヲ區別シテ造ラシムルト云フコトガ、今日ノ状態ニ最も相應シイコトデアッテ、我國ノ現狀モ亦此通りデアル(答辯ニナラナイ)ト呼フ者アリ(第二ノ御尋ノ組合聯合ヲ認メナイ、組合ノ聯合ノアルト云フコトハ認メテ居リマスルケレドモガ、御承知ノ通り唯、其法人格ヲ認メナイ、ソレダケニ過ギナイノデアリマス、之ヲ要シマ

○山口義一君 私ハ安達内務大臣ガ四五年前ノ在野當時ニ於キマシテハ、最も理想的ナル労働組合法ヲ二度モ三度モ此議會ニ出シテ置キナガラ、五年モ六年モ經テカラ、初メテ我國ニ於テ二ツノ思想ノ流れガアルト云フコトヲ御氣付キニナタト云フコトヲ、洵ニ遺憾トスルノデアリマス(拍手)ソレカラ私ハ何モ我國ニ思想ノ流れガ二ツアルト云フヤウナコトニ付テ、御尋ヲ致シテ居ルノデハナクシテ、此第一條「同一又ハ類似ノ職業又ハ産業ノ労働者ハ本法ニ依リ労働組合ヲ設立スルコトヲ得」斯ウ云フヤウナ條文ヲ設ケテ居テハ、労働者ヲ壓迫スルト云フコトニ結局ナル、私ハ言葉ヲ強テ強メテ申上ゲルノデハナイケレドモ、事實ニ於テサウ云フ風ニナルト云フノハ、即チ私ガ先程申上ゲマシタヤウニ、労働者ハ同一職業ノ者ガ集テ一ツノ組合ヲ造ルト云フコトガ、便利ト致シマスル場合モアリマセウシ、又違フタ所ノ職業ノ者ガ集テ組合ヲ造ルト云フコトガ、便利トスル場合モアルカラシテ、即チ労働者ノ爲ニ作リタ法律デアアルカラシテ、何レガ便利デアアルカト云フコトハ、労働者自身ノ一ハ認定ノ

自由ヲ、労働者ノ方ニ與ヘテ行カナケレバナラヌノデアリマス、労働組合運動ノ母國ト云ハレテ居ル所ノ英國ニ於テサヘモ、同じ地方ニ於ケル所ノ種々種々ナル所ノ労働者ガ一種々種々ナル職業ノ違フテ居ル所ノ労働者ガ集テ、サウシテ一ツノ組合ヲ成シテ居ルト云フ例ガアルノデゴザイマスルカラシテ、私ハ此事ヲ御伺致スノデアアル、如何ニ安達内務大臣代理ガ労働者ヲ保護スルノデアアル、其條件ヲ維持改善スルノガ、此法律ノ目的デアルト仰シヤッテモデス、斯ウ云フ條文ガ、設ケラレテアリマスル以上ハ、其結局ニ於テハ労働者ノ運動ヲ阻止スルコトニナル、壓迫スルコトニナルト云フコトヲ、私ハ申上ゲテ居ルノデアアル、ソレカラ第二ノ聯合體、此質問ニ對スル安達内務大臣代理ノ御答辯ハ、即チ事實上ニ認メテ居ルカラシテ、ソレデ宜イデハナイカト云フ簡單ナル御答辯、ソレガイケナイノデス、事實上ニ認メテソレデ宜イ位ナラ、斯ナ法律ヲ作ル必要ハナイ(拍手)事實上ニ認メテ居テモ種々ナル不利益ガアル、種々ナル不利益ガアルト云フノデ、茲ニ法律ニ依テ、此労働組合ヲ確認シテ、其利益ヲ擁護シヤウ、其幸福ヲ増進シヤウト云フ所ニ、此労働組合法ヲ設ケタ理由ト根據ガアルノデアリマス、唯、事實上ニ認メテ居ルト云フナラバ、現在澤山ノ労働組合ガアルノデアラカラシテ、ソレヲ認メテ斯ナ法律ヲ作ラナクテモ、抛テ置ケバ宜シイノデアリマスガ、事實上ニ認メテ居テモイケナイカラ、此法律ヲ作ルト云フコトニナッテ、此法律ガ出來タノデアリマスカラシテ、唯、事實上ニ認メテ居ルト云フコトダケハ、答辯ニモ何ニモナリハシナイ、ソレカラ此小サイ所ノ團體ノ間ハ認メテ居テ、サウシテ大キクナッタヲ認メナイ、斯ウ云フコ

トニナッテ居ル、三十人ヤ五十人、其間ハ是ハ認メル、單一組合ノ間ハ認メルケレドモ、ソレガ幾ツモ集テ大キナ團體ニナッテ、聯合體ニナルト認メナイ、斯ウ云フコトニナルト、威力ノ無イ所ノ小サイ團體ハ認メテ居テモ、是ハ何モ恐ロシイコトガ無イカラ認メテ置ク、ケレドモソレガ集テ大キナ團體ニナッテ、威力ヲ發揮スルヤウニナッタナラバ、是ハ資本家ノ方ガ恐ロシイカラ、是ハ認メラレヌト云フコトニナッテナラバ、是ハ即チ労働者ヲ保護スルニ非ズシテ、資本家ノ走狗ニナッタモノニアラズシテ何ゾヤト謂ハナケレバナラヌノデアアル(拍手)サウシテ更ニ又實際ノ場合ヲ考ヘテ見ルト、平和條約ノ第三百八十九條ニ依ルト云フト、政府ハ國際労働會議ニ代表者ヲ出ス場合ニ於テハ、其國ノ最も有力ナル労働團體ト協議ノ上デ、其代表者ヲ出スヤウニト云フコトガ、平和條約ノ三百八十九條ニ書イテアル、ソコデ政府ハ今迄ドウ云フ風ニヤッテ來タカト云フト、行政上ノ取扱ノ上ニ於テハ、千人以上ノ團體ヲ以テ有力ナル團體ト認メテ、千人ニ一票ノ投票權ヲ與ヘテ、サウシテ候補者ヲ選ンデ、國際労働會議ニ代表者ヲ派出シテ居ル、斯ウ云フコトニナッテ居ル、即チ政府ハ行政上ノ取扱ノ上ニ於テハ、此聯合體ト云フモノヲ認メナケレバナラヌト云フコトニ相成ッテ居ル、行政上ノ取扱ノ上ニ於テハ認メナケレバナラヌモノヲ、法律上ニ於テハ之ヲ確認スルコトガ出來ナイ、其部分ノ内ノ更ニ一部分ノ細胞ニ過ギナイモノダケシカ認メルコトハ出來ナイト云フコトニナリマスト云フト、如何ニ強辯ナサッテモ、此法律ハ即チ資本家ノ走狗トナッタモノデアルト言ハレテモ、致シ方ガナイノデゴザイマスカラ、此點ヲ餘計ナ思想ノ流レトカ、何トカ云フ

ヤウナコトハ、貴方ニ聞カヌデモ私ハ能ク存ジテ居リマスカラシテ、簡單ナル此第一條ト、ソレカラ第二ノ問題、即チ聯合體ヲ何ガ故ニ法律上ニ於テ認メナイカト云フ、此簡單ナル御尋ニ對シテ、明瞭卒直ナル御答辯ヲ願ヒタイト思フノデアリマス（拍手）

〔國務大臣安達謙藏君登壇〕

○國務大臣（安達謙藏君） 先ニ御答辯致シマシタ通りニ……（發言者多シ）

○議長（粕谷義三君） 靜肅ニ願ヒマス

○國務大臣（安達謙藏君）（續） 我國ノ現在ノ狀態デハ、此同一又ハ類似ノ職業又ハ産業ノ労働者ト云フ、之ニ依テ労働組合ヲ作ルガ一番適當デアアル、即チ個人ヲ單位トシタ所ノ労働組合ヲ造ルコトヲ認メテ居ルノデアリマス、ソレデ從テ此組合聯合會ノ設立ニ付テハ個人ヲ單位トスル組合ヲ認メテ居テ、サウシテ此聯合組合ハ矛盾シテ居リマス、ソレデ組合聯合ノ方ハ、是ハ實際ニ於テハ否認ハシテ居リマセヌガ、唯、法人格ヲ與ヘザルノミデアアル、ソレニ過ギナイノデアリマス、ソレ以上ハ山口君ノ御議論ニナリマスカラ、是ハ見解ヲ異ニスルカラ仕方ガナイノデアリマス（拍手）

○山口義一君 私ハ安達内務大臣代理ノ御答辯ニ依テ、満足ハ出来ナイノデアリマステレドモ、是レ以上御尋ヲ致シマシテモ同ジコトデゴザイマスカラシテ、更ニ委員會ニ於テ質問ヲ致シマス

○議長（粕谷義三君） 次ハ安藤正純君

〔安藤正純君登壇〕

○安藤正純君 私ハ只今議題ニナッテ居リマスル労働組合法案ニ付キマシテ、只今同僚山口君カラ緊切ナル御質問ガアリマシタガ、之ニ對スル内務大臣代理ノ答辯ハ、全ク不得要領デアリマス（ヒヤ）尚ホ其他ニ

付キマシテモ、御尋ヲ致シタイコトハ澤山アルノデアリマスガ、併シソレ等ハ委員會ノ機會ニ讓ルト致シマシテ、只今ハ此労働組合法案ヲ審議スルニ當テ、ドウシテモ伺テ置カナケレバナラナイ事柄ノ根本ノ事ヲ三、四ニ付テ御尋ヲ致シタイト思フノデアリマス、私ハ假ニ七ツダケノ簡單ナ質問ヲ致シタイト思フノデアリマスカラ、何卒御聽取ノ上ニ、明快ナル御答辯ヲ願ヒタイノデアアル、第一ニ此労働組合法案ハ昨年提出セラレタ重要ナ法案デアリマス、委員會モ大變長ク掛ッテ、非常ニ時間ヲ費シマシテ、慎重審議ヲシタモノデアアル、而モ昨年ノ委員會ニ於キマシテハ、労働組合法案ト労働爭議調停法案ト、治安警察法改正法案ト、此三案ヲ一括シテズト審議ヲ致シテ參ッテ、同時ニ質問ガ終リテ致シマシタ、質問ヲ終ッテカラ二週間目ニ愈、討論トナツタ場合ニ於キマシテ、三案一括デ來タノデアアルカラシテ、又三案ヲ一括シテ討論ヲスルト云フノガ當然ノ順序デアアルニ拘ラズ、如何ナル故カ憲政會ノ委員ハ此際ニ至リマシテ、労働組合法案ヲ殘シマシテ、他ノ二案ダケノ討論ニ移ルト云フコトヲ主張致シタノデアリマス、私ハ當時左様ナ理窟ハナイ、殊ニ此三案ノ中デ何ガ一番根本ノデアアルカト云ヘバ労働立法ト致シマスレバ労働組合法——労働者ノ團結ヲ法認スル所ノ労働組合法ガ根本ノ法律デアアルカラ、先ヅ之ヲ取除クト云フコトハイカヌト云フコトヲ主張ヲ致シマシタ、殊ニ二週間モ前ニ皆揃ッテ質問ガ終リシテ居ルノニ、組合法ダケヲ後ニ殘ス理窟ハナイト云フコトヲ、私及政友會ノ委員ガ揃ッテ熱論致シマシタケレドモ、遂ニ憲政會等ノ委員ハ労働組合法案ダケヲ後殘シニシテ、他ノ二案ヲ終結致シマシテ、ソレガ本院ニ於テ可決

ヲセラレ、今日マデ此労働組合法案ナルモノガ握潰シトナッテ居ル、是ハ會期ニ餘裕ガナクテ握潰シタノデハナイ、所謂政府及與黨ガ腹ヲ合セテ故意ノ握潰シヲ致シタノデアリマス、私ハ當時政府及與黨ノ態度頗ル奇怪不思議デアルト思フテ居リマシタガ、併シ更ニ反面カラ之ヲ考ヘテ見ルト、是ハ或ハ無理ガナカラウ、即チ昨午出シタ労働組合法案ト云フモノハ、其當ノ目的デアアル労働團體、労働組合ニモ非常ナ不評判デアアル、サラバト云ッテ、其相手方デアアル資本家ニモ亦不評判デアアル、新聞、雜誌、總テノ世間ノ輿論悉ク不評判デアツカカラ、隨テ委員會ノ空氣モ——委員會ノ議論ニ於キマシテモ、色々議論ガ多クッタノデアリマス、斯ノ如ク總テノ空氣ガ惡クシテ、輿論ガ之ヲ認メナイ法案ヲ、此傳通スト云フコトハ宜シクナイト、政府及與黨ガ反省ヲシタノデアッテ、即チ故意ニ不自然ノ握潰ヲシテ、而シテ一年間ニ之ヲ比較研究シテ、能ク委員會ノ議論ニ應ミ、世論ニ問ウテ研究ノ上、出直シテ來ルコト、思ッテ、ソレナラバ此故意ノ握潰モ亦譯ガ分ルト、斯ノ如ク自分カラ善意ニ解釋ヲシテ、自ら慰メテ居タノデアリマス、然ルニ何ゾ圖ラン今回提出シテ參リマシタ労働組合法案ヲ見マス、全然昨年ト違ッテ居ラナイ、殆ド一字一句異ッテ居リマセヌ、是ハ餘リニ昨年及今日迄ノ輿論ト云フモノヲ尊重シナイト云フコトニナリハシマイカ、更ニ昨午本院委員會ガ連日斯ノ如ク骨ヲ折ッテ討論ヲシテ發表ヲ致シマシタ委員會ノ議論ヲ尊重シナイデ、本院ヲ侮辱シタ政府ノ仕方ト言ハレテモ、仕方ガナイダラウト思フ（拍手）而モ内務大臣ハ一年考究ヲシテ、果シテ昨年通りノ案ガ矢張最善ノ案ダト御確信ガアッテ、此労働組合法案ヲ御提出ニナツタ

ノデアリマス、如何デスカ、又果シテ貴方ガ昨年アレ程議論ガアツタニモ拘ラズ、一年間考究ノ上、今日ノ此組合法案ヲ最善ダト御確信ニナッテ御提出ニナツタノナラ、私ハ茲ニドウシテモ聞カナケレバナラヌ事ガアル、ソレハ細カイ事ハモウ申上デマセヌ、ドウシテモ言ハナケレバナラヌコトハ、只今山口君ガ質問ヲサレタ、労働組合法ト云フモノヲ職業別、產業別ニ限定ヲシタコト合同組合ト云フモノヲ承認シテ居ラヌト云フコト、是ハ大問題デアアル、労働組合ノ現在及將來ノ消長ニ取ッテノ大問題デアアル、ソレカラ矢張山口君ガ言ハレタ聯合組合——單一組合ハ承認スルガ、聯合組合ハ法律上承認シテ居ラナイ、是ハ現在ノ狀態ニ背イテ居ルノデナイカ、是ハ大問題、更ニ労働組合ノ法人格ヲ強制シテ居ルコトデアリマス、是ハ大問題ト言ハナケレバナラヌモウツハ雇傭契約、雇主ガ労働者ヲ雇フ場合ニ於キマシテ、労働組合員デアアルカトノ故ヲ以テ之ヲ脱退セシメタリ、雇ハナカタリ、將來這入ッテハイカヌト云フコトヲ約束シテハイカヌト云フ條件ハアルガ、ソレニ制限ガナイ、罰則ガ附イテ居ラナイ、ソレデハ何ニモナラナイ、先ヅ此四ツノ點、即チ職業別、產業別ニ限定シタコト、聯合組合ヲ法律上承認シナイコト、組合ヲ總テ法人トスルコト、雇傭契約ニ罰則ヲ附セナイコト、是等ノ點ハ今日尙ホ内務大臣ハ是ガ最善ノ案ダト御確信ニナッテ居ルノデアラナラバ、其最善ト確信スル根據ヲ簡單明瞭ニ承リタイノデアリマス、第二ニ質問シタイノハ、昨年ノ労働組合法案ハ可ナリ早ク出タ、隨テ本會議ニ上程サレタノハ二月十六日デアリマス、本年ハ非常ニ遅ク出タ今日ハ三月十日デアアル、餘ス所僅ニ二週日デアリマス、昨年ハ議論ガ随分多クッタ

ガ、本年モ亦委員會ニ行ッテ議論ガ多イニ
違ヒナイ、併ナガラ縱ンバ衆議院ハ通ッ
ト致シマシテモ、貴族院へ行ッテ此勞働組
合法案ガ通過ニナルト云フ貴方ハ御見込ガ
アルノカドウカ、貴族院ハ斯ル重要法案ニ
付テ宜イ加減ニ通スト云フコトハ致スマイ、
會期僅ニ二週日ニ迫ッタ今日、衆議院ガ縱
シ通ッテモ、貴族院ガ之ヲ通過セシメルト
云フ御見込ガアルノカドウカ之ヲ伺ヒタイ
是ニ於テ私ハ疑問ヲ生ズル、昨年通りノ案
ナラバ、何故モウト早く提出ヲシナイノカ
(拍手)何モイザコザ苦勞ガ無イデヤナイ
カ、其儘出セバ宜イノヲ、何故其儘デ今日
マデ引張ッテ置イタカ、而モ吾々ノ方デハ
青木精一君ガ豫算總會ノ席上ニ於キマシテ、
又豫算分科會ノ席上ニ於キマシテモ、總理
大臣並ニ内務大臣代理ニ向ッテ、勞働組合法
案ハ今年提出スルノカシナイノカ、スルナ
ラ何故早くシナイノカト云フコトヲ追問ヲ
シテ居ルノデアアル、然ルニモ拘ラズ今日マ
デダズ、シテ遅ク提出ヲシタト云フ所ヲ
見ルト、政府ハ眞面目ニ本案ヲ成立スル考
ガ恐ラク無イノデアッテ、表ニ勞働者ノ歡
心ヲ買ヒ、裏ニ資本案ニ通ジテ肚ノ底デハ
之ヲ擱置シタイト云フ本意デアラウト思フ
(拍手)是ハ實ニ勞働立法ニ對スル政府ノ不誠
意デアルト共ニ、實ハ議院ヲ愚弄スルモノ
ト謂ハナクテハナルマイ(拍手)内務大臣ガ
此本案通過ニ對スル確信ガナイ間ハ、吾々
ハ之ニ對スル審議ヲ進メルコトハ出來ナイ
ノデアリマス、之ニ對スル御確信ノ點ヲ伺
ヒタイ、次ニ第三ニ今度ハ總理大臣ニ質問
ヲ致シマス、總理大臣ハ一昨日、即チ八日
ノ此壇上ニ於キマシテ、私ガ議事進行ノ發
言ヲ致シマシタ際ニ、最後ニ勞働組合法案
ノ提出、斯ル重要法案ヲ段々遅ラシテ、何
故斯ク遅ク提出シタカト云フコトヲ質問ヲ

致シマシタラバ、其際總理大臣ハ斯ノ如ク
御答ニナッテ居ル「今回提出致シマシタ
モノハ昨年ノ法律案ト略、同様デアリマス、
ソレデアリマスカラ、モト早く提出出來
サウナモノダト云フ御考ガアラウト存ジマ
スガ、政府ニ於テハ昨年議會ニ於ケル御議
論ヲ參酌致シマシテ、ドウカ兩方ノ御議論
ヲ折衷シテサウシテ何レノ御賛成モ得ル
ヤウナ法案ヲ立案シタイト云フガ爲ニ調
査ニ遅レタ次第デアリマス」ト斯ク答ヘ
テ居ル、是ハ全然嘘、パチデヤナイカ(笑
聲)何ガ略、同様デス、略、ト云フノハ先
ヅ是ダケデアル中ノ是ダケガ同ジデ、ア
トハ違ッテ居ルト云フノガ略、ト云フコ
トダ、全部違ハナケリヤ略、デヤナイデヤ
ナイカ(拍手)略、ト云フノハドウ云フ事ダ、
又昨年議會ニ於キマシテ、御議論ノアル
點ヲ參酌シテ、兩方ノ賛成ヲ得ルヤウニ
シタイト思ッテ調査ヲ進メタモノダカラ
遅レタト云フガ、昨年ノ議論ハ一ツモ參酌
シテ居ラナイデヤナイカ、何所ニ參酌シテ
アル(拍手)其儘出シテ置イテ左様ナ好イ加
減ナ事ヲ仰シヤルト云フコトハ、總理大臣
ノ信用ニ關ハル重大問題ダト思フノデアリ
マス(拍手)殊ニ本年ノ總理大臣ハ、昨年ノ
内務大臣デアリマス、昨年ハ貴方ノ所管事
項デアッタ、貴方ノ所管事項タル勞働立
法ガ、今年ニナッテドンナ風ニ變ッテ居ルカ、
ドウナッテ居ルカト云フ事スラ、能ク御承知
ナイト云フノハ呆レ返、タコトデヤナイカ
(笑聲)此頃ハ憲本聯盟ト云フコトヲサレ
テ、政策ノ協定ヲサレルト云フ噂デアアル、
政策ノ協定ト云フ事ナラバ、勞働立法ノ如
キハ我國ニ於ケル重大政策デアアル、總理大臣
タル者ハ此勞働立法ガ如何ナル内容ニナ
テ居ルカト云フ事ヲ、能ク頭ノ中ニ入レテ
置クト云フノデナケレバ、政策ノ協定ナゾ

ハ出來ナカラウト私ハ思フ、私ハ政策協定
ナゾト仰シヤルガ、實ハ妥協、符合、符合ヒ
政治ニ憂身ヲ鑒シテ居ル所ノ總理大臣ガ、
重要政策ナゾハ忘レテシマッテ、勞働者ノ利
害ナドハ飛ンデモナイ所ニ飛ンデ行ッテシ
マッテルノデハナカラウカト思フノデアリ
マス、(拍手)貴方ガ一昨日此壇上ニ於テ答
ヘラレタ事ハ間違デアアル、之ヲ間違デア
ルト仰シヤレバソレデ宜シイ、間違デアリ
ト云フノナラバ、間違デアリト云フ何所マデモ
私ハ追窮致シマスカラ、此點ヲハ、キリ承
リタイノデアリマス、第四ニ内務大臣ニ質
問シタイトハ、勞働組合法案ノ提案ノ理由
書ヲ讀ンデ御覽ナサイ「近時勞働組合ノ發
達著シク其ノ產業界ニ於ケル地位頗ル重要
トナリ來レルノ狀態ニ鑑ミ、勞働組合法ヲ制
定シテ勞働者ノ團結ヲ公認スルコト緊要ナ
リト認ム」トアル、是ガ提案ノ理由デアッテ、
今安達内務大臣代理ガ此處デ提案理由ノ説
明ニ當ッテモ、昨年ニ於ケル所ノ勞働組合ノ
數ハ五百アッテ、組合員ガ二十七万余人ア
ル、ソレデアアルカラ、自助的ニ之ヲ發達サ
セナケレバナラヌカラ、此勞働組合法ト云
フモノヲ制定シテ、早く之ヲ拵ヘタイ、斯
ウ云フ御説明デアッタ、何レカラ見マシテ
モ、現時ノ勞働組合ヲ重要ト致シマシテ、
之ヲ保護シ、發達セシムルト云フ御精神デ
アラウ、即チ現在ノ勞働組合ニ同情ノアル
根據デアッテ、單ナル禁壓主義ヤ取締主
義デアハ——此理由書カラ見レバナイノデア
リマス、果シテ提案ノ理由ニ偽リガナイノ
ナラバ、現時ノ組合ヲ破壊シタリ、或ハ其
維持ヲ困難ナラシメタリスル規定ト云フモ
ノハ、此勞働組合法案ヲ出シタ其理由精神
ニ悖ルト謂ハナクテヤナラナイ、然ルニ此
條文ノ一々ヲ讀ンデ見マスト、是ハ取締主
義ナンデアアル、保護主義ト云フヨリハ取締

主義ナンデアアル、取締ヲ主ト致シマシテ、
寧ロ勞働組合ノ典型ヲ作ルヤウニ見エルノ
デアリマス、ソレデ之ニ該當シナイモノハ
保護シタイト云フ結果ニナル、現時ノ組
合ヲ能ク見テ見マスト、此規定ニ當嵌マル
モノハ極メテ少イノデアアル、即チ組合ノ過
細ナル——細カイ取締ニナリマシテ、其取
締ガ即チ現存ノ組合ヲ破滅シ、或ハ困難ニ
陥レシムルト云フ結果ニナルノデアアルカ
ラ、即チ此内容ト云フモノハ、勞働組合ノ
現在ノ狀態ヲ重要ト認メテ、之ヲ保護スル
ト云フ此組合法案提出ノ理由書、即チ精神
トハ違ッテ居リマシテ、茲ニ内容ト理由書ト
ガ矛盾ヲシテ居ルノデアアル、況ヤ今日ノ時
代ニ於キマシテハ、法律ト云フモノヲ先ヅ
作ッテ、其作、タ法律ヲ以テ社會ノ總テノ事
相ヲ創造スルト云フガ如キコトハ、是ハ所
謂法律萬論設デアッテ、時勢運レノ事デア
リマス、法律ト云フモノハ事實ガ存在シテ
居ル、其事實ノ存在ヲ、如何ニ合理的ニ認
識セシムルカト云フ所ニ、法律ノ權威ガア
リ、法律ノ實際ガ行ハレルモノデハナカラ
ウカト思フ、即チ此勞働組合法案ナルモノ
ハ茲ニ大ナル缺點ガアルノデアリマス、ダ
カラ昨年ノ議論ニ鑑ミテ、大ナル改造ヲシ
ナケレバナラナイノニ、其儘デ提出シテ來
タカラ、本年モ亦勞働組合間ニ大反對ア
リ、又資本案モ大ニ之ヲ喜ンデ居ラヌト云
フ狀態デアリマス、既ニ此基礎觀念ニ錯誤
ガアリマスカラ、隨テ理由書ハ現時ノ勞働
組合ヲ保護スル如ク、而シテ此内容ハ現時
ノ勞働組合ノ取締主義ニナッテ居ル、此内
容ト理由書トノ矛盾デス、明ニ矛盾ニナッ
テ居ルガ、内務大臣ハ之ニ矛盾ガ無イト信
ジテオキデニナルノカドウカ、此點ヲ承リ
タイ

〔粕谷議長議長席ヲ退キ小泉副議長代リ著席〕

第五ニ質問ヲシナケレバナラナイコトハ、勞働組合法ノ本質ト云フモノハ、此第二條ニ出テ居ルヤウニ、勞働條件ノ維持又ハ改善ト云フノガ、即チ勞働組合法ノ本質デアリマス、組合員ノ共濟ト云フヤウナコトハ、是ハ謂ハム伴タル目的デアツテ、主目的デハナイ、即チ其主タル目的デアル勞働條件ノ維持又ハ改善ト云フコトガ主目的ナラバ、其主目的ヲ完全ニ到達セシメルノニハ、團體交渉權ト云フモノガ、ドウシテモ必要ニナルノデアリマス、所ガ其團體交渉權ト云フコトハ、議論ガアルナドト云フヤウナコトヲ仰シヤルカモ知レナイ、只今山口君ニ對スル答辯デモ、我國ニ於テハ思想ノ潮流ガ二ツアツテ、一方ハ進シモノデ、一方ハドウトカシタモノデアルト云フテ居ラレタ、ダカラ其團體交渉權ト云フヤウナ、其ヤウナ行キ過ギタモノハ、我國デハ取上ダルコトガ出來ナイト云フヤウナ御考デアルカモ知レナイ、ソレナラソレデ何故サウ言ハナイカ、現ニ昨年政府ニ於テハ、團體交渉權ト云フコトヲ否定シテ居ラナイデハナイカ、肯定シテ居ルデハナイカ、昨年ノ委員會ニ於キマシテハ、此團體交渉權ノ質問ニ對シテハ、否認シナイバカリデハナイ、近キ將來ニ於テ單行法ヲ以テ之ヲ決メルト云フテ居ルデハナイカ、幾ラモサウ云フ點ガアリマスガ、唯、一箇所ダケヲ讀ンデ置キマス、昨年委員會ノ質問ニ對シマシテ、政府委員ノ答辯ニソレデ勿論現在提出致シマシタ法案ノ中ニ團體契約即チ勞働者ガ團體ノ企業者ト契約致シマシタ場合ニハ、之ト相反スル個々ノ勞働者ノ企業家ニ對スル勞働契約ヲ無効トスルト云フコトノ趣旨ヲ、直ニ此法案ガ否定シテ居ル次第デハ決

シテナイノデアリマス、是ハ先日來内務大臣カラ御答申上デマシタ如ク、外國ノ構成ニ於テモ勞働組合法又團體協約ト云フモノハ、自ラ構成上別ノ組織ニナツテ、別ノ構成ニ屬シテ居リマスカラ、是ハ尙ホ篤ト研究ヲ致シマシテ、近キ將來ニ於テ單行法ヲ制定致シタイと思ヒマス、斯ウ言テ居ルデヤナイカ、然ラバ單行法デ團體交渉權ト云フモノヲ出スト云フコトノ善イ惡イト云フコトノ議論ハ暫ク之ヲ預ツテ置キマスガ、唯、若シ政府ガ本當ニ正直デ、本當ニ議會ニ對スル誠意ガアリ、勞働者ニ對スル誠意ガアルナラバ、昨約束ヲ致シテ近キ將來ニ於テ單行法ヲ制定シテ、之ヲ提出スルト云フタ、其言責ヲ履ンデ茲ニ團體交渉ノ單行法ヲ先ヅ以テ提出スルノガ、信義アル政治家ノ行動ト謂ハナケレバナラヌト思フ（拍手）一體ドウナサルノデスカ、此團體交渉權ノ問題ハ斯ク約束ヲシテ置キナガラ、何所マデ研究ヲシタカト云フノデス、何所マデ研究シテ何時御提出ニナル御考デアルカ、之ヲ承リタイ、ソレトモ其時々ノ答辯ヲシテ、後ハ忘レタルガ如ク、願ミテ他ヲ語ッテ居ルノガ今頃ノ政治家デアルト云フ御考デアアルカドウカ、承リタイノデアリマス（拍手）第六ノ質問デアアル、昨年ノ此案ヲ見マスルト、附則ニ「本法ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ實施ス」トアル、所ガ本年ノ附則ノ實施期日ヲ見マス「本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」ト御改正ニナツタ、總理大臣ハ大變諸方ヲ調査シテ略ダノ、ヘタクレダノ言ッテ居ルガ、略、ドコロデハナイ、變々ノハ實施期限ノ昨年七月一日カラ施行スルト云フノヲ、本年ハ其案ヲ廢メテ、勅令ヲ以テ之ヲ定ムト變タ、是ガ一年間ニ於ケル勞働組合法案ノ唯一ノ御研究ノ結果ナノダ（拍手）是ハ首相ガ

兩方ノ議論ヲ參酌シテ、兩方カラ御賛成ヲ得ルヤウニシタト稱スル、唯一ノ改善、否、唯一ノ改惡案デアルト言ヒタイノデアリマス（拍手）一體此勞働立法ト云フモノハ、御承知ノ通りニ實施期ガ何時デモ遅レテ居ル、健康保險法然リ、改正工場法然リ、議會デハ決メルガ、何時デモ實施期ハ遅レテ居ルデハナイカ、段々引張ッテ、ダカラ勞働組合法モ、昨年ノヤウニ期日ガ決ッテ居ルノナラ宜シイ、期日ヲ決メナイデ勅令ヲ以テ之ヲ定メルトナルト、政府ノ都合デ段々引張ッテ、結局健康保險法ヤ改正工場法ノ轍ヲ蹈ムヤウナコトニナリハセヌカト云フコトヲ惧レルノデアリマス、昨年デスラ期日ヲ切ッテ居ルノニ、一年遅レタ今日、何デ態、勅令ニ讓タカ、何故ニ政府ハ斯ノ如ク遲延シ曖昧ナ態度ヲ執ッテ居ルノデアリマスカ、是ガ所謂本案ニ對シ、勞働者ニ對スル誠意ヲ認メルコトガ出來ナイト云フ所以デアリマス、何故ニ此點ヲ斯ノ如ク改正セラレタノカ、之ヲ明確ニ御答辯願ヒタイノデアリマス、尙ホ最後ニ質問ヲ致シタイ、一體此本年度ノ豫算ニ上ダタ政府ノ社會政策ト稱スル事業ノ項目ハ決シテ少イトハ云ヘナイカ、併シ其金額ハ實ニ少イ、假ニ勘定シテ見テモ、僅ニ五百萬圓ニ過ギナイ、社會政策社會政策ト云フテ、社會政策ノ看板ヲ高く掲ゲテ、其項目ノ頭ダケハズツト出シテ居ルガ、其金額——身體ト肉トハ殆ド釣合ガ取レテ居ナイ、十七億ノ豫算ニ對シテ僅ニ數百萬圓、是コソ私ハ本當ニ羊頭狗肉ノ社會政策ト言ヒタイノデアアル、併シマダ考ハアルケレドモ、財源ガ無イト言フカモ知レヌ、財源ガ無イナラ何故震災手形デ二億七百萬圓モ出スノカ、僅ナ少數ナ特殊ノ實業家ニ斯ノ如ク厚シテ、中産無產ノ多數階級ニ對シテ斯ノ如ク薄イト云フ、

此遣方ガ一向分ラナイノデアリマス、二億七百萬圓ガ是ガ國民全體ノ負擔ニナル、之ヲ一戸當リニ當ッテ見ルト、一體幾ラノ負擔ニナルカ、一戸即チ十二、三圓ノ負擔ニナルノデアアル、斯ウ云フ社會政策ハ貧乏人ニハ隨ッテ振撒イテ置キナガラ、政商デアルトカ、特權階級トカ、金持ト云フ者ニ對シテハ、美肉ヲ澤山ニ食ハセルト云フ現内閣一流ノ社會政策デアルト謂ハナケレバナラマイト思フノデアリマス（拍手）今度ノ組合法ガ即チ其通りデアアル、此筆法デアリマシテ、取締本位デアツテ、保護助長本位デアリマセヌ、即チ此提案理由ノ如キハ、眞實ヲ語ッテ居ルモノデアリマセヌカ、ソレデアアルカラ、私ハ斯ノ如キ不完全ナル法律ノ爲ニ、勞働組合ノ發達ヲ阻害スルト云フコトハ忍ビナイ、ダカラシテ寧ロ此法ノ立法ハ二年延ビテモ仕方ガナイ、殊ニ此兩院通過ノ見込ノナイ今日ニ、斯シナ見セビラカシハ止メテ、慮心坦懷ニ、奇麗ニ撤回ナサルト云フコトノ御考ハナイカドウカ、最後ニ一言致シタイノハ、一體現内閣ト云フモノハ立憲的ナ、合理的ナ國民ノ諒解ノ下ニ政治ヲヤツテ行カウト云フ御考ガ、現時段々遠ザカッテ來タヤウデアアル、之ヲ相撲ニ譬ヘレバ、四ツニ組ンデ堂々ト相撲ヲ取ル幕ノ内相撲デハナク、ケレンデ引掛ケ、小股堀ヒヲヤツテ得意ガツテ居ル陋劣ナル田舎相撲ノ遣口ガ現内閣デアルト思フ（拍手）殊ニ言ハナクテハナラナイノハ、此勞働組合法ト云フヤウナ、此國民ノ法律ヲ御出シニナル所管大臣タル安達内務大臣代理ノ如キハ、殊ニ此遣口デハナイカ、是ハ私ガ言フノデハナイ、世間ガ言ッテ居ル、國民ガサウ言ッテ居ル、斯ノ如ク國民ニ諒解ノナイ内閣ノ下ニ、此國民ノ法律ヲ出スト云フコトハ、恐ラク利害關係ノアル勞働者、勞働組合モ

決シテ喜ンデ居ラナイノデアリマス(ヒヤヒヤ)諸君、今ヤ普選ノ實施期ハ近クナツテ居ル、來年ハ普選ヲ行フ、普選ヲ行ヘバ勞働者ノ代表者ガ必ズ何名カ出テ來ル、縱ンバソレガタント出テ來ナイニシテモ、普選ヲ經テ來タ後ノ總改選後ノ其議會ハ、普選ノ意思ガ茲ニ反映ヲシタ議會ニナルノデアリマスカラ、此普選後ノ議會ニ於テ勞働者保護ノ法律ヲ制定スルト云フコトガ、是ガ一番自然デ適正ナル遣方デアルト思フノデアリマスカラ、此意味ヲ以テ斯ル見セビラカシナ、不完全ナル法律案ハ奇麗ニ撤回ナサツタラ如何デアルカ、之ヲ御勸メヲシ、且ツ質問ヲスルノデアリマス、是ダケノ質問ニ對シマシテ、希クハ安達内務大臣及若槻總理大臣ハ、直接ニ御答辯ヲ願ヒタイ、社會局長官ノ受賈ダケハ止メニナリマシテ、簡單デモ宜イカラ、貴方自身ノ頭カラ出タ御答辯ヲ願ヒマシテ、此壇ヲ降ルノデアリマス(拍手)

〔國務大臣安達謙藏君登壇〕

○國務大臣(安達謙藏君) 只今安藤サンカラ色々長イ御質問ガアリマシテ、其皮肉ナ惡口ト申シマセウカ、サウ云フコトニハ私ハ答辯ヲ致シマセヌ(此時發言者多シ)

○副議長(小泉又次郎君) 靜肅ニ願ヒマス

○國務大臣(安達謙藏君)(續) 唯、最初ノ御話ニ基キマシテ……(發言者多シ)

○副議長(小泉又次郎君) 靜肅ニ

○國務大臣(安達謙藏君)(續) 安藤君ハ昨年ノ五十一議會ニ於テ、此勞働法案ヲ政府及與黨デ提議シテ努力メタ、此法案ノ通過ヲ圖ラズニ、昨年ノ議會ニ於テ提議シテ努力メタ、併シ自分ハ好意ヲ以テ考ヘテ、政府モ與黨モ反省シテ、此度ハ必ズ之ニ修正ヲ加ヘタモノヲ出スデアラウト思フタガ、此法案ヲ見テ見ルト、昨年ト同様デアル、實ニ

怪シカラヌ、ソレデ此法案ヲ確信アツテ提出シタカドウカ、是ガ第一ノ御尋ノ冒頭デアリマシタガ、成程提出期ノ遅レタノハ、前ニ申上ゲマシタ通り甚ダ遺憾ト致シマス、併ナガラ此法案ヲ出シマスニ付キマシテハ、能ク輿論ニモ稽ヘ、各方面ノコトニ參酌シテ、何トカ之ヲ改正スベキ所ガ見出サレタナラバ、改正シヤウト云フ考ヲ起シタノデアリマス、所ガ前ニ御話シタ通り、矢張昨年提出シタ案ヨリ外ニ、現政府トシテハ此文字ヲ加除修正スル所ヲ見出サヌノデアリマス、ソレデ已ムヲ得ズ矢張昨年同様ノ案ヲ出シタノデアリマス、決シテ誠意ガ無いノデモ何デモナイ、全ク誠意ヲ以テサウシテ確信アツテ、之ヲ提出シタノデアル、ソレデ前ノ御問ノ第一條ノ職業別ガ宜シクナイ、產業別ガ宜シクナイト云フ御尋ハ、是ハ山口君ニ御答シタ同様デアリマシテ、我國ノ現在ノ狀態デハ、產業別、職業別トシテノ勞働組合ヲ認メルガ一番適當デアルト思ヒマシテ、又現在我國ニ行ハレテ居ル所ノ勞働組合ガサウデアリマスカラ、是ヨリ以上之ヲ殊更ニ認メナイト云フコトハ、吾々ハ必要ヲ感ジナイノデアリマスカラ、ソレデ產業別、職業別ノ個人本位ノ勞働組合ヲ認メルト云フコトヲ、立法ノ原則トシテアルノデアリマス、隨テ第二ノ組合聯合ノ事ニ付テハ、是ハ既ニ認メテ居ル、唯、其法人タル資格ヲ與ヘザルノミデアリマシテ、其聯合組合ノ働ト云フモノハ一向差支ハナイ、其組合聯合ノ設立ト云フモノヲ認メテ居ル、唯、法人格ヲ與ヘナイト云フ事ダケノ違ヒデアリマスカラ、是ハ是ヨリ以上ト云フモノハ、質問ニアラズシテ意見ノ相違デアル、ソレカラ此法案ハ組合ヲ強制シテ法人トスルト云フヤウナ御言葉ガアリマシタヤウデスガ、決シテ此法律案ハ

組合ヲ強制シテ法人トスルノデアリマセヌ、是ハ自由デアル、決シテ是ハ法人トシテ強制スルノデモ何デモナイ、此法案ニ依ラズシテ勞働組合ヲ造ルノハ自由デアル、ソレカラ罰則ガ無い、是ハ昨年カラノ御問ノヤウデアリマスガ、此第十四條ニ於キマシテハ、此解雇ノ意思表示ハ之ヲ無効トストシテアル、ソレデ罰則ハゴザイマセナクトモ、民事上無効トナリマスレバ、是ハ確ニ目的ヲ完全ニ達スルモノト認メルノデアリマスカラ、其他何等モ勞働者ニ利益ニナルヤウナコトハ無いト云フ事デアリマスガ、只今罰則ノ問題ニ觸レテ居ル所ノ第十四條ニ付キマシテモ、組合員ノ即チ勞働組合員ノ地位ニ保障ヲ與ヘ、又「ストライキ」ノ損害賠償ノ責任ヲ免除スルト云フコトハ、皆勞働者ノ方ニ對スル同情シタ所ノ立法デアラウト考ヘテ居リマス、ソレデ此場合ニ罰則ヲ設ケナクトモ、此解雇ノ意思表示ハ之ヲ無効トスルト云フコトデ、今日ノ社會ニ對シテハ、適當ノ規定デアル、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス、ソレカラ本年ニ提案ヲシタノガ、非常ニ遅イト云フコトヲ繰返シテ御話ニナリマシタガ、是ハ御尤デアリマス、併ナガラ最初辯解致シマシタ通りノ事情ガアツテ遅レ、而シテ提案シタノハ二月ノ二十八日デアリマスガ、二月二十八日カラ今日マデ上程スルコトヲ得ザリシハ、先ニ提案ノ時ニ申シマシタ通り、種々ノ他ニ急グ法案ガアツテ、豫算關係ノ爲ニ今日マデ議場ニ於テ遅レテ居リマスコトヲ甚ダ遺憾ト致シマス、サウシテ貴族院ヲ通過セシムル見込アリヤ否ヤ、私ハ出來得ルダケ努力ヲ致シテ、貴族院ヲ通過ヲ圖リタイト考ヘテ居リマス、モウ此衆議院ニ於キマシテハ、山口サンニシテモ、安藤サンニ致シマシテモ、昨年モ十分委員會及本會議ニ於テ質問

應答ガ濟ンデ居リマスカラ、ソレデ茲ニ御繰返シニナラナクテモ、大抵ノ事ハ分ツテ居リマスカラ、衆議院ノ方ガ幸ニ速ニ通過致シマシタナラバ、貴族院ヲ通過ヲ圖ル見込ガアルノデアリマス、ソレカラ提出ノ理由ト内容トガ矛盾シテ居ル、決シテ私ハ提出ノ理由ニ違ベマシタ所ト、此内容ハ矛盾シテ居ラウト考ヘテ居リマス、基礎觀念ノ錯誤ガアル、ソレハ安藤君ノ御考ノ基礎觀念カラシタラサウ言ハレマスカモ知レマセヌガ、吾々ノ此法案ニ對スル所ノ基礎觀念ハ決シテ錯誤シテ居ナイ、之ヲ以テ勞働者ノ總テノ條件ノ維持改善ト云フコトヲ圖リタイト云フ考ヲ起シテ居リマスカラ、決シテ基礎觀念ノ錯誤ハナイノデアリマス、ソレカラ團體交渉權ノ御話ガアリマシタガ、是ハ必シモ勞働組合法案ニ於テ規定セナクテモ、他ノ法制ノ下ニ之ヲ規定ヲシテ宜シイト考ヘテ居リマスガ、是ハ委員會ニ於テ昨年種々ノ質問應答ガアツタサウデアリマスカラ、其他ノ詳シイ事ニ付キマシテハ、他ノ政府委員ヨリ御答スル方ガ却テ便利ト思ヒマスカラ、他ノ政府委員カラ御答スルトニ致シマス、ソレカラ附則ニ付テ、附則ヲ七月一日ヨリ施行スルト云フコトヲ、勅令ヲ以テ之ヲ定ムト改メタ、是ダケガ改メタト御話ニナリマシタガ、成程變テ居リマス、併ナガラ此法案ガ通過スレバ、矢張七月一日ヨリ之ヲ施行シテモ少シモ差支ナイノデアリマスカラ、何等其内容ニ付テ變リハゴザイマセヌ、之ヲ要スルニ山口君ノ御尋モ、安藤君ノ御尋モ、吾々憲政會及現政府ハ、資本家ニアリ、資本家ノ壓迫ヲ受ケテ此法案ヲ拮ヘタトカ、斯ル骨抜ノ法案ヲ拮ヘタト云フ御言葉ガアリマシタガ、サウ云フコトハ全然吾々ニハアリマセヌ、先刻御話致シマシタ通り、吾々ノ考デハ、一

方ニ勞働者ノ勞働條件ノ維持改善ヲ圖ルト云フコトハ當然ノ話デ、ソレト同時ニ、一方ニ我國ノ産業ヲ盛ナラシムル上ニ於キマシテハ産業ノ發達ヲ圖ル爲ニハ、吾々ハ殊更資本家ヲ苦ムル必要モナト考ヘテ居リマス、是ニ於テ勞資ガ協調シ、所謂共榮シテ初メテ我國ノ産業立國ノ基礎ガ固マルドラウト思ヒマス、何等吾々ハ資本家ノ壓迫ヲ受ケタノデモ何デモナイ、資本家ノ相當發達スル所ノ途ガ立チマシテ、サウシテ初メテ勞働者ノ生活狀態、即チ勞働ノ條件ノ維持改善モ出來ルノデアリマス、此勞資共々ニ榮ヘテ行ケ、始メテ國家ノ産業立國ガ出來ルノデアル、吾々ハ決シテ資本家ノ壓迫トカ、何トカ受ケタコトハアリマセス、ノミナラズ憲政會ノ彙ニ提案致シマシタノハ、是ハ勞働組合ハ認可主義ヲ執ッテ居リマシタガ、此度ハ届出主義ヲ執ッテ居ルカラ、憲政會提出ノ當時ヨリモ、尙ホ一層進ンデ居ルト云フコトヲ申添ヘテ置キマス

○副議長(小泉又次郎君) 俵政府委員

〔政府委員俵孫一君登壇〕

○政府委員(俵孫一君) 團體契約ニ關スルコトニ付キマシテ、私ヨリ答辯ヲセヨト云フコトデアリマスカラ、御答申上デテ置キマス、安藤君ノ言ハル、通りニ、團體交渉ニ關スル事柄ハ、昨年モ委員會ニ於キマシテモ、政府ハ大體ニ於テ決シテ反對デハナイト云フコトヲ申上デマシタガ、今日モ同様デアリマス、唯、此事柄ヲ勞働組合法案ノ中ニ書カナカッタコトハ、自ラ法規ヲ異ニシテ居リマス、外國ノ立法例ニ付キマシテモ、同様デアリマスカラ、是ハ更ニ別ナ法律ヲ以テ此間ニ關スル規定ヲ設ケル積リデアリマス

○國務大臣(若槻禮次郎君登壇)

○國務大臣(若槻禮次郎君) 此間本議場ニ於テ安藤君ヨリ議事進行ノ御質問デアリマシタガ、何ノ機會デアリマシタカ、私一寸記憶ヲ失ヒマシタガ、兎ニ角御質問デアリマシタガ、此勞働組合法案ノ事ニ付テ、其際ニ私が答辯ヲ致シタコトニ付テ、只今其言葉ヲ取ッテ御質問ニナリマシタ、略、同様に法案ヲ出シタト云フ略、デハナイ、同一ノ法案デアル故ニ略、ト云フ言葉ガ利カナイ、ソレヲ略、ト言フタノガ惡イト云フ御質問デアッタヤウデアリマス、一ツハ、如何様法案ノ趣旨ハ同様デアリマス、ソレデアリマスカラ同様ノ趣旨ノ法案ヲ出シマシタト云フ書イテアルノデアリマス、又其他ノ所ニ於テ、幾ラカノ文字ガ使ッテアルノデアリマスカラ、私ハ略、ト云フ言葉ヲ使ッタルデアル、是ハ強テ私ハ辯解スルノデアリマセス、併シ略、ト云フ言葉ガ非常ニ安藤君ノ御考ヲ刺激シタヤウデアリマス、故ニ之ダケヲ申述ベテ置キマス、ソレカラ本案ノ提出ノ遅レタコトニ付テハ、只今安達内務大臣代理カラモ甚タ遺憾デアッタト申サレ、私モ亦過日サウ申シマシタ、成ベク斯ウ云フ法案ハ早く提出シテ、十分御審議ノ期日ノアルコトガ望マシイコトデアルガ、是ガ遅レタノハ甚ダ遺憾デアリマス、併シ遅レタノニハ政府ニ於テハ相當ニ調べタ爲ニ遅レタノデアル、ソレナラバ同一趣旨ノ法案ヲ出スノニ、何デサウ云フ調査ヲシタカト云フヤウナ、御疑念モアルヤウデアリマスカ、ソレハ先程カラ安達内務大臣代理ノ述べラレマス通り、昨年提案ヲ致シテ本會ニ於テハ——委員會ニ於テ頗ル御議論ガアリ、其議論ノ一部ハ丁度安達君ノ言ハル、

如クモットモット之ヲ保守的ニシタイト云フ議論モアリマシタ、一部ハ又モット進ンダル法案ヲ制定シタイト云フコトデアリマシタ、ソレノミナラズ世間ニ於テモ今日尙ホ議論ガアルノデアリマス、現ニ安藤君ハ職業別、産業別ノ組合ハ宜クナイ、之ヲ廢メタ方ガ宜イト云フ御議論デアリマス、併ナガラ世間ニハ産業別、職業別ハ固ヨリ措イテ、其上ニ一府縣ニ限ラナケレバナラヌト云フ議論サヘモアルノデアリマス、ソレカラ又一方ニ於テハ丁度安藤君ガ此處御主張ニナッタ通り、組合ニ加入シテ居ル故ヲ以テ、雇ヲ解クト云フヤウナ契約ヲスルコトガ、本法ニ於テハ其契約ハ無効ダトナッテ居ル、併ナガラ世間ニハ契約ガ無効ダト云フダケデハ満足セヌデ、左様ナ契約ヲシタナラバ、罰金ヲ以テ之ニ制裁ヲ加ヘルノガ宜イト云フ議論サヘモアルノデアル、ソレマデノ議論ガアルカト思ヘバ、一方ニ於テハ此十四條、即チ組合ニ加入シタル故ヲ以テ雇ヲ解クト云フコトハ、其契約ノ無効デアルト云フ規定サヘモ進ミ過ギテ居ルノデアルカラ、是ハ止メテ貫ヒタイト云フ希望モアルノデアリマス、ソレ故ニ同ジ勞働組合法ニ對シテモ、一方ニ於ケル希望ト他ノ一方ニ於ケル希望ハ、甚ダ懸隔ガアルノデアリマス、其間ニ何トカ適當ノ調和ノ途ガアルマイカ、是ガ政府ノ苦心シテ調査シタ所デアリマス、之ニ付テ時日ヲ要シマシタガ、サテ其結果、一方ニ於テハ勞働者ノ地位ノ向上ヲ圖リ、他ノ一方ニ於テハ生産ノ發達ヲ妨ゲナイト云フ、兩者ヲ調和スルガ爲ニハ、矢張昨年提出シタ勞働組合法案ガ最モ今日ノ時機ニハ適シテ居ルト云フコトヲ、最後ニ政府ハ發見シテ、意思ヲ決定シテ茲ニ提出ヲシタ、斯ウ云フ次第デアリマス(拍手)ソレガ爲ニ本案ノ提出ガ遅レマシタコトハ、甚ダ遺憾千萬デアリマスケレドモ、政府ガ此勞働立法ニ對シテ、誠意ヲ以テ努力シテ居ルト云フコトダケハ、茲ニ斷言シテ置キタイト存ジマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 安藤正純君

〔安藤正純君登壇〕

○安藤正純君 簡單ニモウ一應質問致シマス、安達内相代理ノ御答辯デアリマスガ、私が御質問申シタ要點ニ觸レテ居ラナイノデアリマス、昨年ノ案ト同ジヤウニシテ、改正ヲシナイ方ガ宜イト御信ジニナッテ御出シニナッタ、ダカラソレニ對スル最善ト信ズル確信ノ點ヲ御聞キ致シタイ、其點ノ論據ヲ伺ヒタイト云フノデアル、細カイ事ハ委員會ニ譲リマスガ、其點ヲ伺ヒタイト云フノデアル、サウ云フソレハ安藤君ノ議論デアッテ意見ガ違フダト云フ、意見ガ違フテモ宜イカラ、貴方ガサウト信ジテ居ル所ノ、是ガ最善ト確信スル其論據ノ一番大體ノ所ヲ此處デ明答ヲ願ヒタイノデアリマス、之ニ對スル御答辯ガナイカラ頗ル不満足デアリマス、ソレカラ二月二十八日ニ、此勞働組合法案ハ提出シタ、併シ議院デ十日間遅レテシマッタノダト僅ナ所デ議院ノ方ニ責ヲ嫁スルヤウナ御話ガアッタノデアルガ、其儘デ提出スルナラバ、何ダッテ二月二十八日迄延バシタ、モット議會ノ劈頭ニ之ヲ提出ヲシナイデ、段々遅レテシマッテ困ルト云フ、ソレダカラ之ヲ此儘通ス誠意ガ政府ニナイノデハナイカト云フコトヲ問フノデアリマス、ソレカラ基礎觀念ノ矛盾ト云フコトニ對シテハ、私ノ基礎觀念カラ見レバ、違フノダラウト言ッテ居ルガ、サウデハナイ、大體此法律ニ對スル基礎觀念ニ矛盾ガアルト云フ、提案ノ理由デハ現在ノ勞働組合ノ保護助長ト云フコトガ書イテアル、内容ハサウデナクシテ、其發達ヲ妨

○副議長(小泉又次郎君) 若槻内閣總理大臣

○副議長(小泉又次郎君) 若槻内閣總理大臣

○副議長(小泉又次郎君) 若槻内閣總理大臣

○副議長(小泉又次郎君) 若槻内閣總理大臣

○副議長(小泉又次郎君) 若槻内閣總理大臣

ダルヤウナ取締が多イカラ、其觀念ニ矛盾
ガアル、斯ウ言フテ君ル、矛盾ガナイノナ
ラナイト云フコトヲハッキリ言フテ貴ハナケ
レバ困ル、其所以言フテ貴ハナケレバ困
ルノデアリマス、ソレカラ後次官カラ御答
ガアツ團體交渉權ノコトデアリマスガ、是
ハ勞働組合法ニ直グ出スヨリハ、是ハ別ニ
單行法トシテ出シタ方ガ適當ダト考ヘル
ト、斯ウ仰シヤル、ソレハ昨年モ其通り
言フテ居ル、ソレデサウ約束シテ居ル、近
ク單行法ヲ制定スルト云フコトヲ明言シテ
約束シテ居ルノダカラ、議院ニ對スル約
束ヲシテ居ルノダカラ、此勞働組合法ヲ提
出スル際ニハ、團體交渉權ノ方ノ成行ハド
ウナツカト云フコトヲ添ヘテ言ハナケレ
バ、言責ハ濟マナイト云フコトヲ言フノデ
アル、ソレニ對シテ、ドウ云フ成行ニナッ
テ居ルカ、ソレヲハッキリ伺ヒタイノデアリ
マス、ソレカラ實施期ハ七月一日トシテモ
宜イノダガ、勅令ニ讓テ行クカラ、七月
一日デモ差支ハナイト、安達内相代理ハ仰
セニナツタ、ソレナラバ何故ハッキリ七月一
日ト書カナイ、追窮セザレバ延バセルダケ
延バシテ行カウト云フヤウナ考ガ腹ノ底ニ
横タハテ居ルコト、私ハ思フ、ソレデア
ルカラ、ソレナラバ何故其儘ニ書カシカト
云フコトヲ伺フノデアリマス、最後ニ若槻
總理大臣ノ「略」ノ辯ヲ謹聴致シマシタ、
私ハ「略」ハ辯ナドハ伺ヒタクナイ、是ハ
モット漢學者ニ行テ伺フモ宜イ、ソナ
字句ヲ伺フテ居ルノデアリナイ、總理大臣ノ
御考ガデスネ、言フコトガ此間ノ御答辯デ
ハ些トモ分テ居ラナイ、色々ノ比較研究
ヲシテソレニ手間取ツタト云フ、サウシテ兩
方ノ議論ガドツモ賛成ノ出來ルヤウナ案
ヲ出サウト思ウタカラ、調査ニ手間取ツタ
云フ、所ガ、ソレハ出シテ居ラナイ、サウ

云フ風ニ調査ハシテ居ラナイ、是デハドウ
モ一方ノ議論デ賛成ハ出來ナイト云フコト
ニナルノデアリマスカラ、其點ノ調和ハ決
シテシテハ居ラナイノデアリマス、ソレカ
ラ色々ノ議論ガアルト仰シヤルガ、ソレナ
ラ先年憲政會ガ數回此議場ニ御提出ニナ
タ勞働組合法案、之ニ對シテ如何ニ御考ニ
ナッテ居ルノデアアルカ、現ニ安達内務大臣代
理モ、先年ハ認可主義ヲ採テ居ルガ、今
度ハ届出主義ヲ採テ居ルカラ、憲政會ノ案
ヨリモ今度ハ進シテ居ルト云フコトヲ言
テ居ル、併シ憲政會ノ先年出シタ案ノ方ガ
進シテ居ル點モアル、ダカラ先年憲政會モ
提出シテ居ルノデスカラ、是等ノ點モ能ク
參酌シテ御考ニナルト云フコトガ、寧ろ政
治家トシテノ必要ナ事デハアルマイカト思
フノデアリマス、デ私ハ總理大臣カラ決シ
テ「略」ト云フヤウナコトヲ伺フテ居ルノデ
ハナイガ、御答辯ニ餘リ信義ガナイ、一時
ヲ購過スルト云フ態度ガ甚ダ面白クナイカ
ラ、其點ニ付テ注意シ、且ツ御質問ヲ申上
グタ次第デアリマス、左様御含テ願
ヒタイノデアリマス、先程申上グタ點ニ付
キマシテ、モウ一應安達内務大臣カラ御答
辯ヲ願ヒタイノデアリマス、併ナガラ唯、一
言申上グテ置ク、安達内務大臣ハ、是ハ臨
時内務大臣デ、本務デハナイノダカラ、能
ク勞働立法ナドヲ御諒解ニナラナイデモ、
是ハ致方ガナイト私ハ認メル、ダカラ貴方
ガ此所ニ再ビ出テ私ノ質問ニ對スル御答辯
ハ、恐ラクハ、貴方ガ幾ラ仰シヤツテモ、私
共トハ意見モ一致セザルノミナラズ、私ノ
意ヲ満足セシムルコトハ出來ナカラウト思
フノデアリマスカラ、再ビ私ハ壇ニ立チマ
セス、併ナガラ私ノ今申上グタコトハ十分
貴方カラ御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス
(國務大臣安達謙藏君登壇)

○國務大臣(安達謙藏君) 安藤君ノ再ビノ
御問デアリマスガ、第一自分ハ確信ノ點ヲ問
ウタ、内務大臣トシテ此法案ヲ提出スルニ
付テ確信ガアルカドウカト云フ事デアリマ
ス、無論確信ヲ御問ニナツタラ確信ガアリ
マス、ト云フコトヲ簡單ニ申上グテ外ハナイ
ノデアリマス、其根本ニ付キマシテ安藤君
ノ御見込ト、吾々ノ見込ト、根本ガ違フテ
居ル、即チ貴方ノ言ハレル基礎觀念ガ違フテ
居リマスカラ、ソレデ確信ガアレバコソ茲
ニ提案ヲシマス、確信ガナクシテ、サウシ
テ苟モ一時ヲ糊塗スル爲ニ提案スルヤウナ
コトハ萬々アリマセヌ(拍手)ソレカラ二月
二十八日出シタト云フコトニ對シテ、責
任ヲ議會ニ負ハセルヤウナ云々ト云フコト
ハ、ソナ考ハ少シモ持テ居リマセヌ、唯、
二月二十八日提案シタケレドモ、種々ノ
都合ノ爲ニ、今日マデ是ガ議事日程ニ上ラ
ナイデ、此提案ガ出來ナカッタコトヲ甚ダ
遺憾トスルト云フコトヲ申上グタノデアリ
マス、ソレカラ其基礎觀念ニ付テ、先程御
話ノ吾々ハ無論此組合法ノ内容ハ勞働組合
ノ保護助長ヲスル爲ニ提案シタノデアリマ
スカラ、提案ノ理由ニ申シマシタ此内容ト
ハ、何等ノ矛盾モナイト云フ確信ヲ持テ
居リマス、ソレカラ附則ノ七月一日ガ勅令
ヲ以テ定ムルトナツテ居リマスカラ云々ト
云フ御話デアリマスガ、是ハ七月一日ニ施
行シテモ宜シ、又假ニ申セバ都合次第デハ
六月ニ繰上グテモ宜シ、又八月ニ繰下グテ
モ宜カラウト考ヘテ居リマス、其邊ノ自由
ヲ認ムル爲ニ勅令ヲ以テ規定シタニ過ギナ
イ
○安藤正純君 再質問デスガ、極簡單デア
リマスカラ此處デ御許ヲ願ヒマス
○副議長(小泉又次郎君) 簡單ナラ許シマ
ス

○安藤正純君 只今ノ御答辯ノ基礎觀念ガ
違フト云フノハ、政府ト私ノ方トノ基礎觀
念ガ違フト云フコトヲ先刻カラ言フテ居ル
ノデアリナイ、政府ソレ自身ノ基礎觀念ニ於
テ、理由精神ト、ソレカラ内容規定ト、其
間ガ基礎觀念ニ於テ茲ニ衝突矛盾ガアルト
云フコトヲ申上グテ居ル、ソレニ對シマシテ
貴方ノ御答ガ矛盾ヲシテ居リマスカラ、其
點ダケヲ言フテ置キマス、是ハ幾ラ此處デ
質問應答ヲ繰返シテモ盡キマセヌカラ、是
デ私ハ不満足ノ意ヲ茲ニ表明シテ此質問ヲ
打切りマス
(猪野毛利榮君登壇)
○猪野毛利榮君 今日本ガ世界的ニ進シ
テ行クニハ、ドウシテモ私共ハ内ニ普通選舉
ト、モウ一ツハ勞働立法ノ完成ヲ圖フテ行
カナクチャナラヌト云フコトヲツクヅク考
ヘテ居ラナイデアリマスガ、本當ニ言ハバ
普通選舉ト共ニ勞働組合法ハ相違シテ提
出スベキ性質ノモノデアアル、今日遲レタノ
ハ是ハ已ムヲ得マセヌガ、併シ遲レテモ宜
シ、完全ナモノナラバ吾々ハ多少遲レテ
モ宜シイノデアリマスガ、憲政會ガ大正九
年カラ此問題ヲ黨ノ政務調査會デ論議サ
レテ、大正十年ニ僥々今ノ安達内相代理
外數氏ノ名前ニ依テ提案ヲサレテ居ルヤ
ウニ考ヘテ居ル、二三回出シテ居ルノデア
リマスガ、其出シテ居ル案ノ内容ノ中ニ、
勞働組合法トシテ其精神トスベキ、其骨
子トスベキ聯合體ヲ、安達君ノ提案デハ之
ヲ認メ、現ニ憲政會ガ出シタアノ案ノ二十
六條ニハアルノデアアル、社會ガ段々進歩シ
テ行キ、政府ガ官民共ニ研究ヲサレテ、サ
ウシテ此社會ノ實情ニ副ウタ所ノ進歩シタ
ル意見ガ現ハレルカト思フタラ、數年前ヨリ
ハ退歩致シテ居ル、勞働者ニハ非常ナ不便
デ、資本金ノ喜ブ企業家ノ喜ブト云フ案、

サウ云フ内容ノモノガ出サレタト云フコトハ、頗ル私ハ遺憾ニ思フノデアル、而シテ今若槻總理大臣、及ビ安達臨時内相ノ意見ヲ承リマス、總理大臣ハ官僚上リダカラソレデ宜イニシタ所デ、安達君ハは何トシテモ生拔キノ政黨ノ出身デアルガ故ニ、今少シク勞働問題ニ理解ガアルカト吾々ハ期待シテ居タルノデアル、昨年ヨリ今日マデ延バシタ其間ニ、憲政會ト政府トガ力ヲ協セテ、少シク案ヲ練テ、成程日本ハ勞働立法ニ付テハ世界ノ文明國ノ中ニ於テ一番遅レテ居ルガ、遅カタクモ斯ノ如キ立派ナモノガ出来タト言ハレラゲノモノガ出来ルカト思ヒマシタ所、豈圖ランヤ今回出サレタル案ハ實ニ羊頭狗肉ノ組合法デアル、而シテ安達君ノ説カレコトヲ聽キ、若槻君ノ言ハレコトヲ聽ケバ、是ハ全ク工業俱樂部ナドデ、資本家ガ寄ッテ話ヲスルヤウナ工合ノ意味ノ答辯デアル、安達君ハ隅ノ細カイトニ付テハ分ラヌカモ知レヌケレドモ、セメテ其言ヲ通ジテ、安達君ノ思想ガ成程此多數勞働者ニ理解ガアルト云フコトガ現ハレナクテハ、吾々承知スルコトハ出来ヌノデアル、苟モ安達君ガ先ノ演説デ申サレタ如ク、即チ組合ノ利益或ハ向上或ハ之ヲ伸張サセルト云フヤウナコト、一國ノ産業ノ大發展ヲナサントスルナラバ、資本ト企業ト、サウシテ勞働ノ三ツガ相鼎立ヲシテ、共ニ進ンデ行カナクテハ、其國ノ勞働能率ハ上ラズ、其國ノ産業ト云フモノハ發展ヲシナイノデアル、政府ニ於キマシテハ企業家デアルトカ、或ハ資本家ノ爲ニ利益デアル法律ハ毎年澤山出シテ居ルノデアルケレドモ、此三ツガ鼎立スベキ勞働者ニ都合ノ好イ所ノ勞働條件ノ改善、維持向上、發展ニ關スルヤウナ案ト云フヤウナモノハ、今マデ一向ニ出サナイ、出シ

タ所ノモノヲ見レバ、斯ノ如キ杜撰ナルモノデアル、此意味ニ於テ私ハ頗ル失望致シタノデアリマス、ソコデ安達君ニ一ツドウシテモ聽カナクテバナラヌコトガアル、安達君ガ言ハレタノハ聯合體ハ法人格ト認メルコトガ出来ヌト云フ、是ガ安達君ノ根本觀念デアル、組合其モノガ惡クナイナラバ、之ヲ聯合シタモノガ何故惡イカ、此一點デアル、惡クナイナラバ何故之ヲ法人格トシテ認メナイノデアルカ、是ハ吾々ノ頗ル疑問トスル所デアル、惟フニ安達君ノ思想ハ、大多數ノ者ガ團結スレバ是ハイカヌト云フ思想ノ現レデアル、今日ノ暴壓ナル大資本家、大企業家ニ對シテ其日ニ働カナクチャ食ヘヌ勞働者ノ之ニ對スル唯一ノ武器ハ何デアル、即チ弱キナガラモ多數團結シテ暴壓ナル企業家、資本家ニ對抗スルニハ、聯合多數ノ力デナクテハナラヌノデアル、此力ガ認メラレナカタクタト云フコトニナッテ來テハ、麝香カラ香ヲ抜イタヤウナモノニナリハシマセヌカ、此點ヲ本氣デ安達君ニ聽キタイ、ドウモ安達君ハ資本企業ニ付テハ理解ガアルカモ知レナイガ、勞働ノ方ニ付テハ一向理解ガナイヤウニ考ヘラレル、吾々ヲ失望落膽サセタ所以ハ、一ニ此處ニアルノデアリマス、若シ安達君ノ言フヤウナコトヲシテ、此組合ノ法人格ヲ認メヌト云フコトニナツタナラバ、ドウデアル、必ズ此認メタル組合ト、認メナイ組合トノ間ニ葛藤ヲ生ズル、サウシテ認メラレタ所ノ組合ハ、政府ノ御用ヲスル、認メラレナイ所ノ組合ト云フモノハ、繼子扱ヒデアル、茲ニ即チ階級戰爭ガ起リ、社會ハ不安ヲ來スルノデアル、現ニ英國ナドニ於キマシテモ千八百七十一年ニハ既ニ之ヲ認メテシマッタノデハアリマセヌカ、最早數十年經ツ、佛蘭西ニ於テモサウデアル、千八百八十四年ニ

ハ聯合ノ組合法ハ之ヲ認メナカッタガ爲ニ、佛蘭西ニ於テハ産業界デハ非常ニ大騒動ガ起タノデアル、サウシテ政府ガ困テ其結果千九百二十年ニ之ヲ認メテ、今日ノ狀態ニナッテ、ヤット安定ヲ得タノデアル、之ヲ一體安達君ハ何ト見ラレルノカ、吾々ハ此勞働組合法ヲ政府ガ出シテモ、其骨子タル所デアッテ此骨拔ニシタモノヲ出シテハ、何等勞働者ノ爲ニナラナイト云フコトヲ確信スルモノデアル、勞働組合法ト言ヘバ立派デアルケレドモ、句ダケハ立派デアッテモイカヌ、噲ンデ見レバ其味ガ出テ來ナケレバカヌ、噲ンデ見レバ其味ガ惡イデハアリマセヌカ、論ヨリ證據、内容ニ一々立入ッテ御覽ナサイ、何處ニ勞働者ガ噲ンテ勞働者ノ滋養分ニナル所ガアルカ、句ニミ捉ハル、所ノ實ニ虛偽ノ法案デアルト云フコトヲ、諸君ト共ニ私ハ遺憾ニ思フノデアル、更ニ私ハ安達君ニ今一ツ簡單ナ所ヲ尋ネテ見タイ、先程此團體交渉權ニ付テ不得要領ノ答辯ガアリマシタガ、是ハ私ハ議論ガアルケレドモ繰返サズニ置キマセウ、之ニ伴フ團體契約權、何故斯ノ契約權ヲ確立シテ置カヌノデアルカ、個人々々ノ勞働者ガ、個人デ以テ資本主ト契約スル上云フコトデハイカヌ、團體デ以テ資本主ト契約スル、是ニ於テ初メテ偉力ガアルノデアル、而シテ此場合ニ於キマシテモ、此團體契約ヲ拒ンダ時ニ於キマシテハ、資本主ヲ罰スル、企業主ヲ罰スルト云フ所ノカアル最後ノ斷案ガ、其處ニ現ハレテ居ナケレバナラヌト思フノデアル、然ルニ此點ハ何等ナイ、骨拔ニナッテ居ルト云フ一ツノ理由ハ此ニ存シテ居ルノデアリマス、是ハ團體交渉權ヲ規定スル時ニ、單行法トシテ出サレルト云フコトヲ、屢言ハレマシタケレドモ、政府ノ言フ所ノ約束ハ、吾々餘リ信用ガ出来ナイ、政府ノ言フ約束

ト云フモノハ、考慮ト云フコトデアル若槻總理大臣ノ言ハレル考慮ト云フコトハ、屢社會風教ノ上ニ於テモ、總テノ上ニ於テモ、誤解ヲ來シ、色々ナル惡結果ヲ來シテ居ルノデアリマスカラ、後日出スト云フ此言ハ、吾々ハ信用スルコトガ出来ヌ、此處ニ提出シタ時ニ初メテ之ヲ信用スルノデアル、此勞働組合法ニ於テハ、團體契約權ノ確立ヲ規定スルコトハ、何トシテモ大切ナ事デアル、勞働組合法ハ出來タケレドモ、之ニ團體契約權ガナカタクタト云フコトハ、離ル、水ト魚ノ離ルコトガ出來ヌ所ノ關係性ナノデアル、何故ニ之ヲ遲ラシテ出スノデアルカ、是ハ同時ニ出サナケレバナラヌ、恰モ鳥ノ兩翼ノ如キモノデアル、昨年右ノ方ノ翼ガ出來テ、二三年遅レテ左ノ翼ガ出來テモ、其鳥ガ飛ブ上ニ於テ活動ニ不便ヲ生ズルデハアリマセヌカ、之ヲ完全ナル鳥ト云フコトガ出來ヌト同様ニ、勞働組合法ニ於テモ大缺陷ノ在所ノ内容デアルト、私ハ確信致スノデアル、此點ニ付テ安達内相代理ハ私ト感ジテ同ジクスルコトガ出來ナイノカ否ヤ、更ニ今一ツ私ハ尋ネテ置キタイ、安達君ノ申サレタ中ニ、斯ウ云フコトヲ言ウテ居ル、經濟的地位ノ向上、地位ノ改善ト云フコトデアル、完全ナル經濟的地位ノ向上改善ヲ致スノニハ、ドウシテモ此勞働組合ニ即チ營利の行爲ヲ施行ウテ、サウシテ之ニ政治行動ヲ許サナクチャナラヌノデアル、政治行動ヲ離レテ眞ニ此目的ヲ達スルコトハ出來ヌ、從テ營利の行爲ト云フコトハドウシテモ離レルコトガ出來ヌノデアル、即チ此企業家ニ對シテ、關フ時ニ於テ、組合ガ金ガ無イ時ニ絶エズ破レテシマフノデアル、其破レル爲ニ卑怯ナル所ノ「サボタージ」ヲヤルト云フコトニナ

ル、或ハ切崩サレト云フコトニナル、是ハ金ガ缺乏シテ居ルカラデア、シテ見レバ此勞働組合ハ、平生ニ於テ絶エズ營利的行爲ヲヤシテ、或ハ印刷業ヲヤルカ、或ハ鐵工業ヲ許シテ、其腕ニ覺ノアル者ガ寄テサウシテ自前デ以テ利益ヲ擧ゲテ行クト云フコトヲヤルノデナクテハナラヌト思フノデア、而シテ又一面ニ於テ新聞紙ヲ發行シテ、サウシテ一面ニ於テハ、勞働者ノ欲スル所ノ政治的ノ要求ヲ満足セシムルト云フコトモ必要デア、即チ普通選舉ノ獲得デアルトカ云フヤウナコトハ、眞先ニ勞働者ガ叫ンデ立ツベキモノデア、斯ウ云フコトヲ組合ニ許サヌト云フコトハ、是ガ勞働組合ノ活動ヲ十分ニシ、機能ヲ十分ナラシムル所以デナカラウト私ハ思フノデア、然ルニ此組合ニ於テハ、此内容ヲ禁ジテ居ルノデアアリマセヌカ、恰モ口ヲ緘シテ物ヲ言ヘ、手足ヲ縛リテ走レト云フガ如キモノデアアリマセヌカ、出来ナイコトヲ、政府ノ方ニ於テ言フテ居ルノデアアリマセヌカ、ダカラ是ハ有名無實ノ即チ外形ニノミ現ハレタ所ノ組合デア、是ガ私共ノ疑ノ所以デア、政府ノ所見如何デアリマスルカ、曩ニモ一寸ヒマシタガ、公認非公認ト云フコトハ、安達サンノ方カラ言出シタコトデア、是ハ實ニ此法案ニ伴ウテ將來大問題ヲ起ス所ノ因ニナツテ居ルト思フノデア、今マデ出来テ居ル所ノ五百ノ團體、三十万ニ近イ員數ノ者ガ、今日政府ノ言フガ如キ組合法案ノ型ニ當嵌ルコトヲ喜ブヤ否ヤ、若シ喜バズシテ之ニ加入セナカッタラバドウスル、加入セナカッタナラバ繼子デア、是ガ繼子ト本子、政黨ニ於ケル所ノ選舉ノ時ニ、公認非公認ノ争ガ起キテ、地方ノ地盤ニ龜裂ヲ來スガ如キコトニナル、何ガ故ニ政府ハ此勞働組合ノ

自分ノ言フコトヲ聽ク奴、自分ガ指導スルニ都合ガ好イ奴ハ之ヲ公認トシ、然ラザル一ツノ型ニ箱ヲヌ者ハ、之ヲ非公認トシテ抛ゲテ置クノデアアリマスルカ、此差別待遇ノ精神ハ、私共ニ分ラヌノデア、何ガ故ニ一視同仁ノ態度ヲ執ラヌ、開放主義ヲ執ラヌカト云フコトヲ、私ハ疑フノデアリマス、現ニ今マデ國際勞働會議ニ出シテ居タ所ノ彼ノ勞働代表ノ如キハ、今日ノ規定ニ當嵌ラヌ所ノ、即チ此非公認ノ團體カラ出シタノデアアリマセヌカ、將來ニ於テ以前ハ非公認カラ出シタガ、今度ハ公認デナクテハ外國へ出サヌト云フヤウナコトニナタ時ニ於テハ、必ズ私ハ茲ニ一ツ騷動ガ持上グルト考ヘテ居ルノデアリマス、又安達内相ハ、届出ニ依ルモノハ認可主義ヨリハ進歩シタモノナリト云ハレマシタガ、今日ノ届出主義ナルモノハ、認可主義ト大シタ違ハナイノデア、何トナレバ此内容ヲ見テ御覽ナサイ、或ハ會計、人員、役員ナゾト、斯ウ云フコトヲ一々報告スルノデア、斯ウ云フコトガ官ノ方ニ知レタ時ニ於テハ、直ニ是ガ企業家ノ方ニ知レタ時ニ於テハ、從來ノ例ニ依リマスルト、官吏ノ方ト企業家ノ方ト云フモノハ、直ニ聯絡ガ付イテ來テ、恰モ兄弟分ノヤウニナツテ居ル、私共ハ從來ノ例ヲ言フノデア、今後ハサウ云フコトハナイト云フコトハ、何ヲ以テ斷言ガ出来ルカト思フノデアリマス、況ヤ資本家ニ對立シテ、サウシテ「ストライキ」ヲ起シタ時ニ於テ、政府ガ勝手ニ内容ヲ調査スル、人員、會計、或ハ諸々ノ點ヲ皆調べ、之ヲ資本家企業家ニ知ラセタ時ニ於テハ、如何デア、即チ戰ニ於ケル此方ノ秘密ヲ、敵ニ政府ノ手ヲ通ジテ授ケルヤウナモノデアリマセヌカ、コレデハ勞働組合ガ敗北ヲスルコトハ、分リ切タコトデア、斯

ウ云フ點ヲ考ヘナクテハイカヌノデア、勞働者ノ爲ニ拊ヘタ所ノ法律デア、ナラバデス、今一ツ安達内相代理ニ伺ヒタイノハ、實ニ安達サンハ、臍ニ落チヌコトヲ先キ仰シヤラレタ、此加入權ノ確立ノコトヲ安達君ガ問ハレタ時ニ、組合員デア、ルガ故ニ之ヲ雇ハナイトカ、組合ニ入ッテ居ルカラ、解雇スルコトヲ得ズト云フヤウナ規定ダケデハイカヌト云フヤウナコトヲ言ハレマシタガ之ニハ刑罰ヲ直ニ科サナケレバイカヌノデア、何トナレバ是ハ結局裁判ニナル所ノ問題デア、今日ノ勞働者、組合員等ハ裁判ナドハ出来ルモノデハナイ、資本家ハ何年掛テモ、第三審マデ行ッテ戦フコトガ出来ルノデア、併ナガラ勞働者ハ其日々々働カナケレバ食ヘナイ者デア、故ニ、資本家ニ對シテ裁判ヲスル、斯ウ云フコトハ容易ニ爲シ得ナイノデア、斯ウ云フ點ニ付テモ安達サント吾々トハ非常ニ感ヲ異ニ致シテ居ルノデアリマス、今一ツ伺ヒテ置キタイコトガアル、政府ハ確實ニ同盟罷業權ヲ勞働者ノ爲ニ認ムルヤ否ヤト云フ點デア、先ニモ申シマシタ如ク、力強キ官憲ト緣故ノアル所ノ企業家ニ對抗シテ、勞働者ガ、勞働條件ノ改善、勞働者ノ利益ヲ主張スル唯一ノ方法ハ「ストライキ」ヲ措イテハ他ニナイノデア、此權利ヲ政府ガ確實ニ認メルカドウカト云フコトデア、從來ノ日本ノ官憲ノ頭、或ハ警察犯處罰令トカ何トカ云フモノデハ、斯ウ云フヤウナコトハ、一ツノ罪惡ト見テ、直ニ引括シテ居ルノデア、此點ニ於テ政府ハ如何ナル基礎觀念ヲ持ッテ居ルカト云フコトデア、若シ政府ガ確實ニ此同盟罷業權ト云フモノヲ認メルノナラバ、此條文ニ在ル所ノ前段ノ如キモノハ、是ハ引抜イテ文句ノ上ニ現サナクテモ宜シイノデア、サ

ウシテ今度ハアベコベニ文句ノ上ニ「ストライキ」ニ依ッテ生ジタル損害ヲ組合又ハ組合員、若クハ組合ノ役員ニ賠償ヲ請求スルコトヲ得ズト、何故ニ此最後ノ止メヲ此所ニ押シテ置カヌノデア、勞働組合ニ對シテハ止メヲ押スケレドモ、企業家ニ對シテ、企業家ガ暴壓的行爲ヲスルコトニ向ッテ何等頂門ノ一針ヲ食ハシテ置カヌ、此點モ私ハ伺ヒタイノデアリマス、甚ダ長クナリマシタガ、最後ニ私ハ最も重要ナル點ヲ一ツダケ伺ヒテ置キテ終リ度イノデア、ソレハ即チ今日勞働組合及勞働者ノ最も苦痛トシテ居ル所ノ、官憲ノ不當干涉ニ關スル一件デア、此點ニ於テ現政府ハ此法案ニ現レタル所ヲ見レバ、實ニ驚入ッタルコトヲ言ウテ居ル、此十七條、十八條、十九條ノ所ヲ御覽ナサイ、此點ヲ能ク見マスルト、地方長官ニ決議ノ取消權ヲ許スト云フコトガ書イテアル、又行政官廳ガ規約變更ノ命令權ヲ行フト云フコトモ規定シテアル、又内務大臣ガ解散命令權ヲ行フト云フコトモ規定シテアル、何ガ故ニ斯ウ云フコトヲ勞働組合法ニ規定スルカ、斯ウ云フコトヲ此所ニ規定セズトモ、今日勞働者トカ或ハ民衆ヲ取締ル所ノ法律ハ、二重ニモ三重ニモ適用シ切レナイ程今日ハ施行サレテ居ルデアアリマセヌカ、何ガ故ニ勞働者ノ爲ニスル所ノ此勞働組合法ニ、斯ノ如キ官憲ノ不當干涉ヲ爲シ得ル規定ヲ故ラ作ッタカト云フ點デアリマス、今日ノ地方長官ヲ安達サンハ何ト見テオキデニナルカ知リマセヌケレドモ、實ニ地方ニ行クト危イ、地方官バカリデハナイ、地方ニ於ケル檢事ノ頭、甚シキニ至テハ裁判官ノ頭モ、餘程考ヘナケレバナラヌ點ガアルト思フノデア、況ヤ縣知事、警察部長ナドノ頭ト云フモノハ、全ク人民ハ取

締ルモノナリ、勞働者ノ如キモノガ多數寄
リ集テ資本家ニ交渉スルガ如キハ罪惡
ナリト云フ、此根本觀念ヲ今日有シテ居ル狀
態デアル、然ルニ是等ノモノニ向テ、決議
ノ取消權ヲ與フルト云フヤウナコトハ何事
デアルカ、取消サナケレバナラヌヤウナ決
議ナラバ、不法ナルモノデアル、是ハ此所
ニ別ニ規定ヲセズトモ、當然是ハ無効デハ
アリマセヌカ、行政官廳ガ規約變更ヲ命令
スル、實ニ驚人ヲ所ノ命令權デハアリマセ
ヌカ、況ヤ此内務大臣ガ解散ノ命令權ヲ持
ツト云フガ如キハ、實ニ是ハ恐ルベキ條項デ
アルト考ヘルノデアリマス、即チ團體ニ對
シテノ解散命令權ト云フモノハ、一ツノ爆
裂彈デハアリマセヌカ、勞働組合ニ對スル
内務大臣ノ解散命令權ハ、是ハ一ツノ死刑
ノ宣告デハアリマセヌカ、安達サンハ之ヲ
何ト考ヘテオキデニナルノデアリマス、

トカ云フガ如キ、斯ウ云フヤウナ場合ニ悉
ク適用致シテ居ルノデアル、然ルニ一方ニ
勞働組合法ニ於テハ、此恐ルベキ内務大臣
ノ解散命令權、或ハ行政官廳又ハ地方官ニ
規約ノ變更ヲ命ジ、或ハ取消サシメルト云
フ權限ヲ持タシテ置クト共ニ、何ガ故ニ勞
働ト最モ離レベカラザル關係ヲ持テ居ル
違警罪、警察犯處罰令ニ、此危險ナル條項
ノアルコトヲ顧ミナカッタノデアアルカ、此點
ヲ私ハ安達内相ニ承リタイノデアリマス、
時間ガアリマセヌカヲ簡單ニ申シタ次第デ
アリマス(拍手)

〔國務大臣安達謙藏君登壇〕

○國務大臣(安達謙藏君) 猪野毛君ハ御質

私ハ今日ノ澤山ノ法規ヲ見ル時ニ、戰慄ヲ
禁ジ得ナイ、或ハ今日佛蘭西ノ革命ノ事ヲ
考ヘ、或ハ露西亞ナドガノ最後ヲ遂ゲタ
時ニ於テ、矢張斯ノ如キ間違タル官憲ガ
不當干涉ヲヤッタト云フコトガ、與テ力ガ
アツタト云フコトハ、私ガ、茲ニ申サズト
モ、既ニ明ナル事デアリマス、然ルニドウ
デアリマス、地方ニ於キマシテハ實ニ斯
ウ云フ事ガアルデハアリマセヌカ、岐阜縣、
埼玉縣、香川縣、熊本、三重、福岡、群馬、
岡山、佐賀、山口、島根、福井、宮崎、德
島、是等ノ諸縣ニ於ケル所ノ違警罪、警察
犯處罰令ノ如キモノデアルガ、是ハ今日如
何ナル事ヲ爲シテ居ルカト云ヒマス、
或ハ故ナク他人ニ面會ヲ強要シタル者
ハドウトカ、他人ノ業務ヲ妨害シタル者
ドウトカ、他人ノ身邊ニ立塞ガリ、追從シ
タル者ハドウデアルトカ、或ハ紛爭ニ際シ
テ、多數連行シテ交渉シタ時ハドウデア

問ノ初メニ方リマシテ、此勞働組合法ト普
通選舉ノ事ヲ結付ケテ御話ニナリマシタ
ガ、吾々ハ御承知ノ通り普通選舉モ多年唱
道致シテ居リマス、此勞働組合法ヲモ
成ベク早く制定シタイト云フ希望ヲ持
居、タノデアリマス、吾々ハ時代ノ進運ニ
伴ヒマシテ、矢張勞働者ノ地位ノ向上改善
ヲ企圖シタイノデアリマス、去リナガラ先
ニモ申シマシタ通り、我國ノ産業上ニ極端
ナル變動ヲ起スヤウナ事ニナリ、サウシテ
必シモ勞働者ノ地位ノ改善ニハナラナイト
思フ、所ガソレハ日本ノ産業ヲ破壊スル虞
ガアルカラ、其處ノ調和ト云フコトヲ絶エ
ズ考ヘテ、茲ニ、最善ノ事ヲシナケレバナ
ラヌト云フコトガ、吾々ノ勞働立法ノ基礎
觀念デアリマス(拍手)ソレデ安達君ハ政黨
出身ダカラ勞働者ニ理解ヲ有シテ居ラネバ
ナラヌ、是ハ御尋ノ通り私ハ理解ヲ有シテ
居ル積リデアリマス、勞働者ニ對スル理解
ヲ有スルト同時ニ、我國ノ産業ノ發達ヲ大
イニ圖リタイ、此二ツノ思想ヲ矛盾セシメ
ズ、撞着セシメズシテ、之ヲ並ビ行ウテ行
クト云フコトガ私ノ考デアリマス、出來得

ルダケ勞働者ニ便利ヲ與ヘ、其生活ノ改善ト
云フヤウナコトニ努メル積リデアリマスガ、
同時ニ産業ノ發達ヲ圖リタイ、斯ウ云フ事
ヲ考ヘテ居ルト云フコトヲ申上ゲテ置キマ
ス、ソレカラ組合ヲ認メラレタモノハ政府
ノ御用ニナル、組合ニ認メラレナイモノハ
反對ニナルト云フガ如キ御言葉デアリマシ
タガ、勞働組合法ニ依テ之ヲ認メラル、組
合モ、亦此組合法ニ依ラザル所ノ組合モ、
是ガ政府ノ反對トカ御用トカ云フヤウナコ
トハ全然アリマセヌ、サウ云フ政治的ノ意
味トハ、マルデ根本ガ違テ居リマシテ、サ
ウ云フ政治的ノ考ノ上ニ超越シテ、唯、單
ニ勞働者ノ改善發展ヲ圖ル爲ニ作タ法律
デアリマス、此組合法ニ依ル爲ニ政府ノ御
用ニナルトカ、認メナイカラ反對ニナルト
云フヤウナコトハ、萬々アリマセヌノデア
リマス、ソレデ聯合組合ヲ認メザリシ理由
ニ付キマシテハ、曩ニ山口君ニモ安藤君ニ
モ御話致シマシタ通りデアッテ、何時デモ同
ジコトヲ繰返スニ過ギナイノデアリマス
ガ、吾々ハ今日ノ境遇ト致シマシテハ、茲
ニ個人ヲ單位トスル所ノ組合、而モ其組合
ハ同一又ハ類似ノ職業別、或ハ産業別ノ個
人ヲ單位トスル所ノ勞働組合ヲ認メテ、サ
ウシテ組合ノ聯合ハ實際ニ於テ行ハレル、
ソレハ貴方ノ御話ノ通りニ、勢ハナルカモ
知レマセヌ、又將來ニ於キマシテハ、其點
ニ付テ餘程考慮スル必要ガアルト考ヘマス
ルケレドモ、只今ニ於キマシテハ、吾々ハ
法人資格ヲ與ヘナイト云フコトニ過ギナイ
ト云フコトヲ繰返シテ御話シテ置キマス、
罰則ノ事、是モ先ニ御答シタト同ジコトデ
アリマシテ、資本家ヲシテ雇傭ノ意思表示
ヲ無効トスルト云フ事位デハ弱イ、雇傭ノ
意思表示ヲシタナラバ、相當之ニ加フルニ
刑罰ヲ以テセヨト云フコトノ御希望デアリ

マスガ、ソレハ私ハ今日ノ我國ノ狀態ニ於
テハ、餘リニ苛酷ナコトデアルト考ヘマ
ス、唯、其資本家ガ雇傭ノ意思表示ヲシタ
ノヲ、ソレヲ無効ト認メルト云フコトデ、
十分勞働者ヲ保護スル意味ニナルト私ハ確
信致シマス、ソレカラ團體契約及交渉權ノ
事ニ付キマシテデアリマスガ、是ハ先ニ私
モ御答ヲシ、政府委員カラモ御答シマシタ
ガ、他ノ法律ヲ以テ規定スルト云フ考デア
リマスガ、ソレハ昨年モ言ヒナガラ、尙ホ
尙ホ遷延シテ居ル、政府ノ言フ事ハ信用ガ
出來ナイ、政府ノ約束ハ當ニナラナイト云
フ御言葉ガアタヤウデアリマスガ、吾々ハ
責任ヲ以テ御答ヲスルノニ、政府ノ言フコ
トハ信用ガ出來ナイト云フコトニナッタ
ソレマデマアリマス、吾々ハ飽迄確信ヲ以
テ茲ニ諸般ノ事ニ答辯ヲ致シテ居ルノデア
リマス、ソレカラ勞働組合ニ勞働的行爲ヲ
認メナイコトガ宜シクナイトカ、或ハ政治
運動ヲ許サネバ宜シクナイトカ云フコトデ
アリマスガ、勞働組合ニハ營利的ノ行爲ヲ
認メテ居リマセヌ、唯、營利以外ノ雜誌ノ
刊行トカ云フコトハ、即チ共同利益ノ保護
増進ト云フコトニ當符マリマスガ、勞働組
合ガ營利的ノ事ヲ爲シマシタナラバ、
其組合ノ財産の基礎ヲ却テ危險ナラシメ、
薄弱ナラシムルモノト思ヒマス、政治運動
ノ事モ勞働組合ガ政治運動ヲシタラ、即チ
是ハ寧ろ政黨トナッタ方ガ宜シイ、尤モ唯、
一時的ノ或ル問題ガ突發致シタ時分ニ、一
時的ノ行動ヲスルト云フコトマデモ押ヘハ
セヌグラウト考ヘマスルガ、政治的行動ヲ
スルコトハ、是ハ勞働組合ノ目的デハナイ、
此第二條ニ明白ニ列記シテアルコトガ、勞
働組合ノ目的デアリマス、此勞働組合
ニ政治的行動ヲ認メルト云フコトハ、全然
組合法ノ趣旨デアリマセヌ、決シテ組合

法ニ依ッテ、法人トシテ認メタカラ、或ハ認メナイカラト云フテ、差別的待遇ナドヲスルコトハ毛頭アリマセヌ、「ストライキ」ヲドウ見テ居ルカ、此「ストライキ」ヲ權利トシテ認メルカト云フコト、是ハ昨年モ此事ニ付テノ應答ガアッタト云フコトヲ聞イテ居リマスガ、政府ト致シマシテハ「ストライキ」ヲ權利ト認メタノニ非ズシテ、單ニ放任行爲トシテ認メテ居ルト云フコトデアリマス、ソレカラ最後ニ第十七條、第十八條、第十九條ヲ引カレマシテ、斯ルコトハ皆官憲ノ不當ナル干涉デアルト云フ御言葉デアリマシタガ、吾々ハ決シテ之ヲ不當ナル干涉ト認メテ、此條文ヲ作タノデハアリマセヌ、是ハ一方ニ労働者ノ地位ノ改善又ハ其利益ヲ保護スルト同時ニ、相當ノ取締ヲスルト云フコトハ當然ナコトデアリマス、公益ヲ害スルト認メタ時トカ、或ハ組合規約ガ法令ニ違反シタ時、安寧秩序ヲ紊リタル場合、斯ウ云フ時ニハ其變更ヲ命ズルトカ、或ハ取消ヲ命ズルトカ、或ハ解散ヲ命ズルトカ云フコトハ、當然ナ事ト考ヘ考ヘテ居リマセヌ、或ハ佛蘭西、或ハ露國等ノ極端ナル御話ガアリマスレドモ、私ハ此法規ハ、サウ云フ我國ニ忌ハシキ所ノ思想ヲ挑發スルトカ、忌ハシキ所ノ行動ヲ國民ニ起サシムルト云フヤウナ分子ハ、決シテ含ンデ居ラナイト考ヘマス、又我國ノ國民性ハ、サウ云フ只今猪野毛君ノ御質問ノヤウナコトハ、將來萬々懸念ハナイト云フコトヲ附加ヘテ申シテ置キマス

○猪野毛利榮君 簡單デアリマスカラ此席デ一寸一言致シタイト思ヒマス、安達内相代理ノ仰シヤルコトハ成程一應御尤ナ點モアリマスレドモ、最早閣下ニ列セラルヤウナ六十ヲ越シタ人ト吾々ノ如キ是カラ

社會民衆ヲ率キテ立タウト云フ者トハ、年齡、思想、地位ノ上ニ非常ナ階段ガアラウト思フノデアリマス、デスカラ斯ウ云フ點ニ付テハ議論ニナリマスカラ餘リ私ハ言ヒマセヌ、私共六十歳ニナッテ安達サンノ居ル地位ニ達スルナラバ、或ハ安達サンノ言フヤウナコトヲ言フカモ知レヌ、是ハ議論ニナルカラ私ハ言ハヌガ、唯一言安達サンハソレデ宜シイガ、此法律ヲ大體拵ヘラレタ者ハ、主トシテ長岡社會局長デアルカラ、此處デハ安達サントハ最早質問應答ハヤリマセヌ、委員會デ確カリヤリタイト思ヒマスガ、唯、茲ニ一寸注意ヲシテ置キタイ、安達サンハ斯ウ云フコトヲ言ウテ居ル、労働組合ガ政治的行爲トカ、或ハ營利的行爲ヲヤルベキ性質ノモノデハナイト云フコトニ付テハ、餘程安達サンノ組合ニ付テノ基礎觀念ガ違フテ居ル、吾々ハ之ヲ目的トシテヤルノデハナイケレドモ、向上、發展、維持改善ヲヤルニハ、ドウシテモ前提トシテ吾々ハヤラナクテハナラヌ、吾々ガ飯ヲ食フヤウナモノデアアル、食物ヲ食フノガ目的デハナイケレドモ、活動ヲシテ人間トシテノ使命ヲ果サンガ爲ニ飯ヲ食フノデアアル、此點ニ於テ安達サンハ餘程誤解ガアルヤウニ考ヘテ居ル、ソレカラ此政府ガ必ズ後日出スト云フコトヲ明言サレタケレドモ、此内閣ト云フモノハ世間ガ見テ、最早午後六時カ八時ノ内閣デアルト見テ居ル、此内閣ガ約束シテモ次ノ内閣ガ出スカ出サヌカ分ラヌ、來年ノ事ヲ云フト鬼ガ笑フト云フコトガアリマスガ、甚ダオカシナ約束デアルト思フ、内閣ガ倒レタラドウスル、右ニ翼ノアル鶏ヲ拵ヘ左ニ翼ノナイ鶏ヲ今日拵ヘルヤウナモノデアアル、來年左ノ翼ヲ拵ヘルカラト云ウテモ、造物主ガ拵ヘヌト云フ場合ニハドウシマス、ソレモ安達サン

ガ五年十年モ壽命ガアルトカ又ハ大正三十四年頃仰シヤルナラバ常識的ニ考ヘテ成程ト思ヒマスガ、是ハ實ニ私ハ安達サンノ強辯デアルト考ヘテ居ル、ソレカラ公認、非公認ニ依ッテ差別待遇ヲセヌト云フコトヲ言ヒマスガ、是モ差別待遇ヲセヌト仰シヤレバソレマデデアアルガ、ドウシテモセヌ譯ニハ行カヌ、セヌ積リデ居テモ必要ニ迫ラレテ差別待遇ヲスルコトニナルノデアアル、ソレガ人情デアアル、山ニ生エテ居ル草木ハ、捨置イテモ、花活ケニ入レタモノニハ水ヲヤル、又野山ニ飛ンデ居ル鳥ニハ餌ヲヤラヌガ、摺ヘテ來テ籠ノ中ニ入レテ置ケバ水モ餌モヤル、詰リ政府ハ籠ノ中ニ入レタル鳥ノ様ナ組合ヲ拵ルノデアルカラ、是ハ人情ノ上ニ於テ已ムヲ得ヌ次第デアルト思フ、ソレカラ又政府ノ官憲ガ不當干涉、壓迫ハヤラヌト云フヤウナ御言葉デアリマシタガ、是ハ安達サンガ、今迄野黨ノ時分、如何ニ斯ウ云フコトヲヤラレタカト云フコトハ能ク御研究ニモナリ、目撃サレテ居テツク、感ジテ居ラレルコトデアアル、是ガ政治的ニ結付クト云フコトモ能ク知ラレテ居ル筈デアアル、是ハ安達サンノ今日ノ地位トシテハ私ノ言フコトヲ直ニ茲ニ肯定スルコトハ、地位ノ上ニ於テ是ハムツカシイ次第カモ知レマセヌ、又安達サンハ濫ニ濫ニト云フコトヲ使ハレマスカ、假ヘバ營利行爲ヲ濫ニヤル、政治行爲ヲ濫ニト云フコトヲ言ヒマスレドモ、私ノ言フ濫ニト云フ意味ハ、適法ニ營利行爲ヲヤリ、適法ニ政治行爲ヲヤル、斯ウ云フノデス、強チ結社法ニ依ラナクテモ政治運動ヲヤッテ居ル者ハ、今日貴族院ノ各團體ノ如キ、何モ結社登記ヲシテ居ラヌケレドモ、ヤッテ居ルコトハ政權爭奪、政策ノ研究、主トシテ政治的行動デアアル、研究會デモ茶話會デモ交

友俱樂部デモ、皆斯ウ云フコトヲヤッテ居ル、是ハ安達サンハドウ云フ風ニ御覽ニナッテ居ルカ知ラヌガ、是ハ全ク安達サンハ一時免レノ強辯ニ類スル御答辯デアアルヤウニ私ハ考ヘラレル、何レ詳シクハ委員會デ膝ヲ突合セテ篤ク質問ヲ致シマス、成ベク吾々ノ満足スル答辯ヲ與ヘテ戴キタイト思ヒマス

○副議長(小泉又次郎君) 木暮武太夫君

(木暮武太夫君登壇)

○木暮武太夫君 我ハ只今議題トナッテ居リマス所ノ労働組合法案ニ付キマシテ、極メテ簡單ニ數點ニ付テ質問申上ゲタイノデアリマス、本案ニ對シマシテハ、昨年ハ院外ニ於キマシテ労働者ノ側ニ於テモ、企業者ノ側ニ於キマシテモ、非常ナル反動的ノ運動ヲ起シテ居リ、反響ガ大キカッタノデアリマス、然ルニ今回ハ院外ニ於キマシテ労働者兩面ニ於キマス所ノ反響ト云フモノハ、洵ニ微弱デアアルノデアリマス、併ナガラ是ハ政府ガ之ヲ餘リ遅ク御出シナッテ、去年ト同ジモノヲ御出シナッテ、之ヲ通過スルニ御誠意ガナイノデハナイカト云フコトヲ、労働者ノ方デハ呆レテ居ルシ、資本案ノ方デハ安堵シテ居ル結果ガ、院外ノ反響ノナイモノト私ハ考ヘテ居ル(拍手)カレガ故ニ此労働者側及資本案側ガ院外ニ於キマシテ、昨年ノ如クニ反響ヲ起シテ居リマセヌト云フコトハ、決シテ本案ガ重大ナラザルコトヲ裏書シテ居ルモノデハナイノデアリマス、我國ノ労働立法ノ時期ヲ畫スル上ニ於キマシテモ、本案ハ重大ナルモノデアリマスカラ、公開ノ此本會議ニ於テ相當ノ質問、應答ヲスルト云フコトガ、私ハ適切デアルト考ヘマシテ、簡單ニ質問シタイ次第デアリマス、先ヅ第一ニ御伺シタイコトハ、昨年ノ議會ニ於キマシテモ、本案ガ資

勞働者ノ側カラモ反對ヲ受ケテ居ル、是ガ即チ本案ガ公正ナル所以ナリト云フコトヲ御辯明ニナシテ居ルノデアリマス、又只今安達代理内務大臣ノ仰シヤル言葉ニ依リテモ、二ツノ流れガアツテ、サウシテ勞資兩方カラ反對サレテ居ルト云フコトヲ以テ、本案ノ公正ナル所以ヲ裏書スルニ足ルト云フ御言葉デアアルノデアリマス、併ナガラ斯ウ考ヘテ參リマシタナラバ、此勞働者保護法ト云フモノハ、保護サルベキ所ノ勞働者側カラモ反對サレ、一方此勞働者ガ一ツノ分子トシテ構成シテ居ル産業界カラモ反對サレト致シマシタナラバ、ドツチニモ利益ノナイ、無用ノ法案デアルト云フコトヲ政府ガ御證明ニナシタモノト考ヘテ宜シカラウト思フノデアリマス、私ハ此點ニ付キマシテハ極ク簡單ニ、而モ率直ニ、此兩方カラ反對サレテ居ルト云フコトガ公正ダト云フコトデハ、勞働者ヲ保護スル、或ハ又只今御心配ニナシテ此法案ヲ出スト共ニ産業界トノ調和ヲ破ラナイヤウニスルト云フコトノ政府ノ御趣旨ト云フモノハ、立ツマイト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、此點ヲ先ヅ第一ニ伺フテ置キタイ、第二ニ伺フテ置キタイコトハ、此勞働組合法ヲ立案致スニ當リマシテ、我國ノ産業經濟ノ發達消長ト云フコトニ付キマシテ、十分ニ御考慮ニ相成タデアラウカ、ドウカト云フコトヲ伺ヒタイノデアリマス、御承知ノ通りニ勞働者ノ自助ノ手段ニ依リマシテ、勞働條件ノ改善維持ヲ圖ラント致シマスナラバ、勢ヒ賃銀ノ騰貴ト云フコトハ免レナイノデアリマス、我國ノ從來ノ經濟、我國ノ從來ノ産業界ガ資本ニ於テ乏シク、或ハ天然資源ニ於テ乏シイノヲ、人道的ニ見テハ、洵ニ申譯ノ無イコトデアリマスガ、此勞働者ノ賃銀ノ低イト云フ點ニ於テ、國際經濟戰爭ノ場

裡ニ於テ幾分カ勝テ居、タト云フコトハ、是ハドナタモ御覽ニナルコトデアアル、然ルニ勞働者ノ生活、或ハ勞働條件ノ維持改善ヲスル爲ニハ、賃銀ノ増率ト云フコトヲ前提ト致シマセテ結果ガ、此所デ我が産業界ニ取リマシテハ一大脅威トナルト云フコトハ、是ハ企業者側ノ言フ所デアリマス、若モ政府ガ此勞働組合法案ト云フモノニ依リテ勞働者ヲ保護シテモ、賃銀ノ増加ト云フコトニハ相成ラヌカラ、産業ニハ關係ガ無イト云フ若シ御答デアリマスルナラバ、斯ノ如キ勞働組合法ト云フモノハ、何等勞働條件ノ維持改善ニハ效果ガ無イト云フ結論ニ到達スルノデアアル、此勞働條件ノ改善維持ヲ圖ル上ニハ、必ズヤ其所ニ賃銀ノ増加ト云フコトニ相成、テ參ラナケレバナラナイノデアリマス、サウ考ヘテ參リマスルト、從來人道的ニハ洵ニ申譯ノ無イ事デアアルガ、勞銀ノ低イトニ依リテ辛ウジテ外國ト、資本ノ缺乏、或ハ天然資源ノ缺乏ト云フモノヲ、補テ來タ所ノ日本ノ産業ト云フモノ、上ニ大改革ヲ施サナケレバナラス、此方ヲ先ヅヤツテサウシテ、勞銀ノ増加ト云フモノト相俟テ、資本家ノ方モ企業家ノ方モ、仕事ヲシテ行ク勞働者ノ條件モ亦改善シテ行クト云フヤウナ方法ヲ取ラナケレバナラヌト考ヘル、此點ヲドウ云フ風ニ御考ニナシテ居ルカヲ第二ニ伺フノデアリマス、第三ニ御同致シマスルコトハ、何故ニ此勞働立法、勞働組合法ナドヲ作リマス場合ニ、勞働立法ノ調査會ト云フヤウナ權威アル組織ヲ作ラナイカ、其モノニ依リテ此法案ヲ得ナカタト云フコトヲ御同致シタイノデアリマス、御承知ノ通りニ政府ニ於キマシテハ小作法ニ付テモ、或ハ金融制度改善ニ付キマシテモ、立派ナル權威アル人達ヲ集メテ、金融制度調査會ト

云フヤウナモノヲ拵ヘテ、サウシテ銀行局デ立案シタモノヲ之ニ掛ケル、サウシテ茲ニ色々ニ按排致シタモノヲ、更ニ議會ニ出スヤウニ致シテ居ルガ、此勞働組合法ニ限リマシテハ、社會局デ之ヲ立案シテ、更ニ行政調査會ニ、昨年御説明ノ通りニ御掛ケニナシタモノデアルト云フコトヲ私共ハ聞イテ居リマスガ、此勞働者ノ地位ト云フモノガ、産業界ニ及ボス所ノ影響ノ大キイトヲ考ヘ、サウシテ立派ナ勞働者ノ利益ヲ代表スル人モ、或ハ僱主ノ利益ヲ代表スル方モ、或ハ識者モ、學者モ、或ハ貴衆兩院議員ノヤウナ人ヲ集メテ、サウシテ勞資協調ノ目的ヲ達スルヤウナ、茲ニ成案ヲ得ルト云フコトガ、此統一セル勞働立法ヲ爲ス場合ニ於テハ、洵ニ私ハ適當デアルト信ズル者デアリマス、之ヲ致サズシテ唯、社會局ノ案、而モソレヲ行政調査會トシマス、能率ノ増進デアルトカ、或ハ脈絡ヲ取ルト云フヤウナ目的ノ行政調査會ニ掛ケタダケデ以テ此重大ナル法律案ヲ作ルト云フコトハ、洵ニ將來ノ勞働立法ヲ統制スル上ニ於キマシテモ遺憾デアルト私ハ考ヘテ居ル、其點ヲ伺ヒマス、ソレカラ最後ニ私ハ伺ヒタイコトハ、政府ガ勞働問題ヲ解決スルニ當リマシテ、先程安達内務大臣臨時代理ノ御意見ニ依リマスルト、勞働者ノ自助ノ手段ニ依ルコトヲ一ツ、更ニ國家ガ勞働者保護ノ立法ニ依ルコトガ二ツ、兩々相俟テ、勞働者保護ノ解決ヲ致シタイト云フ御考デアルヤウデアアル、然ラバ此勞働問題ヲ解決致スニ當リマシテ、對象物トスルモノハ何所ニ限ルカト云フコトヲ内務大臣代理ニ伺ヒタイノデアリマス、此勞働組合法ニ於キマシテモ、昨年伺フ所ニ依ルト、筋肉勞働ダケデアアル、併ナガラ勞働問題ト云フモノ、起ルノハ、是ハドナタモ御承知ノ通

リニ、今日ノ如ク經緯ハ資本主義ニ據テ行カラ、緯絲ハ自由競争ニ據テ行カウトシテ居ル今日ノ經濟組織ノ發達ノ結果ガ即チ何時マデ經緯テモ頭ノ上ラナイ一ツノクラスヲ作タト云フコトニ考ヘテ行クナラバ、勞働問題ノ解決ノ最上ノ策ハ、唯、筋肉勞働者ニ限ルト云フコトハ、聊カ以テ勞働問題解決ノ万全ヲ缺イタモノデアナイカト思ヒマス、此點ハ如何デアリマスガ、以上ノ點ニ付キマシテ御同致シマス

○國務大臣(安達謙藏君) 只今本暮君ハ此法案ガ茲ニ上程セラレタニ付テ、社會デハ、勞働者側モ、又資本家側モ鎮靜シテ居ル、ソレハ此法案ガ通過ノ見込ガナイカラ斯ウシテ居ルノデアナイカト云フヤウナ冒頭ノ御尋ガアツテ、而シテ兩方ヨリ、即チ勞働者ノ方カラモ、資本家ノ側カラモ反對シテ居ル所ノ此法案ニ依リテ、勞働者ヲ保護スルコトノ目的ガ達セラレルト云フヤウナ御趣意ト聽取リマシタガ、成程茲ニ申シマシタ通り、此法案ニ付キマシテハ、勞働者ノ多數モ之ニ直ニ満足ノ意ヲ表シテハ居ラヌカモ知レマセヌ、又資本家ノ側ニ於キマシテモ、モウ少シ保守、守舊ノ考ヲスレバ、此條文ノ中ノ第十二條ノ如キ、或ハ十四條ノ如キハ、無イコトヲ資本家側ハ希望シテ居ルデアラウト思フノデアリマス、是ガ我國ニ於ケル所ノ勞働者側ト、資本家側ノ意思ニ相反スル所デアアル、併シ吾々ハ強チ勞働者側ノ意思ヲ全然酌取テ立法スルト云フコトハ、今日ノ我國ノ國情ガ許サヌト考ヘマス、極端ナル一種ノ理想ト申シマセウカ、極端ニ去タ所ノ考ハ吾々ハ採用シテ居ラヌノデアリマス、ソレデ先刻モ申シマシタ通り、雙方ノ主張ノ中間ヲ取テ、即チ中庸ヲ取テ居

ルノガ、即チ此法案ノ精神デアリマスカラ、雙方カラ満足ヲ得ラヌカモ知レマセヌ、併シ吾々ハ苟モ政治家トシテ、所信ヲ遂行スル場合ニ於キマシテハ、多少難難ガアリマシテモ、ソレヲ排除シナケレバナリマセヌ、或ハ國民ノ一部ニ於キマシテ、不満足ノ意思ヲ表示致シマシテモ、吾々ガ之ヲ斯クシタガ、今日ノ我國ニ適合スル所ノ、最も適當ナル所ノ措置デアルト固ク信ジタ以上ハ、ソレヲ以テ遂行スル外ハナイノデアリマス、雙方ノ満足ヲ買ハナクテモ、是ガ我國ノ今日ノ國情ニ對スル一番穩健ナル、一番正當ナル法案ト考ヘタ以上ハ、之ヲ以テ遂行スルト云フ考ヲ致シテ居リマス、ソレカラ此法案ヲ拵ヘルニ當テ、産業ノ發達ニ注意ヲ拂ツタカ、我國ノ産業ノ發達ノ主ナル原因ハ勞働者ノ賃銀ガ低イ、是ガ賃銀ノ安イノガ、即チ我國ガ天然資源ガ缺乏シテ居ルニ拘ラズ、是迄外國ト競争シ、國際場裡ニ若干ノ勝利ヲ占メタト云フコトモ、確ニ勞働者ノ賃銀ガ安イカラデアル、ソレデ此勞働組合法案ヲ出シテ、サウシテ勞働者ノ勞働條件ノ維持改善ヲ圖ツタナラバ、賃銀ハ増加スルダラウ、賃銀ハ増加スルデアラウ、賃銀ガ増加シタラハ直ニ我國ノ産業上ニ影響シハセヌカ、資本金ノ方ニ大變化ヲ來シハシナイカト云フ意味ノ御尋ト考ヘマス、御尤ナ御尋デアリマス、其點ニ吾々モ十分注意ヲ拂ヘバコソ斯ル勞働者ノ方面カラ不満足ヲ或ル程度マデハ買フヤウナ案ヲ出シテ居リマス、矢張アナタノ仰シヤルヤウナコトモ考慮シタ一ツデアリマスガ、吾々ハ成程茲ニ勞働條件ノ改善維持ヲ圖ル以上ハ、勞働者個人々々ノ賃銀ハ増加スルヤウナ場合ガ到來スルカモ知レヌト考ヘテ居リマス、併ナガラ同時ニ其各社ノ即チ各工場ノ能率ノ改善ヲ圖リ、會社

ノ能率ガ改善致シマスルト、勞働者個人ノ賃銀ハ高クナリマシテ、サウシテ尙ホ其會社ハ儲カテ行クノデアリマスカラ、一方ニ勞働者ノ生活ノ向上ヲ圖ルト同時ニ、會社ノ内容組織等ノ改善ヲ圖リマシテ、各會社ノ能率ノ増進ヲ圖リマシタナラバ、私ハ並ビ行ハレテ、國際場裡ニ立ッテ日本ガ相當ノ位置ヲ占メテ行クコトガ出來ルト考ヘマス、併シ其點ハ最も注意ヲ拂ハネバナリマセヌカラ、ソレデ十分考ヘテ居ルノデアリマス、之ヲ要シマスルニ御尋ノ通り資本家モ勞働者モ雙方満足シテ、サウシテ一方ニ勞働者ノ位置ノ改善發達ヲ圖ルト同時ニ、資本金ノ方モ非常ナ困難ヲセズ、各會社モ相當ノ收益ガ舉ガルヤウニシタイト云フコトヲ、切ニ希望シテ居ル次第デアリマス、ソレカラ此法案ヲ提出スルニ付テ、豫メ民間ノ有力ナ人々ト協議ヲスルヤウナコトヲ何故シナカッタカト云フ御尋デアリマス、即チ勞働組合ノ調査會ヲ造ッテ、之ヲ廣ク衆智ヲ集メテ、案ヲ拵ヘタノガ宜カッタラウ、何故シナカッタカト云フ御話デアリマスルガ、成程多數ノ人々ヲ集メテ調査會ヲ造ッタコトハゴザイマセヌケレドモガ、社會局ニ參與會議ナルモノガアリマス、其參與會議ニ列席スル十數名ノ人ガアリマス、其中ニハ學者トシテ勞働者ノ方ヲ代表スルヤウナ人モ居ラレマス、又資本金ヲ代表スルヤウナ人モ居ラレマスカラ、其十數名ノ參與會議ニ諮問致シマシテ、此法案ヲ組立テタノデアリマス、ソレカラ勞働者保護ノコトニ付テ、此組合法ハ筋肉勞働者ヲテハナイカ、其通りデアリマス、他ノ精神勞働者トカ、或ハ俸給生活ヲスル人トカ云フヤウナ人ハ含シテ居リマセヌ、併ナガラ今後社會ガ複雜ニナリマシテ、又社會ガ變化シマシタ場合ハ、其邊ニ考慮ヲ拂フ必

要ガアルカト考ヘマスガ、現在ニ於キマシテハ單ニ筋肉勞働者ダケヲ認メテ居ルノデアリマス(拍手)

〔原惣兵衛君登壇〕

○原惣兵衛君 本員ハ先ヅ(發言スル者多シ)

○副議長(小泉又次郎君) 靜肅ニ願ヒマス

○原惣兵衛君(續) 安達内務大臣代理ニ御同シタイコトガアリマスガ、本案ノ提出ハ今ヤ社會立法トシテ重大ナル問題デアルカラ、臨時内務大臣ガ御出シニナラナイデモ、承ル所ニ依レバ濱口本當ノ内務大臣ハ、病氣ガ回復シテ居ルト云フコトヲ、吾々ハ承テ居ルノデアリマス、而モ新聞ノ報ズル所ニ依レバ、宮家或ハ宮中總テヲ——シテ、病氣回復ヲ報ジテ居ル、貴方ノヤウナ御分リニナラナイ方デナクシテ、其内務大臣自ラヤラナケレバナラヌモノデアアル、然ルニ其本當ノ内務大臣ハ宮中ニ參リ、議會ニ内務大臣代理ガアル、二ツノ大臣ガアッテ院ノ内外ニ内務大臣ガアルガ如キ觀ヲ呈シテ居ルノデアアル、吾々ハ斯様ナ點ニ於テ、濱口内務大臣ハ憲法上ニ於ケル所ノ大臣ノ輔弼ノ任ヲ負ウテ居ルヤ否ヤヲ疑ハナケレバナラヌノデアアル(ヒヤ——)而モ安達代理内務大臣ハ果シテ本案ノ説明ヲ爲シ、其趣旨辯明ヲ爲シ得ルカト言ヘバ、僅ニ社會局長官ニ教テ受賣リスルニ過ギヌデハナイカ、斯ウ云フ狀態デ、而モ濱口本當ノ内務大臣ハ院內ニ這入ッテ來ナイデ、院外デ宮中——ヲスルニ至ッテハ、驚入ッタル大臣デアルト吾々ハ思ッテ居ルノデアリマス、故ニ本當ノ内務大臣ガ出ナイコトヲ吾々ハ甚ダ遺憾トスルノデアアル、

〔議長「議長」ト呼ビ發言スル者多シ〕

○副議長(小泉又次郎君) 原君一寸……

○原惣兵衛君(續) 宮中——ト云フ言葉ガ

惡ケレバ宮中ニ伺候シタト私ハ直シマス、先ヅ安達内務大臣ニ尋シタイノハ、本勞働立法ノ制定ノ趣旨ハ、勞働者並資本金兩者ヲ保護スルノデアルト、斯様ナ只今ノ御説明ヲ承クノデアリマスガ、凡ソ此勞働法規ハ全ク資本金ト勞働者トガ利益相反スル所ノ一ツノ境界ニ立ッテ居ルノデアリマス、此時ニ資本金ニ満足スルヤウニシ、勞働者ニモ満足スルヤウニスルト云フコトハ、是ハ勞働爭議調停法ノ範圍デアッテ、所謂勞働立法ノ根本ノ方針ト云フモノハナイノデアルト吾々ハ言フノデアリマス、之ニ付テ内務大臣代理ハ何處マデモ兩方共保護スルト言ハレルコトハ、抑、勞働立法ノ法規ヲ制定スル根柢ニ何等ノ基礎觀念ガナイモノデアルト、吾々ハ斷言スル者デアリマス、而シテ此勞働者ノ意義ハ非常ニ廣汎ナモノデアリ、吾々之ヲ研究シナケレバナラナイノデアリマス、昨年ノ議會ニ於テモ色質問ヲ試ミタノデアリマスガ、今又内務大臣ノ答辯ニ依リマス、主トシテ筋肉勞働者デアアル、精神勞働者ハ這入ラヌト言ハレル、而モ從來政府當局ノ説明スル所ニ依レバ、茲ニ謂フ所ノ勞働者ト云フモノハ如何ナル者ヲ言フカト云ヘバ、法律上雇傭契約ノ範圍デアアル、斯様ニ言フデ居ルノデアリマス、併ナガラ吾々ハ一部分ノ問題ヲ彼此レ言フノデハナイガ、例ヘバ車挽キ、日本ニ於ケル所ノ車夫或ハ自動車運轉手等ハ果シテ雇傭契約デ動イテ居ルノデアルカ、吾々ハ請負契約デアルト思ッテ居ルノデアアル

〔小泉副議長、議長席ヲ退キ粕谷議長復席〕

斯様ナ點ニ於テ勞働者ノ意義其モノガ明白デナイ、私ハ陸軍大臣ノ出席ヲ求メテ置イタルデアリマスガ、御出ニナッテ居ナイヤウ

デアリマス、此三十三條ニ於テ「陸海軍軍人軍屬ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ勞働組合ノ組合員ト爲ルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得」トアル、所謂茲ニ謂フ組合員トナルニハ今言ウタ十二條或ハ是等ノ規定カラ勞働者其者ト、勞働者以外ノ者モ場合ニ依リテハ勞働組合員ト認メテヤル、斯ウ云フ規定ニナク、然ラバ私が御尋シタインハ、昨年モ問題ニナツタデアリマスガ、雇傭契約ト云フ以外ニ、今言ウタ車夫デアルトカ、或ハ自動車ノ運轉手デアルトカ、或ハ芝居ノ舞臺ノ裏方ノ一同デアルトカ、斯ウ云フ連中ガ、果シテ雇傭契約デ動イテ居ルノカ、請負契約デ動イテ居ルノカ分ラナイ、若モ政府ノ説明ニ依リタナラバ、吾々ハ果シテ本當ノ筋肉勞働者デアリニ拘ラズ、是等ノ勞働組合ニ入ルコトガ出來ナクナル、此點ニ付テ如何ナル御考ガアルノデアルカ、ソレカラ三十三條ノ陸海軍軍人軍屬ニ對スル制限規定ト云フモノハ、勞働者ト云フ者ガ筋肉勞働者デアタナラバ、陸海軍軍人軍屬ト云フモノニ付テハ、禁止又ハ制限スルコトヲ得ルト云フヤウナ規定ヲ置カナクテモ、當然是ハ例外ニナツテ居ルノデアル、此條文ノ立方カラ見ルト云フト、陸海軍ノ軍人軍屬ト云フモノガ、又勞働者ニナルト云フコトガ原則デアデ、サウシテ此三十三條ニ依リ勞働組合ノ組合員トナルコトヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得ルンダ、所謂陸海軍軍人ハ皆勞働者デアルコトヲ前提ニシタ所ノ原則ニ對スル例外ガ三十三條ノ規定ニナツテ居ル、果シテ之ニ付テ勞働者ノ意義ト云フモノガ如何ナル御考デアルカ、其點ヲ先ヅ第一點ニ明白ニ願ヒタイノデアリマス（ヒヤ）其次ニ私ハ先刻内務大臣ノ御答ニ依リマス、我が同僚ガ聯合體ヲ認ムルヤ否ヤト言フタラ、法人トス

ルカセヌカノ問題デアデ、法人ニ致サイデモ事實ヲ認メルノダト仰セニナツタガ、私ニ言ハシタエ、法人ト云フモノハ、此勞働組合法ノ效果ヲ齎ス所ノ所謂勞働組合其モノノ效果デナク、私等ノ言フノハ法人ニナルカナラスト云フヨリモ、先ヅ此法人ト云フ規定ヲ取テ貫ヒタイ、斯ウ云フヤウナ規定ヲ置イテ、破産ノ管財人デアルトカ、事務所ノ設置トカ、サウ云フヤウナモノヲ徒ニヤカマシイコトヲ居ケサセ、ソレヲシナカッタナラバ五十圓以下ノ罰金ニ處スト云フ規定ガ置イテアル、法人ニスルト云フコトガ、勞働組合法ニ依ル所ノ效果アルニアラズシテ、勞働組合法ノ此立法ノ效果ハ、何所ガ勞働者ノ保護ニナルカト云ヘバ、所謂團體ガ基礎ニナル、斯ウ云フモノヲ與ヘナイデ、サウシテ法人ニシテヤル、即チ此勞働立法ノ組合法ニ於ケル唯一ノ效果デアルガ如ク言フテ居ルト云フコトハ、内務大臣代理ハ其本當ノ法律ノ御趣旨ヲ御存知ナイ、私等ハ何故ニ斯ル煩雜ナル法人ノ規定ヲ置イテ居ルノカ、之ヲ省ク意思ナキカ、此點ヲ第二ニ御説明願ヒタイノデアリマス、第三ニハ、第十九條ニ於テ斯ウ云フ規定ガアル、「勞働組合ノ行爲、安寧秩序ヲ紊リ又ハ公益ヲ害スルトキハ主務大臣ハ勞働組合ノ解散ヲ命ズルコトヲ得」トアルノデアリマス、茲ニ於ケル所ノ勞働組合ノ行爲ガ、安寧秩序ヲ紊スト云フヤウナ場合ニ於テ、之ヲ解散スルノダ、此解散權ヲ主務大臣ガ持テ居ル、然ラバ此安寧秩序ト云フコトハ果シテ如何ナル程度ノ安寧秩序デアルカ、安寧秩序ト云フ言葉ハ、例ヘバ行政權ノ警察犯處罰令ニ安寧秩序ト云フ言葉ガ幾ラモ出テ居ル、其程度ノ安寧秩序デアルノデアルカ、或ハ又治安維持法ニ於ケル所ノ我が國體ノ

變革ヲ來サシメ、或ハ私有財産制度ヲ否認スルト云フヤウナ目的、斯ウ云フ重大ナル範圍ニ於ケル所ノ所謂安寧秩序デアルカ、此安寧秩序ノ程度如何、法律上ニ於ケル見解ハ、如何ナル程度ノ見解デアルカト云フコトヲ先ヅ前提トシテ御伺シタイと思フノデアリマス、私ハ大體以上ノ點ニ付キマシテ御答辯ガアリマシテカラ、第二ノ質問ヲ續ケテ見タイと思フノデアリマス（拍手）

〔國務大臣安達謙藏君登壇〕

○國務大臣（安達謙藏君） 只今濱口内務大臣ガ病氣ガ恢復シテ居ルニ拘ラズ、何故自ラ出テ此處ニ答辯シナイカト云フ御話デアリマスガ、濱口内務大臣ノ病氣ハ恢復致シマシテ、豫後ノ靜養ニ努メテ居リマシタガ、愈快ナリマシテ、先ヅ宮中ニ天機奉伺ヲ爲シマシテ、ソレカラ多摩陵ニ參拜シ、各家家ニ向ヒマシテ、サウシテ議院ニ出席スルト云フコトニナツテ居リマス、先帝御崩御ノ折カラ、病氣ノ爲ニ内務大臣ガ...

〔發言者多シ〕

○議長（粕谷義三君） 靜肅ニ願ヒマス――

○議長（粕谷義三君） 靜肅ニ願ヒマス――

○國務大臣（安達謙藏君）（續） 缺席シテ居ルコトヲ非常ニ遺憾トシテ居ルノデアリマスカラ、不日議院ニ出席スルコトニナルデラウト思ヒマス、左様御承知ヲ願ヒマス、ソレカラ私曩ニ木暮君ニ御答致シマシタ時分ノ言葉ガ、少シ言葉ガ足りマセナカッタカ、或ハ其言葉ヲ以テ私ノ意ヲ御聽達ヒニナリマシタカ、此勞働組合法ハ勞働者及資本家雙方ノ爲ニ、雙方ヲ保護スル目的デ持ヘタカト云フヤウナ御問デアリマシタガ、サウデハナイノデアリマス、此勞働組合法ナルモノハ、單ニ勞働者ノ保護、即チ其生活狀態ノ改善、維持等ノコトヲ目的トシテ

作ラレタ法案デアリマスカラ、ソコヲ間違ナイヤウニ一言致シテ置キマス、第三十三條ノ「陸海軍軍人軍屬ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ勞働組合ノ組合員ト爲ルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得」ト云フコトニ付テノ御尋デアリマスガ、是ハ勞働者デアリマスモ、現役ニ服スル時、又ハ戰時召集ノ場合ニハ、軍ノ規律上、組合加入ヲ禁止制限スルコトヲ得ル爲ニ此法規ヲ掲ヘタノデアリマス、ソレカラ、第十九條ノ此「勞働組合ノ行爲安寧秩序ヲ紊リ又ハ公益ヲ害スルトキ」ト云フ此事デアリマスガ、是ハ矢張國家ノ治安ニ大關係アルト云フコトヲ認メタ場合ニ、主務大臣ガ解散スルコトヲ得ルノデアリマスガ、濫ニ此第十九條ヲ振舞シテ、サウシテ勞働組合ヲ解散スルヤウナコトハ萬ナナイノデアリマスカラ左様御承知ヲ願フデ置キマス（拍手）

〔原憲兵衛君登壇〕

○原憲兵衛君 私人質問シタ條項ニハ、マダ十分ニ御答ニナツテ居ナイノデアリマス、速記録ヲ見タナラバ明白ノ通り、第一ノ質問ニ對シテ内務大臣代理ハ、確ニ勞働者ノ爲ニモ宜ケレバ、或ハ、資本家ノ爲ニモ宜イヤウニスルノデアルト云フタノデアルガ、今御取消ニナルノナラ宜イカ知レマセヌケレドモ、念ノ爲ニ間違ノナイヤウニト云フコトデアリマスガ、私共ハ確ニ速記録ニ明白ニ載テ居リマス、併ナガラソレハ一方ニ勞働者保護ノ爲ニナルノダト云フコトニ御改メニナレバ、敢テ私ハ追窮シヤウトハ致シマセヌ、今言ウタ所ノ勞働者ノ意義ハ如何ナル範圍デアルカト云フ、重大ナル問題ニ對シテハ、一言モ御答辯ガアリマセヌ、只今江本司法大臣ガ御越シニナリマシタカラ、私ハ内務大臣代理ニ法律的ノモノヲ攻メルヨリモ、寧ろ江本サンヲ攻メル方ガハ

對手ニ取テ却テ宜イト思ヒマスカラ、江木君ニ御尋ヲ致シマスガ、先ツ何ノ必要ガアテ、斯ノ如キ繁雜ナル労働組合ノ此法人ノ規定ヲ置クカ、何等ノ利益ガナイノデアルト私等ハ思ウテ居ルノニ、何故之ヲ置クカ此法人ヲ置イタ利益ガ無クシテ、繁雜デ面モ労働者ノ自由ノ組合團體ヲ拵ヘテヤラナイデ、即チ十四條、十五條ノ此效果ヲ齎ラス爲メ——唯一ノ十五條デアル、此十五條ノ效果ヲ齎ラス爲ニハ、此労働組合ニ加入シナクテハナラナイ、サウ云フ時ニ於テ法人デナケレバイカヌゾト云フノデ、此繁雜ナル手續ヲ以テ括テシマハウト云フ、斯ウ云フ規定ハ、全ク労働者ノ壓迫ニコソナレ、何等ノ保護ガナイ、何所ニアルカト云フコトニ付テ、私ハ此法人ノ規定ハ削除スル所ノ意思ガナイカト云フコトヲ御尋シタイト思フノデアリマス、ソレカラ先程御尋シタ第十九條ノ安寧秩序ト云フコトハ、例ヘバ治安警察ノ此警察法規ニ依ル所ノ單純ナル安寧秩序ニ依テ、公安ヲ害スルノダカラト云テ、労働組合ガ苟モ左傾ト見タラ——

彼ノ内心實際ハ左傾ノ状態ニ在ル、右傾ノ労働組合團體デナイ、斯様ニ先ヅ睨シタシタナラバ、其時ニ於テ直ニ警察犯處罰令位ノ公安ヲ害スル状態デアッテモ、左傾ノ團體ト見タナラバ、ドン——ト主務大臣ガ解散ヲ命ズルカ、又斯ウ云フコトニナツタナラバ、所謂十九條ノ使ヒ分ケハ、將來ノ右傾左傾ノ労働團體ニ大ナル意義ヲ持來スモノト私ハ思ヒマスカラ、此安寧秩序ト云フコトハ、法律上ニ於テ如何ナル程度ノ安寧秩序デアルカ、私等ハ事實問題トシテノ安寧秩序ヲ聞クノデナクシテ、所謂法律上ノ安寧秩序、先程申シタ治安維持法案ニ於ケル所ノ團體ヲ變革スルガ如キ重大ノ關係ノアル安寧秩序ヲ指スカ、行政警察ノ治安警察令

ノ上カラ見タル此安寧秩序デアルカト云フ此二ツハ重大ノ問題デアリマスカラ、明白ナル御答辯ヲ願ヒタイト思フノデアリマス

○議長(粕谷義三君) 長岡政府委員

〔政府委員長岡隆一郎君登壇〕

○政府委員(長岡隆一郎君) 原君ハ大臣ノ答辯ヲ御要求ニナツテ居ルノデアリマシテ、私ノ答辯デハ定メシ御不満足トハ思ヒマスケレドモ(發言スル者多シ)、マア一ツ難量ヲ以テ聽イテ下サイ、第一ハ労働者ノ定義ニ付テ御質問デゴザイマシタガ、是ハ昨年モ申上デマシタヤウニ、雇傭契約ノ下ニ立ツ賃銀ヲ受クル、所謂筋肉労働者ダケヲ意味シテ居リマス、ト申シマスノハ今日所謂精神労働者、係給衣食者ノ如キハ自ラ労働者ト云フ自覺ヲ持テ居ル者ガ少イ、又所謂「サラリーメンズ、ユニオン」ハゴザイマスケレドモ、是ハ殆ド微弱デアリマシテ、世人モ係給衣食者ヲ以テ労働者ト認メテ居リマセヌ——認メテ居ラヌ者ガ多イノデアリマス、隨テ社會ノ常識ガ段々變リマシテ、係給衣食者、精神労働者ト云フヤウナ者ヲ労働者デアルト云フヤウニ社會通念ガ變リマシタトキニハ、是ハ法ニ於テ精神労働者モ労働者ト認メルヤウナ時機ガ來ルカモ知レマセヌ、併シ申上ゲル迄モナク、社會立法或ハ労働立法ト云フヤウナ事ハ、其時ノ常識、其時ノ社會通念ニ依ッテ決マルモノデアリマスカラ、今日ノ社會常識、社會通念ニ於テハ、マダ係給衣食者ヲ以テ労働者デアルト云フヤウナ域ニ達シテ居ラヌト考ヘルノデアリマス、第二ハ法人ト云フヤウナコトヲ強制スルコトハ、非常ニ組合トシテ迷惑デハナイカ、斯ウ云フヤウナ御質問デアリマシタガ、此労働組合ハ決シテ法人タルコトヲ強制シテ居リマセヌ、本法以外ニ立ッテ、労働組合ガ事實上存在スルコ

トハ自由デアリマシテ、此法人タルコトヲ希望スルモノ、即チ權利義務ノ關係ヲ明ニシタイト云フ者ハ、本法ニ依ッテ届出ヲ致シマシテ、法人トナルコトハ自由デアリマスケレドモ、法人タルコトヲ希望シナイト云フ者ハ、此労働組合法案以外ニ立ッテ事實上ノ存在ガアルト云フコトハ、決シテ否定致シマセヌ、又先程誰方カノ御質問ニアリマシタヤウナ國際労働會議ニ労働代表ヲ選出スル場合ニ於キマシテモ、本法ニ依ル労働組合以外ニ立ッテ事實上ノ労働組合ト間ニハ、差別的待遇ヲ致サナイ積リデアリマス、ソレカラ第三ハ、此法案ノ第十九條ハ、内務大臣ノ解散權ヲ認メテ居ルガ、是非非常ニ亂暴デハナイカト云フヤウナ意味ノ御質問デゴザイマシタガ、是ハ唯、法人トシテノ法の存在ヲ否認スルトキノ解散權デアリマシテ、事實上ノ解散權ハ法案ノ第十九條ニ規定シテ居リマセヌ、事實上其存在シテ居ルモノ、解散ヲ命ズルコトハ、是ハ治安警察法ニ據ラナケレバナラヌト思フテ居リマス、併ナガラ唯、労働組合法ニ依ッテ法人トシテ存在シテ居ル法の存在ヲ否認スルト云フ意味ニ於テ、十九條ノ規定ガアルノデアリマシテ、其結社自體ヲ解散セシメルコトハ、労働組合法十九條ノ以外ト御承知ヲ願ヒタイノデアリマス(拍手發言スル者多シ)

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス

○井本常作君 本案ニ對スル質疑ハ此程度ニ止メラレンコトヲ望ミマス

〔贊成「贊成」ト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 井本君ノ動議、即チ本案ノ質疑打切ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマ

ス、仍テ質疑ハ打切ニ決シマシタ——日程第二、右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○井本常作君 本案ハ議長指名、特二十八名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(粕谷義三君) 井本君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○井本常作君 日程變更ノ動議ヲ提出致シマス、即チ茲ニ政府提出、朝鮮事業公債法改正法律案、臺灣事業公債法改正法律案、關東州事業公債法改正法律案、臺灣官設鐵道用品資金會計法改正法律案ノ四案ヲ一括上程シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラレンコトヲ希望致シマス

○議長(粕谷義三君) 井本君ノ日程變更ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、即チ茲ニ朝鮮事業公債法改正法律案、臺灣事業公債法改正法律案、關東州事業公債法改正法律案、臺灣官設鐵道用品資金會計法改正法律案、右各案ヲ一括シ其ノ第一讀會ヲ續ク開キマス、委員長牧山耕藏君

朝鮮事業公債法改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 朝鮮事業公債法改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決決候此段及報告候也

昭和二年三月十日

委員長 牧山 耕藏

衆議院議長柏谷義三殿

希望條項

一政府ハ國門鐵道買收ニ付テハ昭和五年度ニ於テ行フ計畫ナルモ之ヲ變更シ昭和三年度ニ繰上ケ買收セラレムコトヲ望ム

二今回政府ノ提案ニ係ル朝鮮鐵道ノ新規計畫ハ第五十一回議會ニ於テ貴衆兩院ノ要望建議ニ比スレハ十分ナラスト雖帝國財政ノ現狀ニ鑑ミ已ムヲ得サルヲ以テ民間ノ資力ニ依リ私設鐵道ノ促進發達ヲ期セサルヘカラス依テ政府ハ之カ助長ニ付更ニ適切ナル方法ヲ講セラレムコトヲ望ム

臺灣事業公債法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一臺灣事業公債法中改正法律案(政府提出) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和二年三月十日 委員長 牧山 耕藏

衆議院議長柏谷義三殿

關東州事業公債法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一關東州事業公債法中改正法律案(政府提出) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和二年三月十日 委員長 牧山 耕藏

衆議院議長柏谷義三殿

臺灣官設鐵道用品資金會計法中改正法

律案(政府提出) 第二讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一臺灣官設鐵道用品資金會計法中改正法律案(政府提出) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和二年三月十日 委員長 牧山 耕藏

衆議院議長柏谷義三殿

〔牧山耕藏君登壇〕

○牧山耕藏君 只今上程サレマシタ朝鮮事業公債法改正法律案外三件ノ委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告致シタイト思ヒマス、本案ハ植民地ニ於ケル鐵道事業等ノ資金トシテ、約三億萬圓ニ近キ公債ノ發行ヲ承認スル重大法案デアリマスルカラ、委員會ニ於キマシテハ極メテ慎重ニ審議ヲ重ネタノデアリマス、委員會ヲ開キマスルコト十一回、速記録ハ約二百頁ヲ埋メテ居ルノデアリマス、速記録ハ第十回マデハ既ニ印刷ガ出來上テ、諸君ノ御手許ニ配付サレテアルノデアリマシテ、本日ノ午後二時ニ本案ヲ決定致シマシタカラ、經過ノ大要ハ速記録ニ譲リマシテ、結果ニ付テ大體御報告申上ゲタイト思ヒマスガ、經過ニ付キマシテハ議論ノアリマシタ點ニ付テ、極メテ簡單ニ御報告ヲ致シタイト思フノデアリマス、朝鮮事業公債法改正案ノ要旨ハ現行ノ法定額ハ三億九千三百七十三萬圓デアリマスガ、今回二億五千六百八十五萬二千五百九十圓ヲ追加シ、現行法定額ニ對スル起債餘力四千六百九十萬三千八百二十六圓ヲ差引キ、六億三千七百七十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ、又ハ是ガ繰替支辨ノ爲メ借入ヲナサントスルモノデアリマス、此公債財源ニ依リマスル使途ハ國門線、惠山線、滿浦線、東海線、

慶全線ノ新規鐵道ノ建設及ビ改良費トシテ二億三千九百餘圓並ニ朝鮮鐵道會社所屬慶南線、全南線、慶東線、全北鐵道會社所屬國門鐵道會社線、合計五線ノ私設鐵道ヲ二千六百七十六萬餘圓ヲ以テ買收スルコト云フノデアリマス、此朝鮮事業法ニ關シマシテハ、朝鮮ノ統治上幾多ノ重要ナル質問ガ現ハレタノデアリマスガ、其最モ重大ト認メマスル質問應答ノ二三ヲ簡單ニ御紹介申上ゲマスルト、委員會ニ於キマシテハ總督府ハ從來朝鮮ノ鐵道計畫トシテ咸鏡線、平元線、其他港灣等ニ對シテ重大ナル計畫ヲ立テラレ、又近クハ朝鮮ノ財務機關ノ獨立、即チ内地ト同様ノ財務機關ヲ獨立セシメテ、財務局ノ所管トスルコト云フ案ヲ議會ニ提出サレマシテ、此豫算ニ對シテハ我が帝國議會ハ滿場一致ヲ以テ協賛ヲ與ヘタノデアリマス、此案ノ通過スルヤ朝鮮總督府ニ於テハ、直ニ之ヲ放棄シテ實行サレナカッタ、斯様ナ過去ノ實績ニ顧ミテ果シテ今後十二箇年ニ亙ル所ノ八百餘哩ノ鐵道網ガ豫定ノ如ク遂行セラル、確信ヲ有スルヤト云フ質問ガ現レタノデアリマス、之ニ對シテ朝鮮總督府ノ湯淺政府委員ハ、成程朝鮮ニ於テ財政上ノ都合ニ依リ當初ノ計畫ヲ遂行スル能ハズシテ、年度ノ更改ヲ試ミタコトハアルガ、其都度議會ノ協賛ヲ經テ居ル、協賛ヲ經タルモノニ對シテハ豫定ノ通りノ進行ヲ致シテ居ル、尙ホ今回ノ鐵道計畫ニ對シテハ、此協賛ヲ經テ年度割ニ於テ十分ニ遂行スル確信ヲ持テ居ル、ト云フコトヲ言明セラレタノデアリマス、次ニハ從來歷代ノ政府ハ朝鮮ノ鐵道政策トシテ、釜山ヨリ新義州ニ到ル所ノ縱貫鐵道ヲ複線トシ、又安奉線ヲ複線トシ、サウシテ奉天ヨリ長春ニ至ル所ノ單線ヲ複線トスルコト云フコトガ、帝國國防ノ完キヲ期スル上ニ於テ、極

テ必要ナル計畫デアッテ、此計畫ヲ遂行シナケレバナラヌト云フコトヲ力説セラレテ居タルデアリマス、今回提案サレマシタ所ノ朝鮮鐵道網ノ上ヨリ見マスルト云フト、向フ十二箇年ノ間ニ於テハ此計畫ハ現レテ居ラスノデアリマス、是ハ軍部當局トモ十分ニ御相談ノ上ニ此鐵道敷設法ヲ計畫サレタノデアリカト云フ質問ニ對シマシテハ、今回ノ鐵道網ノ計畫ハ主トシテ朝鮮内地ノ産業ノ開發ニ重キヲ置イタノデアリケレドモ、尙ホ國防ノ方面ヨリ十分考慮ヲ拂ッテ、軍部當局トモ、ソレトモ交渉ヲシテ此案ヲ定メタコト云フコトデアリマシタ、次ニハ吉會鐵道ノ問題デアリマスガ、吉林ヨリ會寧ニ到ル鐵道ノ開設ハ、是ハ唯、單ニ帝國ノ利益ノミデハナイ、日支兩國ノ經濟的利益ノ増進ヲ圖ル上ニ於テモ、極メテ必要ナル鐵道デアリカラ、政府ハ支那ノ當局ト十分ニ交渉ヲ重ネテ、一日モ早く此鐵道ガ敷設サルコトヲ希望スル、此事ニ對シテ外務大臣ノ所見如何ト云フ質問ガ現ハレマシタガ、幣原外務大臣ハ此鐵道敷設ノ必要ナルコトニ付テハ諸君ト同感デアリマス、政府トシテ之ニ付テ目下直接交渉ヲ進捗セシメテハ居ナイガ、民間ノ有力者ニ依ッテ此計畫ヲ遂行サレツ、アルコトヲ聞イテ居ルト云フ意味ノ答辯デアリマシタ、次ニハ朝鮮ノ國有鐵道ノ延長敷設ト相俟ッテ、私設鐵道ノ普及促進ヲ圖ラナケレバナラヌノデアリ、此事ニ付テハ昨年ノ議會ニ於テ貴族院ニ於テモ衆議院ニ於テモ、各派聯合一致ヲ以テ政府ニ建議要望ヲシタノデアリマス、政府ハ之ニ對シテ如何ニ考ヘテ居ルカ、尙ホ朝鮮ノ私設鐵道補助法ヲ改正シテ、社債ノ制限ヲ倍額ニスルコト云フコトモ私設鐵道ノ助長ヲ圖ル一策デアリマス、此點ニ向ッテ如何ニ考ヘテ居ラレカト云フコトノ質問ニ

對シマシテ、政府ハ此事ニ付テハ法規ノ改正ヲ伴フ問題デアルガ、大ニ努力ヲスルト云フ答辯デアリマシタ、其他朝鮮ノ港灣政策、林業政策或ハ朝鮮ノ保留炭田ノ處分、水力電氣ノ許可問題等ニ付テ、幾多ノ質問應答ガアッタノデアリマスルガ、是ハ速記録ニ讓ルコトニ致シマシテ、此處ニハ御報告ヲ省略シマス、本日討論ノ前ニ當リマシテ本案ノ賛否ヲ決スル上ニ於テ極メテ重大ナル質問ガアルト云フコトデ、政友本黨ノ寺田市正君ヨリ大藏大臣ノ出席ヲ求メテ、次ノ如キ質問ガアッタノデアリマス、是ハ言葉ガ間違ヒマシテハイケマセスト思ヒマシテ、速記録ヨリ其要旨ヲ書抜イタノデアリマスルガ、寺田君ノ質問ハ今回買収スベキ朝鮮ニ於ケル私設鐵道中、圖們鐵道ハ大正八年三月齋藤總督ニ於テ二呎六吋ノ狹軌ニテ敷設ヲ許可シタルモノナルガ、政府ハ昭和五年度ニ於テ四百八十二萬餘圓ヲ以テ之ヲ買収シ、更ニ廣軌鐵道ニ改築スル爲メ四百六十六萬圓ヲ投ズル計畫トナッテ居ルガ、其買収算定ノ基礎ヲ見ルニ、建設費ハ大正十五年上半年末ニ於テ三百二十三萬四千四百三十六圓ニシテ、其益金三箇年平均額ハ三分五厘ナリ、然ルニ政府ハ買収前三箇年、即チ昭和二年、三年、四年ノ平均益金率ヲ六分四厘ニ激増スルモノト見込ミ、買収ノ日即チ昭和五年ニ於ケル建設費ヲ三百七十七萬圓ト算定シ、之ニ對シ公債額面四百八十二萬五千六百圓ヲ交付スルコト、ナシ居レリ、之ヲ昭和三年度ニ繰上ゲ法令ノ定ムル所ニ依リ、建設費以內ニ於テ買収スルコト、スレバ、同年度ニ於ケル建設費ハ三百六十八萬圓、此公債換算額四百二十六萬四千二百圓ニシテ國家ハ差引約六十六萬圓ノ利益トナルベシ此趣旨ニ依リ該鐵道ヲ昭和三年度ニ繰上ゲ買収スルヲ妥當ナリト認ム政府ノ所

見如何」ト云フ質問デアリマシタ、之ニ對シテ片岡大藏大臣ハ斯ノ如キ答辯ヲサレタノデアリマス、是ハ速記録ヨリ抜抄致シマシテ、茲ニ讀上ゲルノデアリマス「片岡大藏大臣圖們鐵道ヲ買収致シマスニ付テ年度ガ後ニナリマス、自ラ價額ガ高クナル、ソレ故ニ昭和三年度ニ之ヲ買収スルコトニナレバ、國家ニ益スル所ガ多ク、此趣旨ノ下ニ速ニ買収スル考ハナカト云フ御趣旨ト存ズルノデアリマス、承ル所ニ依ッテ考ヘマスレバ、國家ノ少シデモ良クナルコトヲ圖ルコトハ、當然考ヘナケレバナラヌコトデアリマス、ソレ故ニ政府トシテハ特別委員諸君ノ御希望ヲ篤ト考慮致シマシテ、成ベク速ニ之ヲ實行スルコトニ努メタイト思ヒマス、是ダケ御答ヲ致シマス」ト云フ答辯デアリマス、更ニ討論ニ入りマシテ、政友會ノ本田義成君ヨリ、先刻ノ片岡國務大臣ノ御聲明ハ少々聽取リ惡イ點ガアツカラ、今一應伺ヒタイト云フ意味ノ御質問ガ現ハレマシテ、片岡大藏大臣ハ更ニ斯様ナ答辯ヲサレタノデアリマス「片岡國務大臣、餘程明瞭ニシタ積リデアリマシタガ、即チ特別委員諸君ハ、此買収ヲ昭和三年度ニ行ヘバ、五年度ニ實行スルヨリハ國家ニ益スル所ガアル、ソレ故ニ早ク實行シテ欲シト云フ御趣旨ノ下ニ御質問ガアツタト思ヒマス、之ニ對シテ私ハ國家ノ益ヲ圖ルト云フコトハ、政府當局トシテ當然努メナケレバナラヌ事柄デアル、ソレ故ニ特別委員諸君ノ御希望ヲ考慮シテ、成ベク速ニ之ヲ實行スルコトニ努メタイト存ジテ居リマス、斯ウ申上ゲタノデアリマスカラ、餘程徹底シテ居ル積リデアリマス」ト云フ御答辯デアリマス、ソコデ委員會ニ於キマシテハ、片岡國務大臣ノ圖們鐵道繰上買収ニ關スル聲明ヲ信賴致シマシテ、左記二項ノ希望條

件ヲ附シテ、全會一致ヲ以テ可決致シタノデアリマス「希望條件一、政府ハ圖們鐵道買収ニ付テハ昭和五年度ニ於テ行フ計畫ナルモノヲ變更シ昭和三年度ニ繰上ゲ買収セラレンコトヲ望ム、一、今回政府ノ提案ニ係ル朝鮮鐵道ノ新規計畫ハ第五十一議會ニ於テ貴衆兩院ノ要望建議ニ比スレバ十分ナラズト雖モ鐵道財政ノ現狀ニ鑑ミ已ムヲ得ザルヲ以テ民間ノ資力ニ依リ私設鐵道ノ促進發達ヲ期セザルベカラズ仍テ政府ハ是ガ助長ニ付テ更ニ適切ナル方法ヲ講ゼラレンコトヲ望ム」次ニ臺灣事業公債法中改正法律案ニ付キマシテ、其改正ノ要旨ハ現行ノ法定額ハ一億三千三百八十八萬圓デアリマシテ、今回ノ追加額ハ千七百八十六萬七千四百圓デアリマス、此中ニ交付公債ガ、即チ鐵道ヲ買収スル爲メ發行スル所ノ交付公債ガ四百三十三萬一千四百圓含マレテ居ルノデアリマス、現行法定額ニ對スル起債餘力ガ一百四十一萬八千六百六十九圓二錢アルノデアリマシテ、差引所要額ハ一億五千二百四十八萬八千七百三十圓九十八錢デアリマシテ、實際ノ改定額ハ一億五千三百萬圓デアリマス、此公債ノ使途ハ臺北竹南間五十七哩、並ニ高尾、臺南間二十八哩八分ノ複線工事費ト、二水停車場外車埕間十八哩ノ私設鐵道買収ニ要スル經費ガ公債デ四百三十三萬四千四百圓デアリマス、尙ホ臺灣官設鐵道用品資金會計法中改正法案ハ、是ハ臺灣ニ於ケル官設鐵道事業ノ進展ニ伴ウテ、鐵道用品ノ資金ヲ増額スル爲メ、五十萬圓ヲ百萬圓トスルモノデアリマス、此兩案ハ全會一致ヲ以テ可決ヲ致シマシタ、尙ホ關東州事業公債法中改正法律案ハ、大連ニ於ケル水道擴張工事費ニ必要ナル資金ヲ公債ニ依ッテ支辨シタイト云フコトデアリマシテ、公債支辨額ハ六百四十萬圓デ

アリマス、是モ委員會ハ全會一致ヲ以テ可決シマシタ、此段御報告ヲ致シマス
○議長(粕谷義三君) 四案ニ對シテ何等發言ノ通告ハアリマセヌカラ、直ニ採決致シマス——四案ノ第二議會ヲ開クコトニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ第二議會ヲ開クコトニ決シマシタ
○井本常作君 直ニ四案ノ第二議會ヲ開キ、第三議會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス
〔贊成ト呼フ者アリ〕
○議長(粕谷義三君) 井本君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ第二議會ヲ開キ、第三議會ヲ省略シテ四件ノ議案全部ヲ議題ニ供シマス
朝鮮事業公債法改正法律案
第二議會(確定議)
臺灣事業公債法中改正法律案
第二議會(確定議)
關東州事業公債法中改正法律案
第二議會(確定議)
臺灣官設鐵道用品資金會計法中改正法律案
第二議會(確定議)
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ四案トモ委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ——次ハ日程第三及第四八種ノ議案ナルニ依リ、一括シテ議題トスルニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第三、大正十四年法律第五十一號中改正法律案、日程第四、關稅定率法中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ議題ニ供シ、其第一議會ヲ開キマス——片岡大藏大臣

第三 大正十四年法律第五十一號中改正法律案(關東州ノ生産品輸入税免除ノ件)(政府提出) 第一讀會
大正十四年法律第五十一號中改正法律案

律案

大正十四年法律第五十一號中左ノ通改正ス

第一項中「本法別表ニ掲ケルモノノ輸入税ハ之ヲ免除ス」ヲ「本法別表甲號ニ掲ケルモノノ輸入税ハ之ヲ免除シ本法別表乙號ニ掲ケルモノノ輸入税ハ關稅定率法別表輸入税表ニ依ラス本法別表乙號ニ依ル」ニ改ム

第二項中「前項ノ規定ニ依リテ輸入税ノ免除ヲ受クル物品」ヲ「前項ノ規定ノ適用ヲ受クル物品」ニ改ム

「別表」ヲ「別表」ニ改ム

別表輸入税表番號第七十二號ノ内ノ項中「綿羊毛」ヲ「細羊毛」ニ改ム

同第百五十一號ノ二ノ項中「一五二」ヲ「一五二」ニ改ム

同第百六十九號ノ項中「一六九」ヲ「一六九」ニ改ム「硫酸曹達」ノ下ニ「精製ノモノ」ヲ加フ

同第百四號ノ項ヲ削ル

同第百二十九號ノ内ノ項中「及コール」ヲ削ル

同第百七十八號ノ内ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

二八〇 黃麻纖維

同第百八十六號ノ内ノ項、第百八十八號ノ内ノ項及第三百十四號ノ内ノ項ヲ削ル

同第三百二十六號ノ内ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

三四三 別號ニ掲ケサル布帛製品
二ノ内地、朝鮮、臺灣、樺太又ハ關東州ノ生産ニ係ル綿布及關東州ノ生産ニ係ル油ヲ原料トシタルモノ

同第四百三十二號ノ内ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

四三五 別號ニ掲ケサル礦物及礦物製品

二 其ノ他
乙ノ内マグネサイト又ハドロマイトヲ主要原料トシタル建築材料(粉狀ノモノ)

同第四百四十四號ノ項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

四六二ノ二 特殊鋼
一ノ内全重量百分中クロム、タンゲステン又ハモリブデンノ重量〇・五以上ヲ含有スルモノ(關東州ニ於テ製鍊シタル塊及錠並之ヲ原料トシタル條、竿及板)

四七六ノ内ニ「ケル及コロム」ヲ含ム電氣抵抗材料(關東州ニ於テ製鍊シタル塊及錠並之ヲ原料トシタル線)

別表ニ左ノ如ク加フ

輸入税表番號	品名	單位	稅率
一一〇ノ内	大豆硬化油(關東州ノ生産ニ係ル大豆油ヲ原料トシタルモノ)	每百斤	一一・二〇
三四三	別號ニ掲ケサル布帛製品 二ノ内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ノ生産ニ係ル亞麻布(他ノ植物纖維ヲ交ヘタルモノヲ含ム)及關東州ノ生産ニ係ル油ヲ原料トシタルモノ	每百斤	二・八五

備考 從量稅率ノ單位ハ圓トス

附則 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四 關稅定率法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

關稅定率法中改正法律案

關稅定率法別表輸入税表中左ノ通改正ス

第二十二號中「一〇〇」ヲ「一八〇」ニ改ム

「四五五」ヲ「二二〇」ニ改ム

第五十三號中「二九六〇」ヲ「三六九〇」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○國務大臣(片岡直溫君) 只今議題トナリマシタ二案ニ付キマシテ説明ヲ致シマス、

政府ハ曩ニ第五十議會ノ協賛ヲ經マシテ、大正十四年法律第五十一號ヲ制定シ、一面關東州ノ産業開發ニ資スル共ニ、他面本邦物資ノ補給ヲ潤澤ナラシムルノ趣旨ニ於テ、同年六月以降關東州ノ生産ニ係ル物品ノ輸入税ヲ免除スルコト、致シタノデアリマス、而シテ爾來一年八箇月間ノ實績ニ徴シマスレバ、同法ハ漸次其目的ヲ達シツ、アルモノト認メラル、ノデアリマス、然ルニ特殊ノ物品ニ對スル本邦及關東州ノ生産並ニ需給ノ狀況等ニ鑑ミマシテ、更ニ右法律掲記ノ物品ニ對シマシテ、黃麻纖維外三種ノ物品ヲ追加致シ、且ツ大豆硬化油及布帛製品ノ一部ニ對シテ、其輸入税ヲ輕減スルノ趣旨ニ於テ特別ノ關稅ヲ課シ、以テ同法制定ノ目的ヲ達成セシムル上ニ於テ遺憾ナカラシムルヲ必要ト認メマス同時ニ、昨年ノ關稅定率法改正ノ結果條文ヲ整理スル爲メ、茲ニ本改正法律案ヲ提出致シマシタル次第デアリマス、次ニ關稅定率法改正法律案ノ提案ニ付テ説明ヲ致シマス、政府ハ過日本議會ニ關稅定率法中改正法律案ヲ提出致シマシタガ、其後關稅調查委員會ハ審議ノ結果、客年本院ニ於テ附帶希望ヲ附セラレマシタ所ノ「タピオカ」等ノ澱粉類、及「バター」等ノ關稅定率ヲ改正スルノ必要アリトノ答申ヲ致シテ參リマシタガ、政府

ニ於キマシテモ其趣旨ヲ適當ト認メマスルノデ、是等物品ノ關稅率ヲ適當ニ改正致シマス爲メ、茲ニ重ネテ關稅定率法中改正法律案ヲ提案シタ次第デアリマス、何卒兩案共御審議ノ上速ニ御協賛アラント希望致シマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 別ニ質疑ノ通告モアリマセヌ、日程第五、右各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第五 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○井本常作君 兩案ヲ一括シテ湯淺凡平君提出、營業收益稅法中改正法律案外六件ノ委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(粕谷義三君) 井本君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○井本常作君 殘餘ノ日程ハ延期セラレンコトヲ望ミマス

○議長(粕谷義三君) 井本君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(粕谷義三君) 井本君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、尙ホ御諮リ致ス事ガアリマス、木戶豐吉君病氣ニ付、三月十一日ヨリ三月二十四日マデ、請暇ノ申出ガアリマシタ、許可スルニ御異議アリマセヌカ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、尙ホ御諮リ致ス事ガアリマス、木戶豐吉君病氣ニ付、三月十一日ヨリ三月二十四日マデ、請暇ノ申出ガアリマシタ、許可スルニ御異議アリマセヌカ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、尙ホ御諮リ致ス事ガアリマス、木戶豐吉君病氣ニ付、三月十一日ヨリ三月二十四日マデ、請暇ノ申出ガアリマシタ、許可スルニ御異議アリマセヌカ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、尙ホ御諮リ致ス事ガアリマス、木戶豐吉君病氣ニ付、三月十一日ヨリ三月二十四日マデ、請暇ノ申出ガアリマシタ、許可スルニ御異議アリマセヌカ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、尙ホ御諮リ致ス事ガアリマス、木戶豐吉君病氣ニ付、三月十一日ヨリ三月二十四日マデ、請暇ノ申出ガアリマシタ、許可スルニ御異議アリマセヌカ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、尙ホ御諮リ致ス事ガアリマス、木戶豐吉君病氣ニ付、三月十一日ヨリ三月二十四日マデ、請暇ノ申出ガアリマシタ、許可スルニ御異議アリマセヌカ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、尙ホ御諮リ致ス事ガアリマス、木戶豐吉君病氣ニ付、三月十一日ヨリ三月二十四日マデ、請暇ノ申出ガアリマシタ、許可スルニ御異議アリマセヌカ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、尙ホ御諮リ致ス事ガアリマス、木戶豐吉君病氣ニ付、三月十一日ヨリ三月二十四日マデ、請暇ノ申出ガアリマシタ、許可スルニ御異議アリマセヌカ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、尙ホ御諮リ致ス事ガアリマス、木戶豐吉君病氣ニ付、三月十一日ヨリ三月二十四日マデ、請暇ノ申出ガアリマシタ、許可スルニ御異議アリマセヌカ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、尙ホ御諮リ致ス事ガアリマス、木戶豐吉君病氣ニ付、三月十一日ヨリ三月二十四日マデ、請暇ノ申出ガアリマシタ、許可スルニ御異議アリマセヌカ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、尙ホ御諮リ致ス事ガアリマス、木戶豐吉君病氣ニ付、三月十一日ヨリ三月二十四日マデ、請暇ノ申出ガアリマシタ、許可スルニ御異議アリマセヌカ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、尙ホ御諮リ致ス事ガアリマス、木戶豐吉君病氣ニ付、三月十一日ヨリ三月二十四日マデ、請暇ノ申出ガアリマシタ、許可スルニ御異議アリマセヌカ

午後五時四十二分散會

〔參照〕前號(速記録第二十二號)四八八頁武藤金吉君演說ノ終へ入ルヘキ參照

高橋委員ノ登錄稅法改正案ニ關スル
質疑ニ對スル答辯要領

一 現行登錄稅法第二條第三號ノ登錄稅
(大正十四年度分)ノ收入額如何
答 一、三三三、四八五圓

二 同 第四號同上

三 改正登錄稅法第二條第二號ノ登錄稅
ノ昭和二年收入額及計算ノ根據
如何

答 收入豫算額 一、三三三、四八五圓
計算ノ根據 大正十四年度收入額
ヲ基本トシ稅率ノ改
正ニ因リ減收ト稅率
低下ニ伴フ増收トヲ
差引シ増減ナキモノ
トシテ計算ス

四 同 第三號同上

答 收入豫算額 三、三三〇、二四六圓
計算ノ根據 大正十四年度收入額
ヨリ増與ノ稅率低下
ニ伴フ假裝賣買ノ減
少ニ因リ減收二五
九、二八八圓ヲ控除
シ其ノ殘額ノ三十五
分ノ二ヲ稅率改正ニ
因リ減稅額トシテ計
算ス

五 現行登錄稅法第三條第三號ノ登錄稅
(大正十四年度分)ノ收入額如何
答 一六七圓

六 同 第四號同上

七 改正登錄稅法第三條第二號ノ登錄稅
ノ昭和二年收入額及計算ノ根據
如何

答 豫算額 一一七圓
計算ノ根據 大正十四年度收入額
ノ十分ノ三ヲ減稅額
トシテ大正十四年
度收入額ヨリ控除算

出ス
船舶ニ付テハ稅額僅
少ナルヲ以テ增收額
ヲ計算セズ

八 同 第三號同上

答 豫算額 一七一、一四八圓
計算ノ根據 大正十四年度收入額
二十五分ノ二ヲ減稅
額トシテ大正十四
年度收入額ヨリ控除
算ス

九 相續稅法第二十三條該當ノ遺產相續
稅(大正十四年度分)ノ課稅價格別並種
別毎ノ課稅價格及稅額如何

答 大正十四年度分ノ課稅價格別並種
別毎ノ課稅價格及稅額ハ不明ニ付
參考トシテ大正十三年度分ヲ別表ノ
通り添付ス
同昭和二年收入額豫算額及計算ノ根
據如何

答 昭和二年收入額豫算額及計算ノ根
據如何

大正十四年度以前五箇年度平均課
稅價格ヲ基礎トシテ算出シタル稅額
ヨリ年賦延納見込額ヲ控除シ之二十
五年度首現在年賦延納年割額(昭和
二年度分)等ヲ加算シタルモノトス
而シテ本稅ノ收入ハ年賦延納ノ屬ス
ルモノ其ノ大部分ヲ占ムルハ例年ノ
實況ナリ今前記既定ノ年賦延納年割
額中遺產相續ニ係ルモノヲ別セハ
一、〇四二、千圓ナルモノ内二三條ニ
依ルモノト其ノ他ニ依ルモノトノ區
分不明ナルヲ以テ從テ二十三條ノミ
ノ豫算額幾何ナルヤハ不明ニ屬ス

十一 現行登錄稅法第二條第三號及第三
條第三號ノ稅率ヲ改正スル理由如何
答 現行登錄稅法第二條第三號及第三
條第三號ノ稅率ハ同法第二條第四號
及第三條第四號ノ稅率トノ間差甚タ
シキ爲メ假裝賣買ニ依リ脫稅ヲ誘致
シ易キト他面小額資產ノ贈與ニ付負
擔過重ナル嫌アルヲ以テ之ヲ相當ナ

ル間差ニ改メタルモノナリ

十二 前項稅率ノ改正ニ因リ事實ハ無償
名義ノ贈與トナルモノ之ヲ賣買ノ名義ニ
依リ登記スルモノノ登錄稅ノ通脫ヲ防
止シ得ヘシト爲ス其ノ程度並之ニ因テ
增加スヘキ登錄稅法第二條第三號及第
三條第三號ノ登錄稅額並減少スヘキ登
錄稅法第二條第四號及第三條第四號、
以上各號別ノ昭和二年收入豫算額ニ屬スル
登錄稅額如何

答 一、前項稅率ノ改正ニ因リ脫稅ヲ防止
シ得ヘキ程度ノ認定ハ甚タ困難ナル
問題ナルモ左記ノ通り第二條第三號
ノ增收額及第二條第四號ノ減收額ヲ
見積レリ
二、右ノ增收稅額
第二條第三號
增收額 三三三、三七一圓
第二條第四號
減收額 二五九、二八八圓

同
但シ船舶ニ付テハ稅額僅少ナルヲ以
テ增收額ヲ計算ナス
十三 無償名義ニ因リ不動產ノ所有權ノ
取得ニ對スル登錄稅率千分ノ六十ヨリ
千分ノ四十五ニ低減シ賣買ニ因リ不動
產ノ所有權ノ取得ニ對スル登錄稅率ヲ
千分ノ三十五ヨリ千分ノ三十三ニ低減
シ即チ現行法ニ於テハ無償名義ト賣買
ノ各登錄稅率較差千分ノ二十五ナルモ
ノヲ千分ノ二十二ナシ其ノ差ノ少トナ
ルコトニ依ツテ所謂假裝賣買ノ方途ニ
依リ登錄稅ノ通脫ヲ防止シ得ヘシト爲
スハ蓋シ之ハ一片ノ机上論ニ過キスシ
テ實際ニ於テハ仍且千分ノ十二ニ差ア
ルニ因テ依然トシテ假裝賣買ノ式ニ依
リ登錄稅ノ通脫ヲ防止スルニ由ナキモ
ノト信セラル無償名義ニ因リ船舶ノ所
有權ノ取得ト賣買ニ因リ船舶ノ所有權
ノ取得ト登錄稅ニ付テモ亦右ニ同シ右
ニ對スル當局ノ見解如何

答 無償名義ニ因リ不動產所有權ノ取
得ト賣買ニ因リ不動產所有權ノ取得
トノ稅率ノ間差大ナレハ大ナル程假
裝賣買ノ方途ニヨリ脫稅ヲ誘致スヘ
キヲ以テ其ノ誘致ノ原因タル稅率ノ
間差ヲ減少シ無償名義ニ因リ場合ノ
稅率ヲ相當ナルモノニ改正スレハ
從ツテ通脫ヲ減少スヘキモノト認ム

十四 登錄稅法第二條第三號及第三條第
三號ノ不動產又ハ船舶ノ遺言、贈與其
ノ他無償名義ニ因リ所有權ノ取得ニ對
スル登錄稅率千分ノ六十又ハ千分ノ五
十ヲ千分ノ四十五又ハ千分ノ三十五ニ
低下セシムルニ於テハ
一 相續稅法第二十三條ニ依ル相續稅
ノ賦課ニ付テハ不動產及船舶ノ課稅ノ
範圍外ト爲シタルコト即チ不動產及
船舶ノ贈與其ノ他ノ無償名義ニ因リ
所有權ノ移轉ニ付テハ比較的高率ナ
ル登錄稅ノ賦課アルニ因リト爲ス相
續稅ト登錄稅ノ間ニ於ケル連絡の課
稅ノ權衡ヲ失スルコト爲ル、況ン
ヤ相續稅ニ付テハ大正十五年ノ改正
ニ因リ其ノ遺產相續ニ對スル稅率ハ
舊ニ比シ著シク高メラレ、最高額ニ
對スルモノハ舊ノ二倍率ト爲リタル
コトヨリ之ヲ見レハ、之ニ對應セシ
ムルカ爲メハ不動產及船舶ノ贈與其
ノ他無償名義ニ因リ所有權ノ取得ニ
對スル登錄稅率亦之ヲ高上セシムル
ヲ要スルノ理ナリ、然ルニ反テ之ヲ
低下セシムルハ即チ其ノ必要ニ逆行
スルモノト認メラル

二 相續稅ノ稅率ハ家督相續及遺產相
續共ニ去ル大正十五年ノ改正ニ依リ
著シク之ヲ高上セシメタリ、之ニ反
シテ不動產又ハ船舶ノ遺言、贈與其
ノ他無償名義ニ因リ所有權ノ取得ニ
對スル登錄稅ノ稅率ヲ低下セシムル
ニ於テハ、累進率ニ依ル相續稅ノ比
較的高キ部分ノ稅率ノ適用ヲ免カル
ル目的ニ於テ不動產又ハ船舶ノ贈與
其ノ他ノ無償名義ニ因リ相續人ニ移

轉セシムルモノノ簇出スヘキハ必然ナリト信ス、例之

- 1 家督相續第一種ニ付テハ課稅價格凡ソ十五萬圓
- 2 同 第二種ニ付テハ 十萬圓
- 3 同 第三種ニ付テハ 五萬圓
- 4 遺產相續第一種ニ付テハ 五萬圓
- 5 同 第二種ニ付テハ 四萬圓
- 6 同 第三種ニ付テハ 二萬圓

ヲ超ユルモノニ付テハ、即チ其ノ相續稅ハ千分ノ四十五以上ノ高キ稅率(其ノ最高率ハ實ニ二依テ課稅セラシムルモノナルヲ以テ、其ノ相續稅ノ賦課ヲ甘シテ受クル場合ト之ヲ其ノ無償名義ニ因ル所有權ノ取得ノ登錄稅ノ負擔ニ止ムル場合トハ實ニ顯著ナル負擔ノ差違ヲ生ス、而カモ其ノ負擔ノ減免ハ相續財產ノ多額ナルニ從テ大ト爲ルノ理ナレハ即チ大資產家ニ付テ特ニ此ノ例ノ相續稅ノ通脫ヲ容易且有利ナラシムルモノトナル

三 或ハ夫レ不動産又ハ船舶ノ無償名義ニ因ル所有權ノ移轉ノ登錄稅率高キトキハ、其ノ假裝賣買ノ方式ヲ以テスル登錄稅ノ行ハルニ止ラス、

更ニ進ムテ相續財產タルヘキ不動産又ハ船舶ヲ亦假裝賣買ノ手段ニ因リ即チ相續稅ノ通脫ヲモ敢テスルモノヲ生スヘキカ如シト雖

- 1 假裝賣買ニ因ル登錄稅ノ通脫ニ付テハ本書第十三號ニ記述ノ如シ
- 2 相續財產タルヘキモノノ被相續人ト相續人ノ間ニ於ケル假裝賣買ニ依リ其ノ所有權ヲ移轉セシメ以テ相續稅ノ通脫ヲ謀ルト謂フカ如キコトハ、單ニ其ノ事柄ノ隱秘的ニシテ且ツ容易ニ行ヒ得ヘカラサルモノニ屬スルノミナラス、斯ノ如キモノニ付テハ、相續人カ當該不動産又ハ船舶ノ買得資金ヲ自ラ所持シタリト認メ得ルモノ以外ハ其ノ買得ニ要シタル資金ノ出所ヲ調査シ、若シ其ノ被相續人又ハ親族若ハ本家ノ戸主又ハ家族ヨリ給與セラレタルモノニ相當スル場合ニ於テハ即チ相續稅法第二十三條ニ依ル遺產相續稅ヲ賦課セラルヘキモノナルヲ以テ、斯ノ如キ行為ニ出ツルモノヲ殆ト皆無ナルヘシ然ルニ贈與其ノ他ノ無償名義ニ因ル所有權ノ移轉ハ親子親族間ノ行為トシテ公々然トシテ之ヲ行フコトヲ得ヘク而カモ相續稅法第二十三條ノ規定ノ適用ヲ受ケサルヲ以テ相續稅ヲ課セラルル憂ナク、即チ公然且合法的ノ相續稅ノ通脫

手段タリ得ヘシ、殊ニ其ノ相續稅率ハ之ヲ高メ、登錄稅率ハ反對ニ之ヲ低下セシムルニ於テハ倍々此ノ方途ニ依ル脫稅心ヲ刺擧シ盡シ其ノ害計リ知ルヘカラサルヲ生セム

一 答

不動産及船舶ノ贈與ニ對シ相續稅ノ登錄稅トノ連絡の課稅ヲナスコトニ付テハ現行登錄稅法モ改正案モ異ナル處ナシ而テ相續稅ノ稅率ヲ高ムルノ故ヲ以テ必ス登錄稅率ヲ引上ケサルヘカラサルノ理由ナク要ハ相續稅ト登錄稅トノ連絡の課稅ヲ適當ナラシムヘキ登錄稅率ヲ幾何ニ定ムヘキヤノ點ヲ決スレハ可ナリ

二 現行法千分ノ六十ノ稅率ハ家督相續第一種ノ課稅價格約八十萬圓ノ平均稅率ニ匹敵シ小額不動産ノ贈與ニ對シテハ負擔過重ナルト且賣買ノ稅率トノ間差大ナル爲メニ生スル假裝賣買ニ依ル脫稅ノ誘致ヲ防止スル爲メニ之ヲ千分ノ四十五ニ低下シタルモノナリ

尙相續稅ニ於テハ七年以内ノ年賦延納ノ制度アリ又相續ニ因リ不動産ヲ取得スル場合ニハ地方稅ノ課稅ナキニ贈與ニ因リ取得スルモノキハ最高千分ノ三十二ノ不動産取得稅ノ課稅ヲ受クルヲ以テ不動産ノ贈與ニ對シ相續稅ノ通脫ヲ爲スモノナキモノト認ム

三 不動産及船舶ノ贈與ニ對シ相續稅

ヲ課セスシテ登錄稅ヲ課スルハ實行上ノ必要ニ出テタルモノナリ即チ不動産及船舶ノ贈與ヲ相續稅法第二十三條中ニ包含セシメントスルモノキハ登錄稅法ニ於テ不動産及船舶ニ關スル親族間ノ贈與ト非親族間ノ贈與トノ間ニ稅率ヲ區別セサルヘカラサルモ斯クテハ登記官吏カ登記ノ申請ヲ受ケタル場合ニ於テ事實上調査困難ナルノミナラス若シ強テ之ヲ調査セシメントスルモ却テ著シク登記事務ノ進捗ヲ妨ケ權利關係ヲ不定ナラシムルノ弊ヲ生スヘキコト明ナルヲ以テ不動産及船舶ノ贈與ニ關シテハ從來登錄稅法ニ於テ課稅シ來レルモノナリ此ノ趣旨ニ於テハ改正案ニ於テモ何等異ナルコトナシ而シテ登錄稅ノ稅率カ相續稅ノ最高稅率ニ比シ低率ナル場合ニ於テハ登錄稅率ノ如何ニ拘之ヲ利用シテ相續稅ノ合法的脫稅ヲ企圖スルモノヲ生スルハ保シ難キモノト完全ニ防カントセハ登錄稅ノ稅率ヲ相續稅ノ最高率ト同一ニ爲ササルヘカラス然ルニ登錄稅ノ稅率ヲ高メルトキハ小額ナル不動産ヲ贈與スル者ノ負擔過重ヲ來スノミナラス賣買ト贈與トノ較差著シクナリ益々假裝賣買ヲ助長スルノ嫌アリ政府ハ寧ロ此ノ弊害ヲ慮リ千分ノ四十五又ハ千分ノ三十五ニ低下シタルモノナリ

大正十三年度相續稅額表(稅法第二十三條該當モノ)

種別		第一		第二		第三		合計	
人員		課稅價格		課稅價格		課稅價格		課稅價格	
稅額		稅額		稅額		稅額		稅額	
千圓以下	二七、三三八	一八、六八九	二四、四四	二二〇	八四、七八八	一、四二六	九六、八〇四	二八、九四四	一九、七四二
五千圓同	二七、三三八	一八、六八九	二四、四四	八五	一、四二六	七、六九	一、五八〇	二六、五八四	一八、七二
一萬圓同	二七、三三八	一八、六八九	二四、四四	一六	一、四二六	一、五八〇	一、五八〇	二六、五八四	一八、七二
二萬圓同	二七、三三八	一八、六八九	二四、四四	二	一、四二六	一、五八〇	一、五八〇	二六、五八四	一八、七二
三萬圓同	二七、三三八	一八、六八九	二四、四四	一	一、四二六	一、五八〇	一、五八〇	二六、五八四	一八、七二
四萬圓同	二七、三三八	一八、六八九	二四、四四	一	一、四二六	一、五八〇	一、五八〇	二六、五八四	一八、七二
五萬圓同	二七、三三八	一八、六八九	二四、四四	一	一、四二六	一、五八〇	一、五八〇	二六、五八四	一八、七二
十萬圓同	二七、三三八	一八、六八九	二四、四四	一	一、四二六	一、五八〇	一、五八〇	二六、五八四	一八、七二
十萬圓同	二七、三三八	一八、六八九	二四、四四	一	一、四二六	一、五八〇	一、五八〇	二六、五八四	一八、七二

